

筑波大学博士(言語学)学位請求論文

日本語の授受補助動詞構文に関する
日中翻訳規則の作成

譙 俊凱

2016年度

目次

凡例	iv
第1章 序章	1
0 本章の概要	1
1 研究背景	1
2 本論文の研究対象	4
3 先行研究の概観および問題点	4
4 日本語の授受補助動詞構文と対応する中国語表現についてのコーパス調査 ...	10
5 本論文の目的と意義	12
第2章 「テヤル」構文に関する日中翻訳規則.....	21
0 本章の概要	21
1 本章の研究対象	25
2 先行研究の概観および問題点	25
3 「テヤル」構文の日中翻訳に関するコーパス調査	29
4 「テヤル」構文の分類およびそれに対応する中国語の表現	31
4.1 受影者の格に注目した分類	31
4.2 受影者の確認手順	34
4.3 「ヲ」格、「ト」格で受影者を導く「テヤル」構文	35
4.4 「ニ」格で受影者を導く「テヤル」構文	38
4.4.1 必ず“給”構文に訳す場合	38
4.4.2 無標構文と“給”構文のいずれにも訳し得る場合	40
4.4.3 “給”構文に訳せない場合	43
4.5 「ノ」格で受影者を導く「テヤル」構文	44
4.5.1 無標構文と“給”構文のいずれにも訳し得る場合	44
4.5.2 必ず“給”構文に訳す場合	46
4.5.3 “給”構文に訳せない場合	50
4.6 「ノタメニ」で受影者を導く「テヤル」構文	52
4.6.1 無標構文と“給”構文のいずれにも訳し得る場合	52
4.6.2 必ず“給”構文に訳す場合	53
4.6.3 “給”構文に訳せない場合	55
4.7 「へ」格で受影者を導く「テヤル」構文	56
4.8 受影者が想定できない「テヤル」構文	58
4.9 まとめと先行研究の問題点の説明	58

5 「テヤル」構文に関する日中翻訳規則の検証と説明	63
6 本章のまとめ	68
第3章 「テクレル」構文に関する日中翻訳規則.....	73
0 本章の概要	73
1 「テクレル」構文に関する先行研究の概観と問題点	77
2 「テクレル」構文の日中翻訳に関するコーパス調査	81
3 コーパス調査の結果の分析	82
4 「テクレル」構文の分類およびそれに対応する中国語の表現	83
4.1 「テクレル」構文における受影者の格の確認手順について	83
4.2 受影者の格による訳文の整理	84
4.3 「ヲ」格で受影者を導く「テクレル」構文	89
4.3.1 “給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る場合	90
4.3.2 “給”構文に訳せない場合	91
4.4 「ト」格で受影者を導く「テクレル」構文	92
4.5 「ニ」格で受影者を導く「テクレル」構文	93
4.5.1 必ず“給”構文に訳す場合	94
4.5.2 “給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る場合	95
4.5.3 “給”構文に訳せない場合	97
4.6 「ノ」格で受影者を導く「テクレル」構文	98
4.6.1 必ず“給”構文に訳す場合	98
4.6.2 “給”構文に訳せない場合	101
4.7 「ノタメニ」で受影者を導く「テクレル」構文	102
4.7.1 必ず“給”構文に訳す場合	103
4.7.2 “給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る場合	106
4.7.3 “給”構文に訳せない場合	107
4.8 「ノカワリニ」「ニカワッテ」で受影者を導く「テクレル」構文	108
4.9 「カラ」格で受影者を導く「テクレル」構文	110
4.10 受影者が表示できない「テクレル」構文	111
5 「テクレル」構文に関する日中翻訳規則のまとめ	114
6 フローチャートについての検証	115
7 本章のまとめ	118
第4章 「テモラウ」構文に関する日中翻訳規則.....	124
0 本章の概要	124

1	「テモラウ」構文の日中対照の先行研究について	126
2	「テモラウ」構文の日中翻訳に関するコーパス調査	129
3	「テモラウ」構文の分類について	133
3.1	先行研究における「テモラウ」構文の分類	133
3.2	本章の「テモラウ」構文の分類基準についての説明	135
	A「働きかけ直接型」のパターン	135
	B「働きかけ間接型」のパターン	136
	C「直接受影型」のパターン	136
	D「間接受影型」のパターン	137
	E「他人配慮型」のパターン	137
4	各パターン「テモラウ」構文と対応する中国語の表現	138
4.1	「働きかけ直接型」の「テモラウ」構文について	139
	4.1.1 必ず“请”構文に訳す場合	140
	4.1.2 無標と“请”構文のいずれにも訳し得る場合	142
4.2	「働きかけ間接型」の「テモラウ」構文について	143
	4.2.1 無標構文のみに訳す場合	143
	4.2.2 無標構文と“请”構文のいずれにも訳し得る場合	144
	4.2.3 必ず“请”構文に訳す場合	145
4.3	「直接受影型」と「間接受影型」の「テモラウ」構文について	149
	4.3.1 「直接受影型」の「テモラウ」構文の日中翻訳について	149
	4.3.2 「間接受影型」の「テモラウ」構文の日中翻訳について	150
4.4	「他人配慮型」の「テモラウ」構文の日中翻訳について	152
4.5	「テモラウ」構文の日中翻訳規則のまとめ	153
5	「テモラウ」構文の日中翻訳フローチャートに関する検証	154
6	本章のまとめ	156
第5章 終章		159
0	本章の概要	159
1	各章の概要および本論文の結論	159
2	今後の課題	163
参考文献一覧		164
1	日本語の参考文献	164
2	中国語の参考文献	170
例文の出典		171
各章と既発表論文との関係		172

凡例

用語の記号

「 」： 本論文で用いる日本語の専門用語、引用する言葉および特別に強調する言葉はすべて「 」で示す。

“ ”： 本論文で用いる中国語の専門用語や引用する中国語の説明はすべて“ ”で示す。

用例の記号

本論文では、用例は特に断らない限り、いずれも『中日対訳コーパス』から抽出したものである。

() 用例の前の括弧に入れた番号は章ごとに改める。

() 用例の後の括弧は出典を示す。

_____ 用例・引用中の下線は(特に断らない限り)筆者によるものである。

* 用例が非文法的であることを示す。

?? 用例がかなり不自然であることを示す。

? 用例がやや不自然であるが、意味が通じる。

○ 用例が自然であることを示す。

訳文が原文の意味と違うことを示す。

用語の解釈

中訳： 『中日対訳コーパス』の中国語の訳文を指す。

訳： 先行研究における中国語、あるいは日本語の訳文を指す。

筆者訳： 本論文の筆者が訳した文を指す。

第1章 序章

0 本章の概要

本章では、本論文の研究の動機、研究方法、研究の目的と意味について説明する。従来の研究では、内省と限られた例文によって日本語の授受補助動詞「テヤル」「テクレル」と中国語の“给”および「テモラウ」と“请”との対照を行ってきた。しかし、対訳コーパス調査によって授受補助動詞と対応する“给”、“请”の割合が低いことが判明したことから、日本語と中国語との翻訳を考える上では、先行研究の結論は十分であるとは言い難い。本論文では、先行研究の成果を生かした一方、また先行研究における問題点の解決を目指す。そのうえ、日本語の授受補助動詞構文の日中翻訳規則をまとめ、翻訳のフローチャートを作成することを目的とする。

1 研究背景

日本語においては、以下の例のようにいわゆる「ヤリモライ」表現あるいは授受表現があることがよく知られている。

- (1) 私は 花子に 本を やった/あげた。
- (2) 花子は 私に 本を くれた。
- (3) 私は 花子に 本を もらった。

意味上、(1)(2)では、「私」が「花子」に、「花子」は「私」に対して、「本」というものを譲渡するとともに、「花子」「私」への一種の恩恵利益を与えることが表される。(3)においては、「私」が「花子」に働きかけて「花」を得たり、「花子」が自ら「私」に「本」を与えたりすることによって「私」が「花子」から恩恵利益を得るということが表現される。このように、(1)～(3)は「モノの授受」を表すと考えられる。構文上、(1)～(3)ではそれぞれ「やる」「くれる」「もらう」といった授受動詞が使われている。それらの授受動詞の使い分けがシステマチックになっていることは、久野(1978)の「視点制約」、寺村(1982)の「方向性」、奥津(1984)の「身内素性」などによって説明されている。

また、「やる」「くれる」「もらう」が先行動詞の「テ」形のあとに付けられると以下のように授受補助動詞構文になる。

- (4) 私は 花子に 本を 買ってやった。
- (5) 花子は 私に 本を 買ってくれた。
- (6) 私は 花子に 本を 買ってもらった。

(4)(5)は、動作主体が「本を買う」といった動作を通して、「花子」「私」に対し恩恵利益を与えることを表す。(6)では「私」は「花子」の「本を買う」といった動作から恩恵利益を得ることが読み取れる。

(1)～(6)の日本語の文に対し、中国語では、以下のように“给”、“请”などで訳されることがある。この点に注目して、これまで日本語の授受表現と“给”、“请”などとの対照研究が行われてきた。

- (1) 我给花子书。
(私は花子に本をやった/あげた)

- (2) 花子给我书。
(花子は私に本をくれた)

- (3) a 花子给我书。
(花子は私に本をくれた)
b 我从花子那儿得到书。
(私は花子に本をもらった)

- (4) 我给花子买了书。
(私は花子に本を買ってやった)

- (5) 花子给我买了书。
(花子は私に本を買ってくれた)

(6) 我请花子买了书。

(私は花子に本を買ってもらった)

(1)～(3)においては、(1)～(3)における日本語の授受動詞の視点制約に関係なく、一つの授与動詞“给”が授受動詞の「やる/あげる」「くれる」「もらう」に対応することができるため、奥津(1984)が指摘した通り、中国語は「与え動詞」が「受け動詞」より優勢な体系を持つ言語であると考えられている。(4)と(5)では、“给”は動詞ではなくて前置詞として働いているが、いずれも主語に立つ人物が非主語に立つ人物のために、“买了书”(本を買った)という意味が含まれている。(6)について、文脈によって二つの訳文がある。一つは“我请花子买了书”「私は花子さんに頼んだので、花子は本を買ってくれた」という使役受益の意味で、もう一つは“花子给我买了书”「私は花子に全く働きかけなかったが、花子は本を買ってくれた」という単純受益意味である。すなわち、(4)～(6)はいずれも恩恵利益の意味を表せると言える。そのため、日本語の授受補助動詞の機能は中国語の“给”か“请”の機能と類似点があり、日中翻訳上両者が対応するはずだと思われてきたのである。

しかし、以下の日本語の授受補助動詞文の訳文においては、中国語の“给”、“请”などの介入がいずれも認められない。

(7) 太郎は花子に会ってやった。

筆者訳：* 太郎给花子见面了。

○ 太郎见了花子。

(太郎は花子に会った)¹

(8) 友達是我的誕生日パーティーに来てくれた。

筆者訳：* 朋友给我来生日聚会。

○ 朋友来我的生日宴会。

(友達是我的誕生日パーティーに来た)

¹括弧は正訳の中国語に対する直訳である。やや不自然な日本語になる場合があることを断っておく。

(9) この雪に溶けてもらいさえすれば、春がやってくるんだけどな。

筆者訳：＊ 只要请雪融化了，春天就要来了哦。

○ 只要雪融化了，春天就要来了哦。

(この雪が溶けさえすれば、春がやってくるんだけどな)

(日本語の例文は高見・久野 2002 : 291)

このように、日中翻訳上日本語の授受補助動詞構文と“给”、“请”などの標識による中国語の有標構文とが完全に対応しているわけではない。従って、日本語を中国語に翻訳する際、日本語の授受補助動詞構文は中国語の有標構文と意味上どういう条件で対応が成立するか、またどういう原因によって対応が成立しないかが一つの研究課題になる。

2 本論文の研究対象

本論文では、日本語の授受補助動詞構文を対象とし、それに関する日中翻訳規則について考察を行う。本論文における授受補助動詞構文とは①「てやる(て遣る)」「てあげる(て上げる)」「てさしあげる(て差し上げる)」、②「てもらう(て貰う)」「ていただく(て頂く)」、③「てくれる(て呉れる)」「てくださる(て下さる)」及びそれらの活用形の授受補助動詞による構文を指す。便宜的に、本論文では、「テヤル」構文、「テモラウ」構文、「テクレル」構文でそれぞれ①②③の授受補助動詞構文を一括して表記することにする。ただし、「てくれ」「てください」「てくれないか」「てもらえないか」などの依頼のモダリティーを表す文は除外し、本論文の研究対象としないことを断っておく。

3 先行研究の概観および問題点

先行研究において、日中対照の角度から日本語の授受補助動詞構文について行われた研究はそれほど多くない。「テヤル」「テクレル」と中国語の“给”との対照研究に関しては、佐々木(1994)(2009)、楊(1994)(2009)、盧 (2000)、李(2009)の研究があった。「テモラウ」と“请”との対照については、奥津・徐(1982)、楊(1987)、王(1998)などがあった。しかし、日中翻訳上それらの対照研究の主張には説明しきれないところが多くあり、分析がまだ充分ではないと思われる。以下では先行研究の問題点について、説明を加える。

盧(2000)においては、中国語では、「NP1+給+NP2+VP+NP3」(NP1：動作主、NP2：受け手、NP3：被動者)の「給」構文に関して、「NP3 が NP2 の所有物である場合もこの受益構文になる。もっとも典型的なものは身体語彙の場合である」と指摘している。

(10) 张三给李四洗头。

訳：張さんは李さんに頭を洗ってやる。

(盧 2000 : 193)

さらに、盧(2000)は「「頭」が李四の「頭」で、张三が洗ったら、自然と「李四」へのサービスになり、「給」は李四が受益者の立場にあることを示す。NP3 が NP2 の所属物であるならば、総てこの構文になる」と述べている。

しかし、以下の例文において、体の一部に対して動作を行う「テヤル」構文は自然に成立するが、中国語の訳文は“給”構文としてはいずれも成り立たない。

(11) お子さんの足をよく見てあげましょう。(少納言)

筆者訳：○ 好好看孩子的脚。

* 好好给孩子看脚。

(12) 水に慣れてからプールデビューするという子も多いよ。ただ足場が不安定なので側で(子供の)手を引いてあげてね。(少納言)

筆者訳：○ 牵着孩子的手。

* 给孩子牵着手。

以上の例文は明らかに先行研究の主張に反しているために、体の一部に対して働きかけることを表す「テヤル」構文と“給 V”構文との対訳条件に関して、さらに検討する必要があると思われる。

佐々木(1994)は“給”受益文に対して、以下の例文を取り上げた。

(13) * 我给妈妈去了市场。

(14) * 僕は母親に市場へ行ってやった。

(○ 僕は母親のために市場へ行ってやった。)

(括弧の文は筆者による)

佐々木(1994 : 320)は「“給” 受益文の特徴として、ここで特に注目したいのは、その受益行為は受益者に対して直接働きかけるものでなければならない、という点である」と指摘し、上記の“給” 受益文が成立しない原因は自動詞的表現とは関係なく、直接受益行為ではないことにありと主張している。また、自動詞的な受益表現が必ずしも成立しないとは言えないことを説明するために、以下のような例文を取り上げている。

(15) 他给我哭了一个晚上 (彼は僕のために一晩中泣いてくれた)

(16) 我给你跑一趟吧! (ひとつ走りしてきてやろう!)

(佐々木 1994 : 321-322)

しかし、この二つの例文では、“哭”「泣く」と“跑”「走る」といった動作は受益者に直接働きかける動作であるわけではないと思われる。ここでは、直接受益行為というよりむしろ間接的な受益行為ではないかと感じられる。従って、行為の直接性によって“給”構文の成立に関する説明としては不十分であると思われる。また、取り上げた日中の例文が対応している理由にも触れていない。

楊(1994)では、前置詞としての“给”と「てあげる、てくれる」との比較の中で、「本来二項動詞(他動詞)は構文的要素として主語(動作主)のほかに目的語を取るのが普通であるが、動作主が第三者のために何らかの行為を行う場合、その第三者によって導くことも可能である。次の例文はいずれもこのパターンのものであり、受益を表す形式としては、“给”と補助動詞がもっとも対応していると言える」(楊 1994 : 118)と述べられ、以下のような例文を取り上げている。

(17) 目が醒めたときは起きていって、お茶を入れててあげることもあるけどな。

(ノルウェイの森)

訳：如果醒来了，有时候也给他泡杯茶。(戴・郭訳)

(18) 東京のことなんて何一つ知らなかったし、一人暮らしをするのも初めてだったので、親が心配してその寮を見つけてくれた。

訳：对东京还一无所知，独自生活也是初次。父母放心不下，在这里给我找了间

楊(1994)では、二項動詞によって「てあげる、てくれる」と“給”の対応する可能性を指摘しているが、対応しない場合については具体的に説明していない。『中日対訳コーパス』で調べると、同じ二項動詞である「聞く」²「待つ」「食べる」の「テヤル」構文が自然であるのに対して、対応する中国語の例文には“給”の介入が全く認められない。

- (19) いいわよ、話したいことあるんなら洗いざらい話しちゃいなさいよ。聞いてあげるから。

中訳： ○ 哪里。肚里有话要说，那就痛痛快快说彻底才好。我来听。

筆者訳：* 哪里。肚里有话要说，那就痛痛快快说彻底才好。我来给你听。

- (20) いいわよ、待ってあげる。あなたのことを信頼してるから。

中訳： ○ 那好，我等你，因为我相信你。

筆者訳：* 那好，我给你等。因为我相信你。

- (21) 魚、肉、卵、ハム、とうふ、海苔などは食べるのですが、野菜類(煮つけ、炒めもの、サラダなど)は食べてくれません。

中訳： ○ 鱼、肉、鸡蛋、火腿、紫菜等还能吃一些，而蔬菜 (不管熬的、炒的还是凉菜)则一点也不吃。

筆者訳：# 鱼、肉、鸡蛋、火腿、紫菜等还能吃一些，而蔬菜 (不管熬的、炒的还是凉菜)则一点也不给我吃。³

(19)～(21)ではいずれも誰かのために、ある動作を行うという意味が表され、さらに動詞はすべて二項動詞であるにもかかわらず、筆者訳に示すように、先行研究の指摘に反して、中国語の“給”構文に訳せない。

²この「聞く」は「尋ねる」ではなく、「聴く」であり、構文上はガ格とヲ格しかとらない二項動詞である。

³“不给我吃”と対応する日本語は「食べてさせてくれません」、原文の「食べてくれません」と異なる。

すなわち、二項動詞と共起する「テヤル」「テクレル」文がどういう場合に“給”構文と対応できるかに関して、楊(1994)の分析もさらに検討する余地があると思われる。

また、李(2009)は、先行動詞との共起関係によって日本語の「テクレル」構文と“給(我)”構文との対照を行った。中国語の“给(我)”⁴構文と「テクレル」構文との対応に関して、

「具体的なものの移動を表す対象移動動詞と発話内容移動動詞である“给(我)”構文は日本語の「テクレル」構文と対応している。また、作成動詞の場合は、受け手(話者)のために、何か具体的なものが作成動詞によって完成され、受け手(話者)が利益を取得することができるような“给”構文は日本語の「テクレル」構文と対応している。それ以外の「テクレル」構文と“给(我)”構文と対応しない」

と李(2009 : 12)は述べている。以下の例文を取り上げている。

具体的なものの移動を表す対象移動動詞の場合 :

- (22) 女儿出差上海回来, 给我买回一块手表。(《人民日报》1993)/娘は上海へ出張して、時計を買ってきてくれた。

発話内容移動動詞の場合 :

- (23) 他给我讲了许多他小时候的事。(肖华《我和张艺谋的友情和爱情》)/彼は小さい時のことをたくさん話してくれた。

作成動詞の場合 :

- (24) 她猜到了我没有吃早饭, 匆匆忙忙地给我做饭。(梁晓声《京华闻见录》)/彼女は私がまだ朝ご飯を食べていないと思って、急いで作ってくれます。

(李 2009 : 8-10)

しかし、『中日対訳コーパス』で検索すると、以下のような反例が見つかる。

⁴李(2009)によると、ここでの“我”は話し手が自分と心理的に近いとみるうちの人を指す。“我”のほかには“我们”、“(我)弟弟”などもある。

(25) 野島にもよく話しかける。梨をむいてくれる。⁵

中訳：她经常对野岛讲话，给他削梨。

(26) あの時分にはあたしの体を始終洗ってくれたじゃないの。

中訳：那时不是经常给我洗吗？

(25)(26)では、「むく」「洗う」はいずれも「対象移動動詞」「発話内容移動動詞」「作成動詞」ではなく、単純に動作を表す動詞であるにもかかわらず、「テクレル」と共起して、中国語の“给”構文と対応することができる。そのため、“给”と共起する動詞の性質に基づく李(2009)の分析は不十分であると考えられる。

奥津・徐(1982: 103)は「単なる利益的行為の取得という意味を持つ固有の表現は中国語にはないらしい」と指摘し、語彙的意味と使役表現の関連から、「テモラウ」と“请”“让”“要”などの使役形式対照を行ってきた。その他、楊(1987)、王(1998)も使役の角度から、「テモラウ」構文と“请”、“让”等の使役表現に関して比較をした。それによって日中翻訳上使役の点のみで「テモラウ」と“请”などの形式が対応すると思われがちである。

(27) 他自从借了灵芝的圆规，量角器等等东西之后，常请灵芝帮他计算题目。

(玉生は霊芝のコンパス、分度器などを借りてからというもの、ときどき数字の計算を手伝ってもらっていた。)

(奥津・徐 1982: 92)

(28) 我还欠一盅，喝完酒请大嫂热热的，酸酸的，辣辣的给咱们作三碗饭……。

(できましたら、もう一本お願いしたいですな。それから酢と胡椒をよくきかせたスープを三杯ほど用意していただきたいですな。)

(楊1987:179)

以下の『中日対照コーパス』の用例の場合、「テモラウ」が使役の意味を表すのにもかかわらず“请”構文に訳すことができない。

⁵この例文では、話し手の視点が「野島」に置かれて述べられる。即ち、「野島」は話し手の身近な人と見られ、中訳の“他”(彼)の機能は“我”(私)と同じである。

(29) いつも手紙をありがとう。直子はとても喜んで読んでいます。私も読ませても
らっています。いいわね、読んでも？

中訳：谢谢你时常来信。直子看了非常高兴。我也看了，我看也可以吧。

筆者訳：＊ 谢谢你时常来信。直子看了非常高兴。我也请你让我看了，我看也可以吧。

このように、「テモラウ」構文の日中翻訳においては、未解決の課題があり、さらに研究
する必要があると思われる。

4 日本語の授受補助動詞構文と対応する中国語表現についてのコーパス調査

これまでの研究は、主に内省によって行われてきた。しかし『中日対訳コーパス』を見
る限り、先行研究における指摘のいずれに対しても反例が見られる。そこで、日本語の「テ
ヤル」、「テクレル」、「テモラウ」構文の日中翻訳の状況について、対訳コーパス調査を行
うことで、先行研究では扱われてこなかった課題が明らかになると考える。

調査結果は以下の表の通りである。使用したコーパスは『中日対訳コーパス』であり、
以下の表で示される合計の例文数はコーパスにある「テヤル」「テクレル」「テモラウ」構
文全ての例文の合計数である。

表 1 日本語「テヤル」構文と対応する中国語の表現⁶

対応する中国語の表現	例文数	比率
なし(無標構文)	567	71.59%
给	161	20.33%
为	39	4.92%
替	16	2.02%
帮	9	1.14%
合計	792	100.00%

⁶表における中国語の表現はいずれも文であることを表す。

表 2 日本語「テクレル」構文と対応する中国語の表現

対応する中国語の表現	例文数	比率
なし(無標構文)	1187	84.48%
给	145	10.32%
为	46	3.27%
替	22	1.57%
帮	5	0.36%
合計	1405	100.00%

表 3 日本語「テモラウ」構文と対応する中国語の表現

対応する中国語の表現	例文数	比率
なし(無標構文)	412	64.28%
请	133	20.75%
让	57	8.89%
要	15	2.34%
托	9	1.40%
求	7	1.09%
叫	5	0.78%
使	3	0.47%
合計	641	100.00%

表 1 から表 3 における“给”、“为”、“替”、“帮”、“请”、“让”はいずれもそういう標識を含む構文のことを指す。本論文では、それらを“给”構文、“为”構文、“替”構文、“帮”構文、“请”構文、“让”構文と呼び、一括して授受の有標構文とも称する。以下にこれらの構文の構造を示す。

本論文では、“给”構文を三つのパターンに分類する。それぞれ「N1+给+N2+V+N3」(小红给妈妈买礼物)または「N1+V+给+N2+N3」(小红送给朋友一幅画)、「N1+V+N3+给+N2」(小红寄包裹给朋友)(N1 は動作主、N2 は人を指す名詞、V は動詞、N3 は V の直接目的語)の構造を持つ文である。さらに、“给”と V の語順によって前者の「N1+给+N2+V+N3」

を「給 V」構文、後者の「N1+V+給+N2+N3」と「N1+V+N3+給+N2」を「V 給」構文と称する。「給 V」構文においては、“給”は前置詞で、「V 給」構文においては、“給”は「V 給」複合動詞の後部要素か接辞と見られるが、いずれも動作 V の影響を受ける人を導くことができるという点では同じである。

“为”、“替”、“帮”構文は「給 V」構文と同様の構造で、「N1+为/替/帮+N2+V+N3」(N1 は動作主、N2 は人を指す名詞、V は動詞、N3 は V の直接目的語)の構造をしている。“为”、“替”、“帮”はいずれも前置詞である。

“请”、“让”構文とは「N1+请/让+ N2+V+N3」(N1 は“请”、“让”の動作主、N2 は V の動作主、V は動詞、N3 は V の直接目的語)の構造をしている文を指す。“请”、“让”は動詞である。

上記の授受の有標構文に対し、「なし」とは構文上当該の授受補助動詞と対応する表現がなく、授受補助動詞の先行動詞のみによって述部が構成されている動詞文を指す。本論文では、それを無標構文と呼ぶ。

表 1 から表 3 によれば、日中翻訳上日本語の授受補助動詞構文と中国語の“给”、“为”、“替”、“请”、“让”などの有標構文の対応率が低く、無標構文のほうが優勢である。つまり、内省と少数の例文によって従来の日本語の授受補助動詞構文と中国語との対照研究は限られた範囲で行われているのである。そのため、日中翻訳上先行研究の主張によって日本語の授受補助動詞構文と中国語の授受の有標構文との対応についての説明が十分に行われたとは思われない。従って、「テヤル」「テクレル」「テモラウ」構文と授受の有標構文とが対応しない場合も研究対象に含めなければならないと本論文では考える。

本論文では、コーパス調査の結果に基づき、日本語の授受補助動詞構文を“给”構文と“请”構文のみに訳す条件、無標構文と“给”構文、“请”構文のいずれにも訳し得る条件、“给”構文、“请”構文に訳せない条件に関して、検討を進めていく。それを踏まえ、日本語の授受動詞構文の日中翻訳のフローチャートを提案する。

5 本論文の目的と意義

上記の先行研究の問題点およびコーパス調査のデータから、日本語の授受補助動詞構文に関する日中翻訳の説明がまだ不十分であることが分かった。従って、本論文では、対訳コーパスのデータに基づき、日本語の授受補助動詞構文を「テヤル」「テクレル」「テモラ

ウ」構文に分け言語学の角度から授受補助動詞構文に関する日中翻訳の傾向と原因を究明し、それぞれの日中翻訳のフローチャートを提案した。フローチャートの有効性は、「現代日本書きことば均衡コーパス」から無作為に抽出した実例をフローチャート通りに翻訳し、その自然さをネイティブにチェックしてもらうことで検証していく。本論文の最終目的はそれらのフローチャートによって日本語授受補助動詞構文の日中翻訳規則を作成することにある。この翻訳規則は従来の先行研究における問題点解決に加え、授受補助動詞構文の日中翻訳の効率の向上及び今後授受補助動詞構文の日中機械翻訳にも役に立つと考えられる。

「テヤル」構文、「テクレル」構文、「テモラウ」構文の日中翻訳のフローチャートは以下の図 1～図 3 に示す。

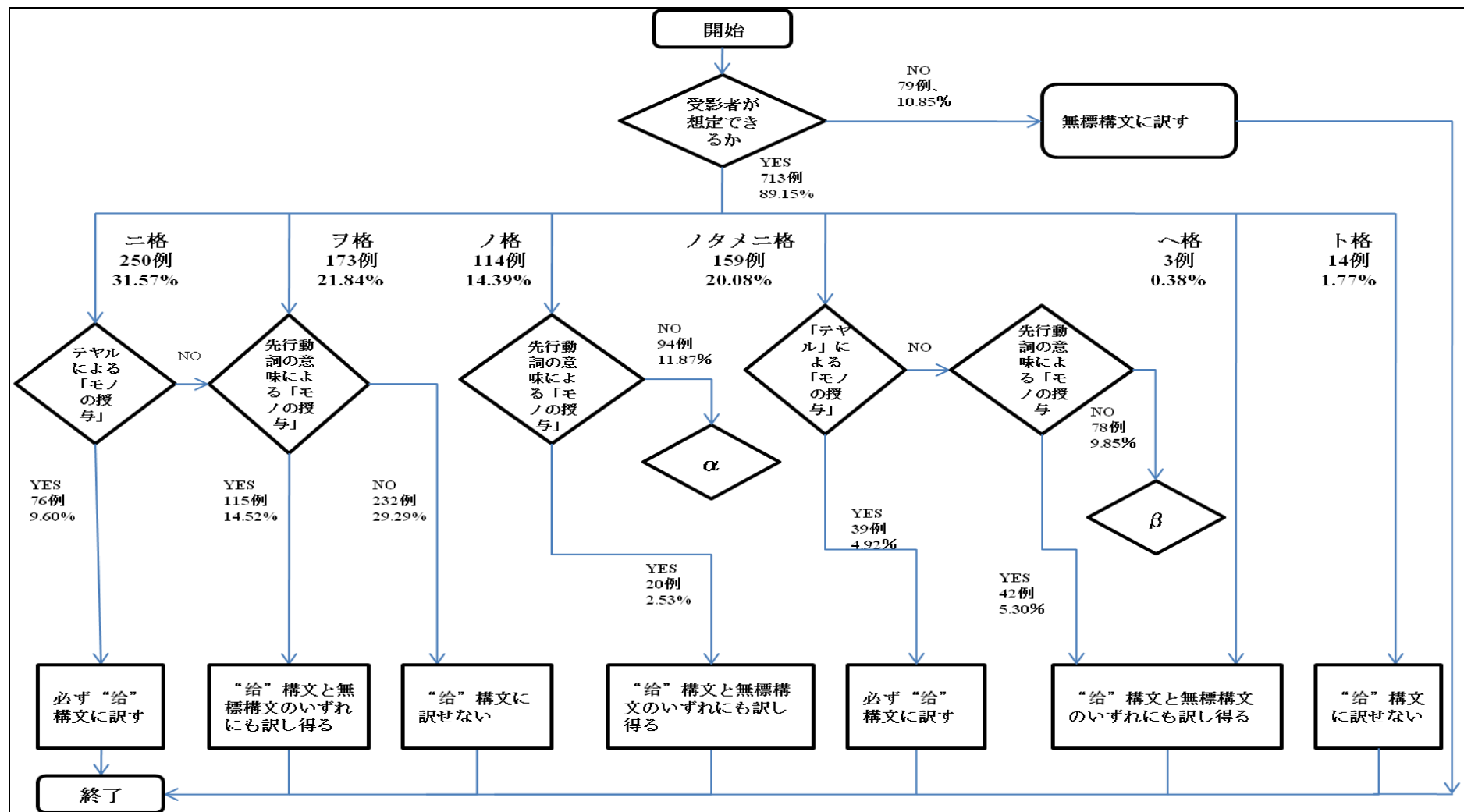


図1 「テヤル」構文の日中翻訳のフローチャート

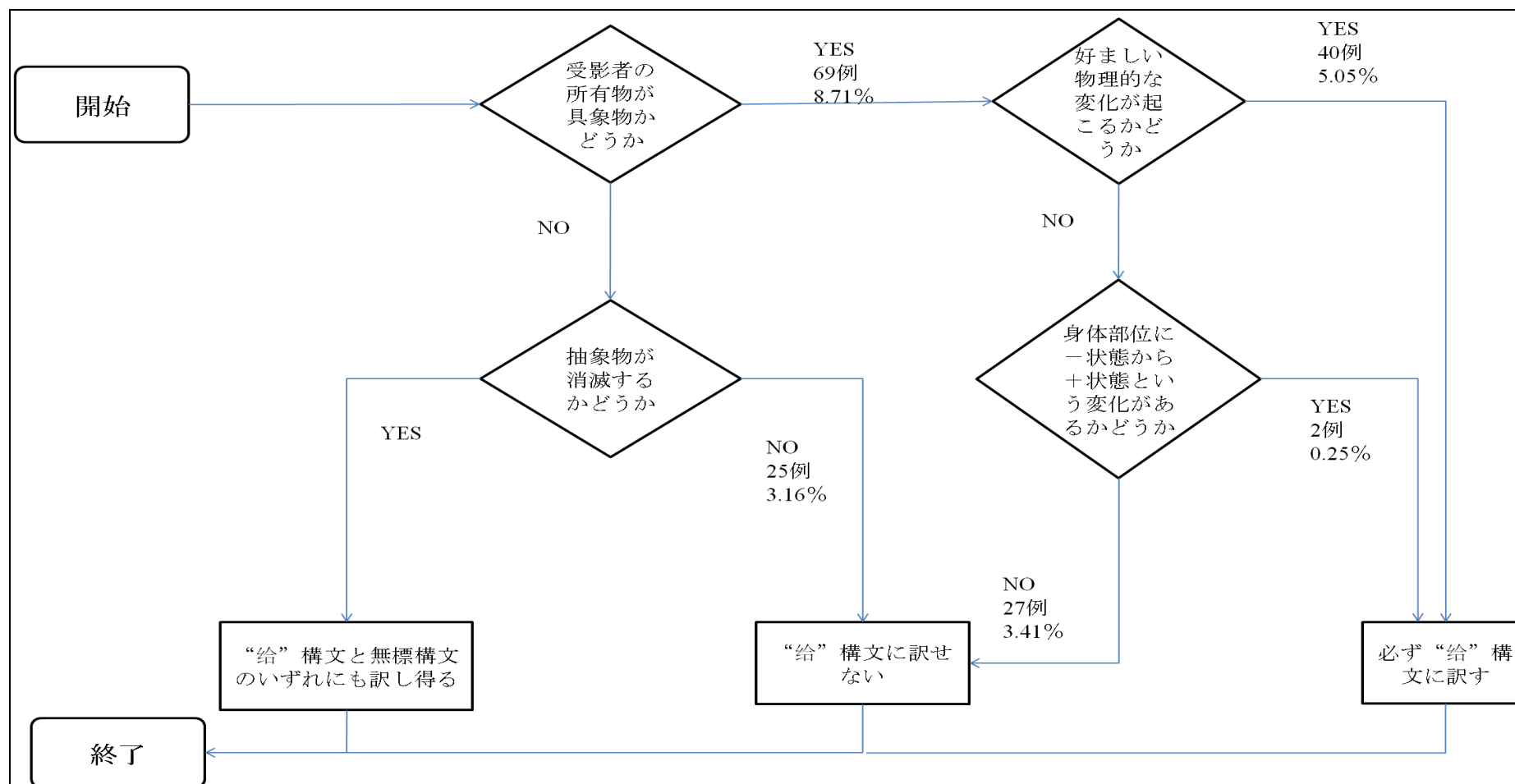


図 1-1 α のフローチャート

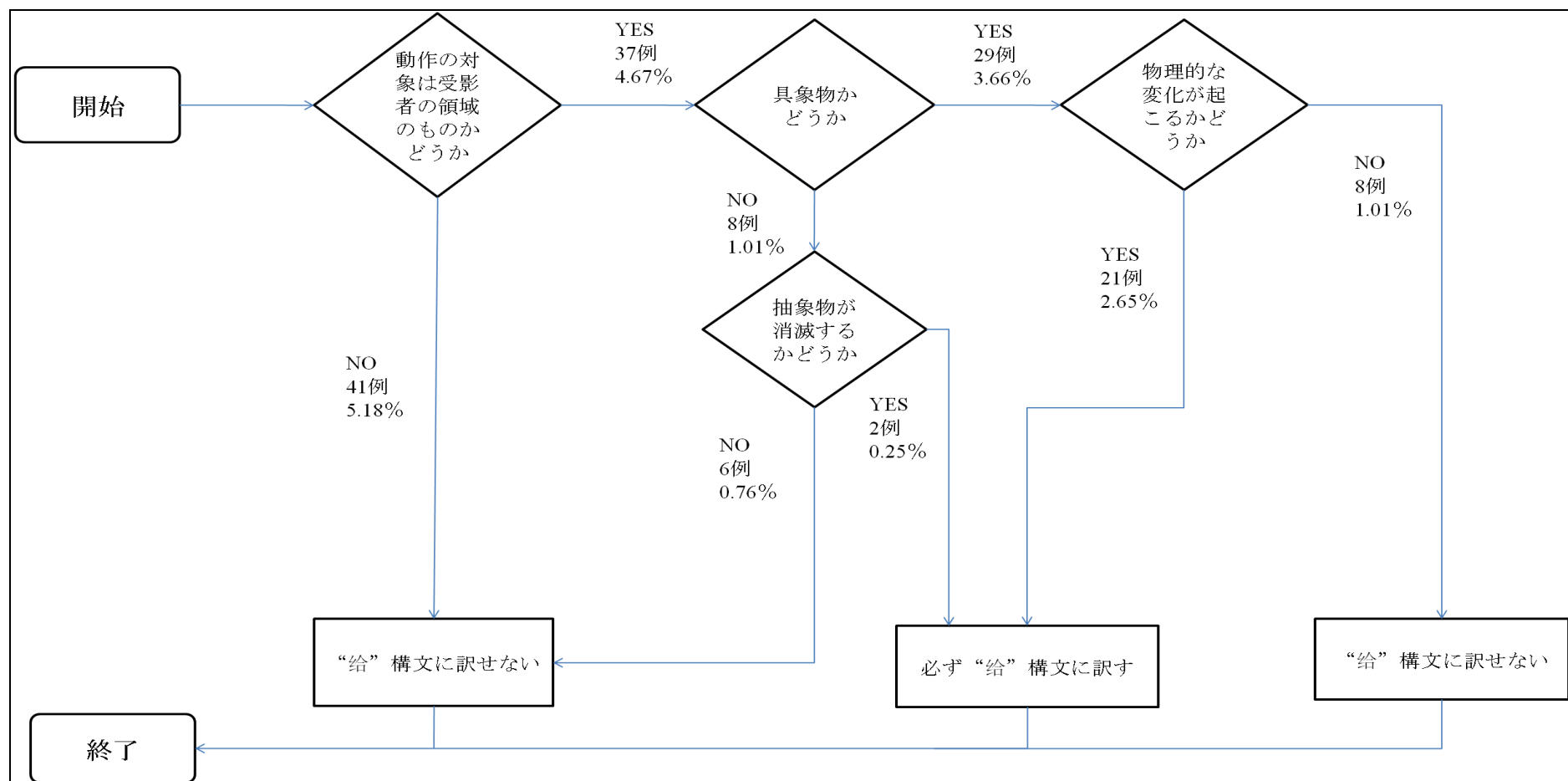


図 1-2 βのフローチャート

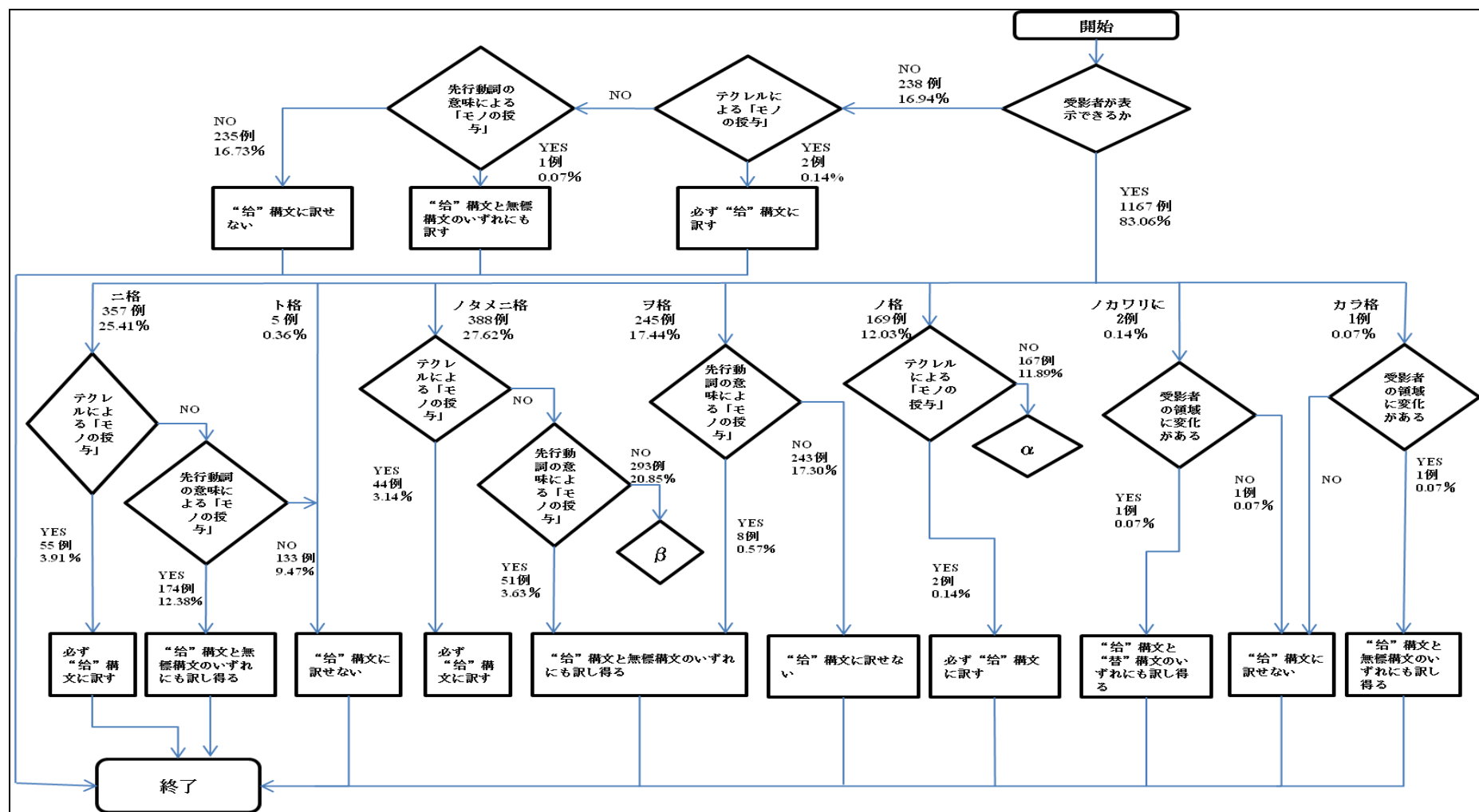


図2 「テクレル」構文の日中翻訳のフローチャート

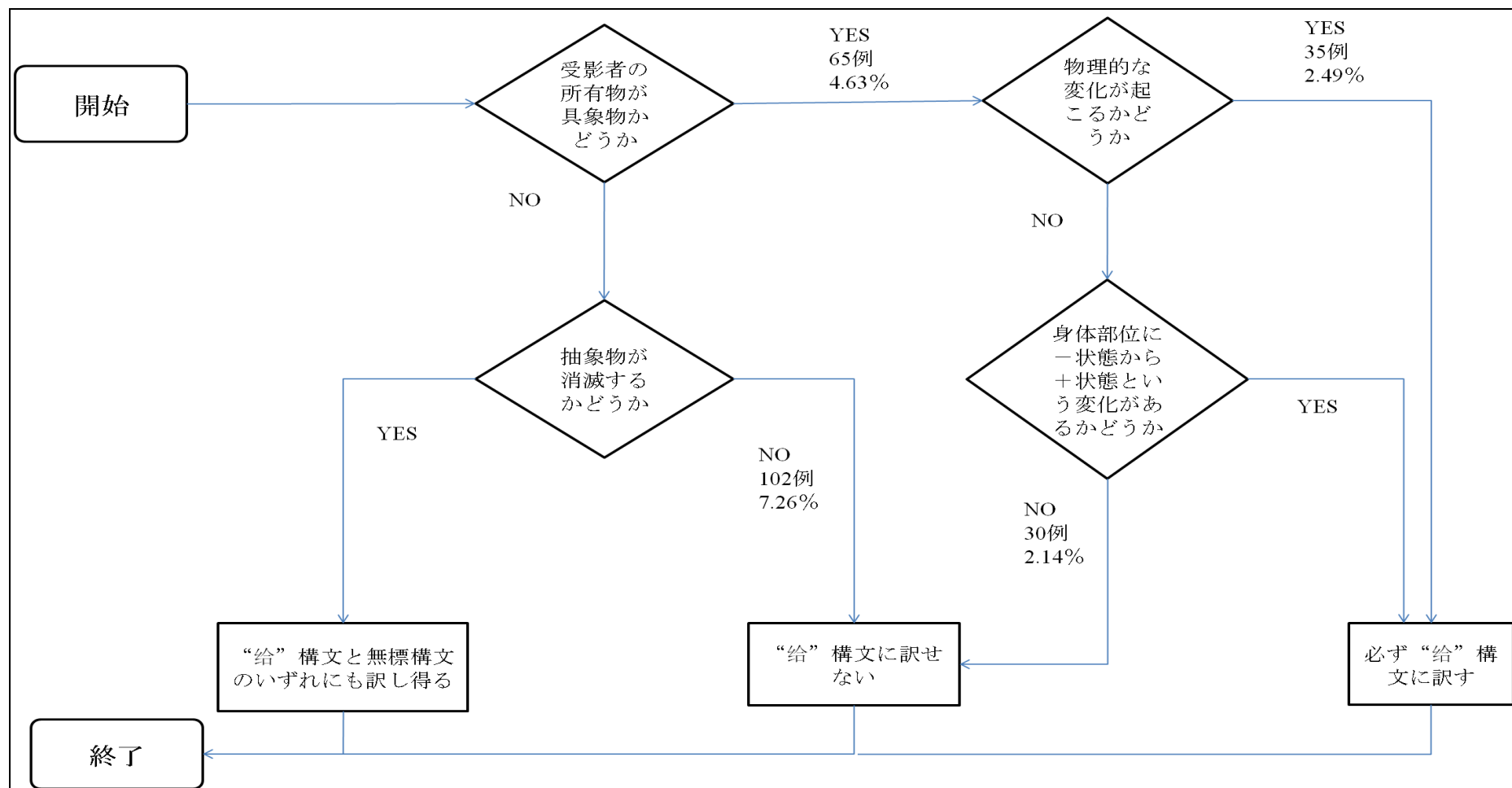


図 2-1 α のフローチャート

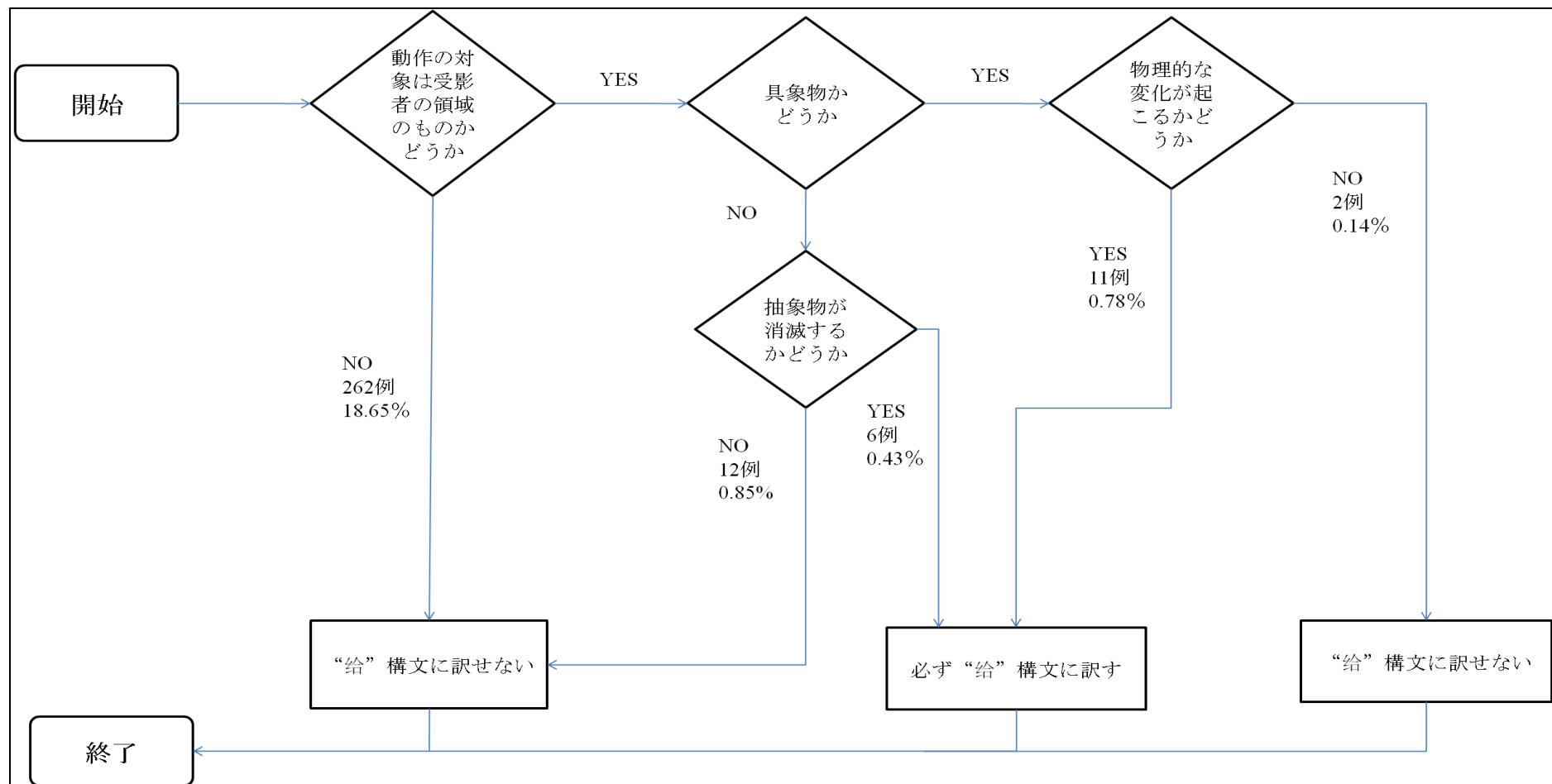


図 2-2 β のフローチャート

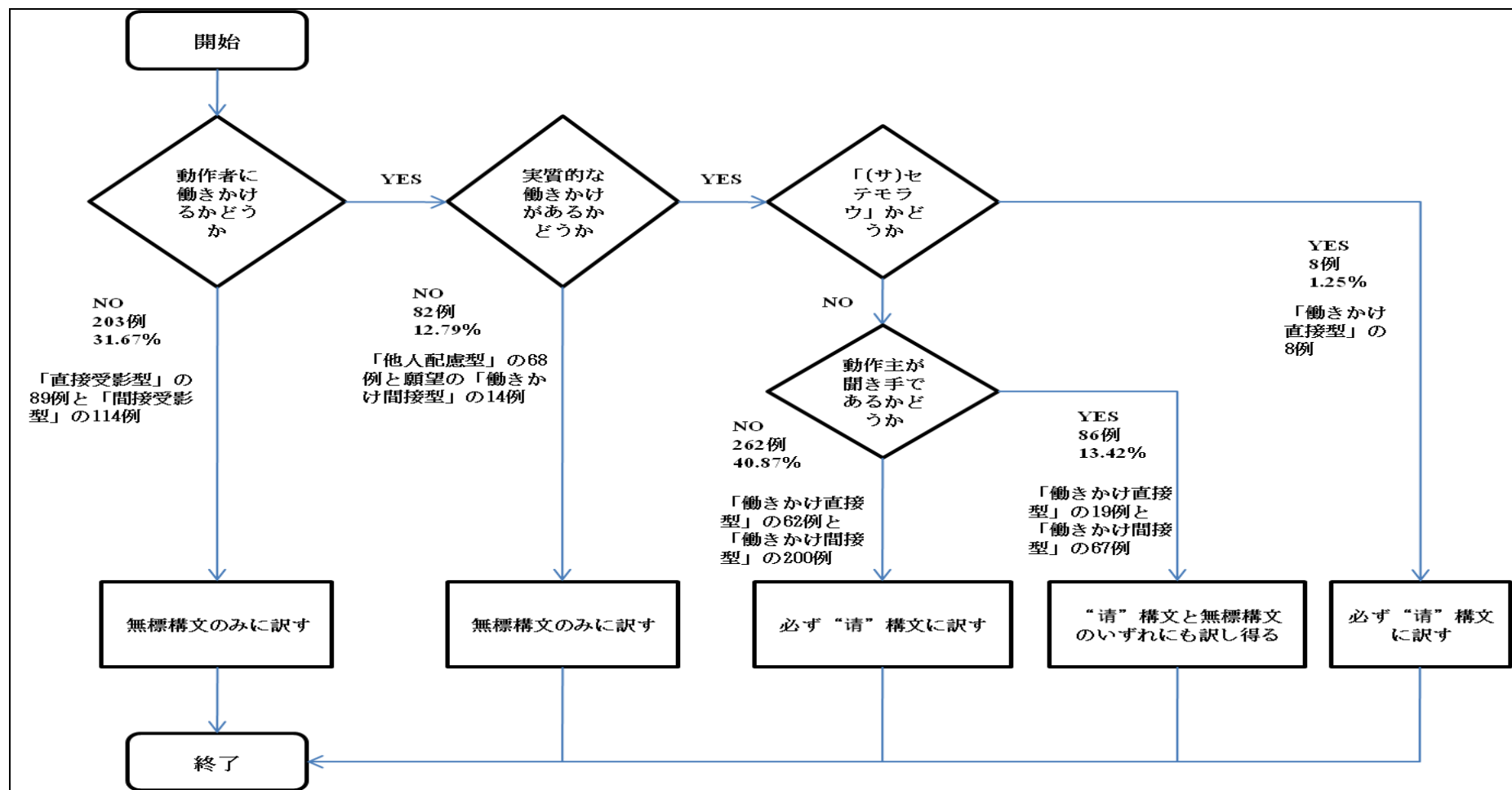


図3 「テモラウ」構文の日中翻訳フローチャート

第2章 「テヤル」構文に関する日中翻訳規則

0 本章の概要

序章で述べたように、日本語の授受補助動詞構文に関するこれまでの日中対照研究では、主として内省と少数の例文によって授受補助動詞の「てやる」「てあげる」と中国語の介詞(前置詞)の“给”との対照が行われてきた。しかし、『中日対訳コーパス』から「テヤル」構文を792例を抽出し調査すると、日中翻訳においては「テヤル」構文と“给”構文との対応率が20.33%にとどまることが分かった。そのため、従来の“给”という有標形式に注目した対照研究の分析に基づいて翻訳を行ったとしても、必ずしも効率的な日中翻訳にならない。本章では、日本語の「テヤル」授受補助動詞構文を対象に、山田(2004)が提唱する「受影者」という概念を取り入れ、構文上「テヤル」授受補助動詞構文における受影者の格表示に注目する。さらに「テヤル」構文に関する日中翻訳の効率を高めるために、先行動詞による「モノの授与」と「テヤル」による「モノの授与」および「受影者の領域の変化」の三つの基準を立て、「テヤル」構文に関する日中翻訳の傾向をもとにした「テヤル」構文の日中翻訳のフローチャートを提案する。さらに、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(中納言)からランダムに抽出した実例をフローチャートに従って中国語に訳し、中国語ネイティブの判定によってフローチャートの有効性を検証し、その提案を踏まえ、フローチャートの調整を図る。調整したフローチャートは以下の通りである。

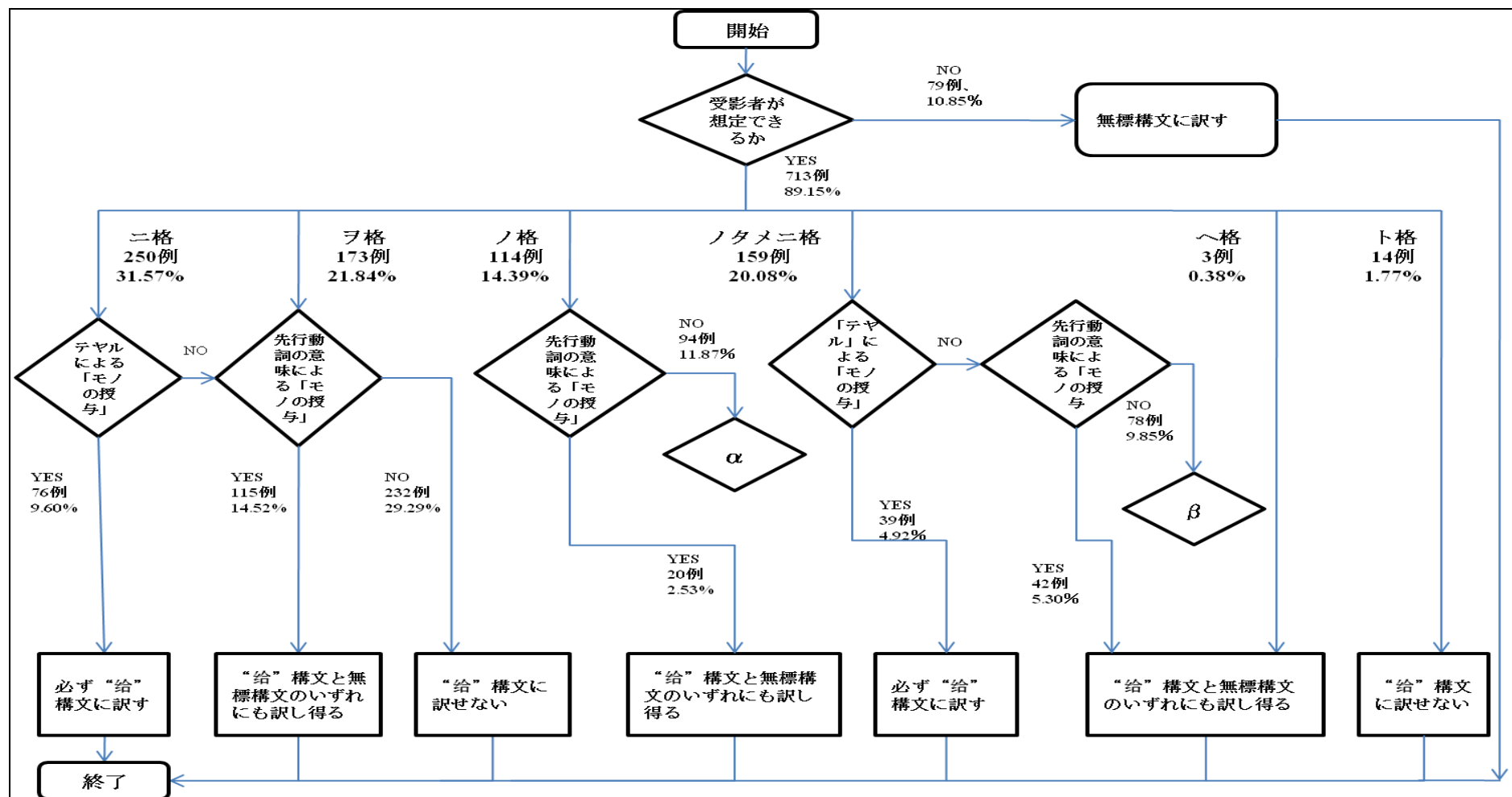


図1 「テヤル」構文に関する日中翻訳のフローチャート

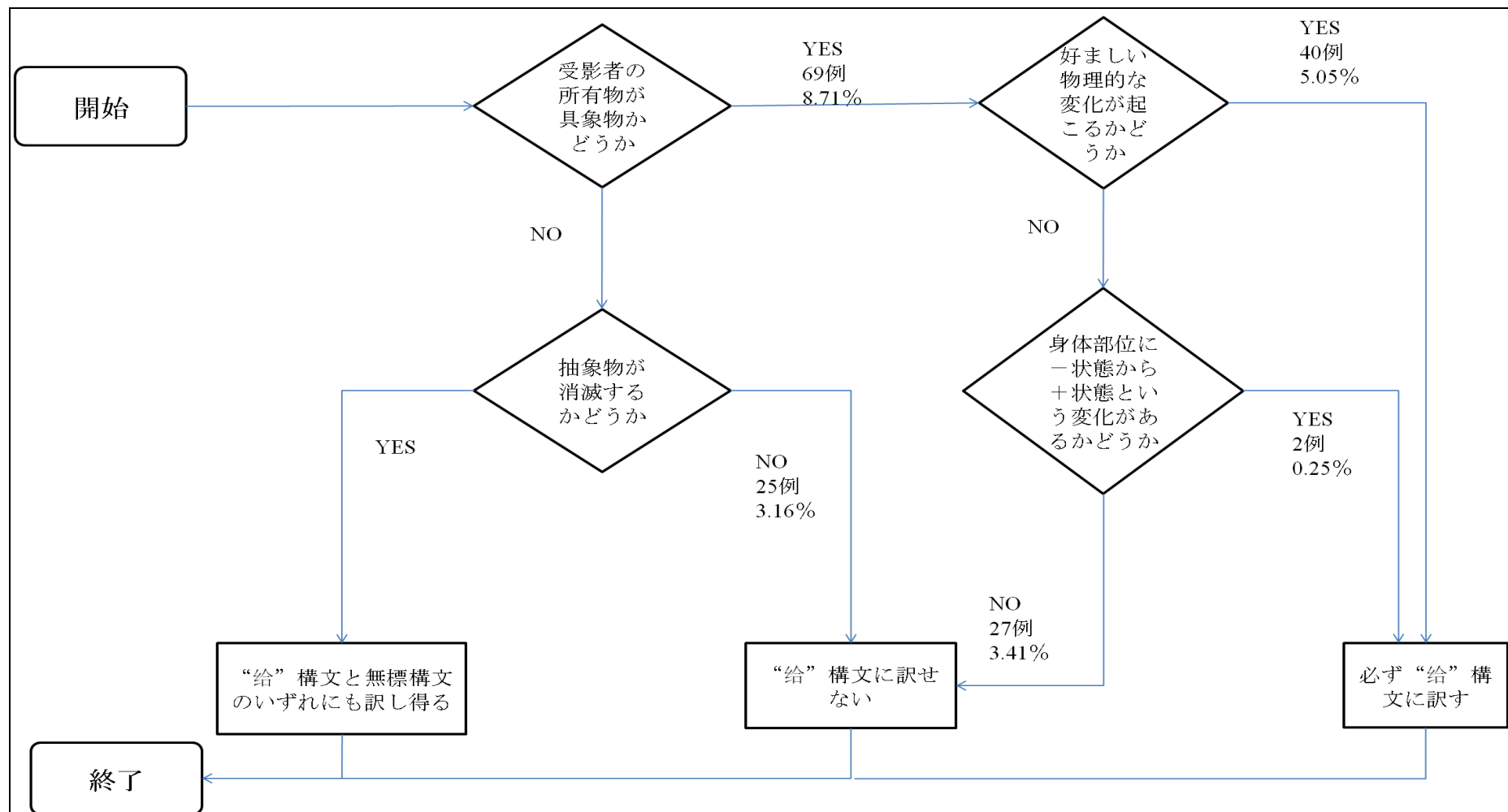


図 1-1 α のフローチャート

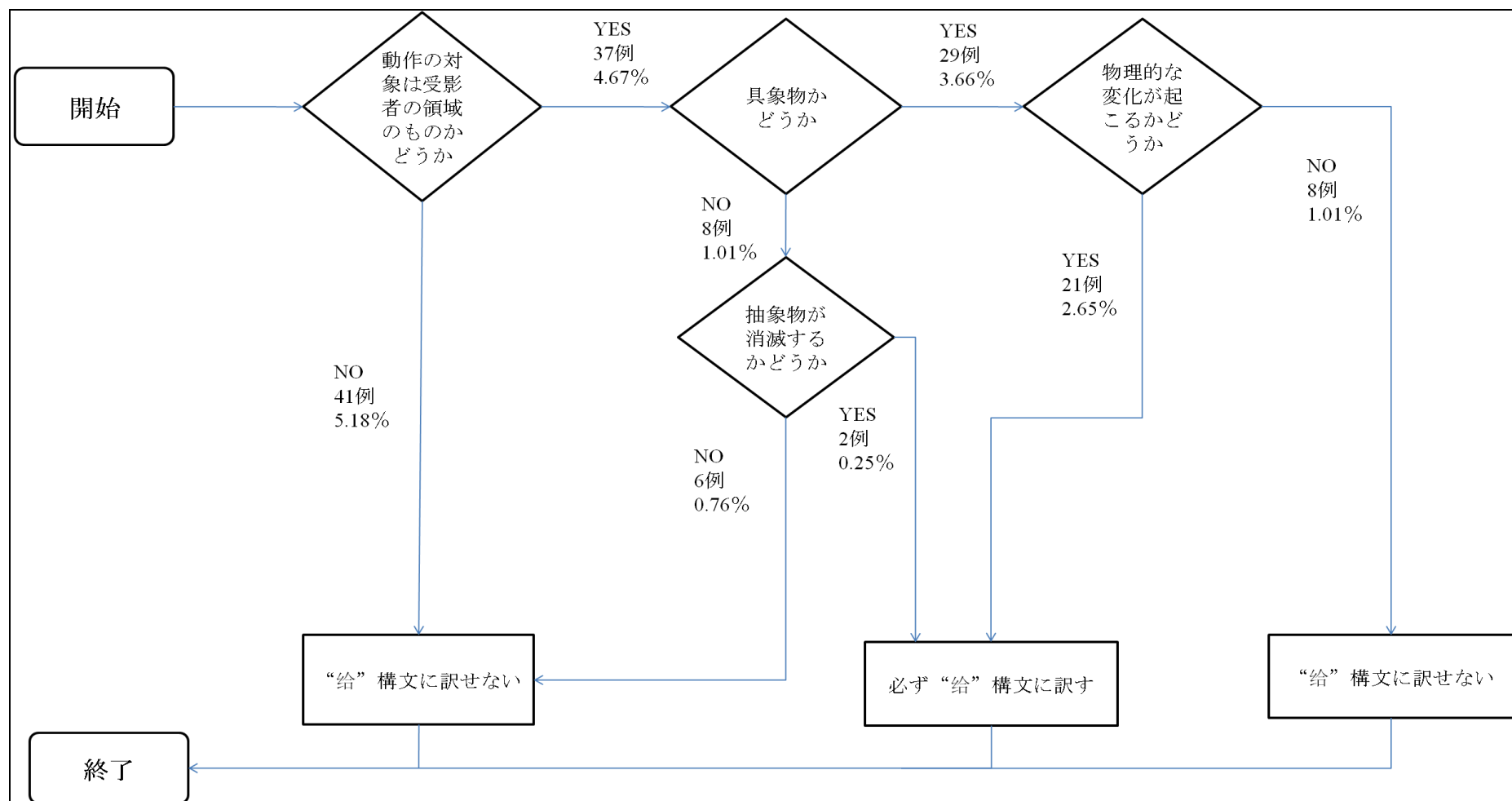


図 1-2 β のフローチャート

1 本章の研究対象

本章では、日本語の「テヤル」授受補助動詞構文を対象として考察を行う。序章で述べたように、本章でいう「テヤル」授受補助動詞構文とは「てやる」「てあげる」「てさしあげる」、及びそれらの授受補助動詞の活用形を述部に持つ構文を指す。また、本章で使われる例文は特別な説明がない限り、いずれも『中日対訳コーパス』から抽出したものである。

2 先行研究の概観および問題点

序章でも簡単に触れたが、まず「テヤル」構文に関する先行研究の問題点を再度取り上げて説明する。

楊(1994)は、前置詞としての“給”と「てあげる、てくれる」との比較の中で、「本来二項動詞(他動詞)は構文的要素として主語(動作主)のほかに目的語を取るのが普通であるが、動作主が第三者のために何らかの行為を行う場合、その第三者を“給”によって導くことも可能である。(中略)受益を表す形式としては、“給”と補助動詞がもっとも対応していると言える」(楊 1994 : 118) と述べ、以下のような例文を取り上げている。

- (1) 目が醒めたときは起きていって、お茶を入れててあげることもあるけどな。(下線筆者)

訳：如果醒来了，有时候也给他泡杯茶。(戴・郭訳)

楊(1994 : 118)

楊(1994)の指摘には二項動詞によって「てあげる、てくれる」と“給”との対応が成り立つことが可能であるが、その「可能性」について詳しく説明していない。つまり、二項動詞によって対応が成立することは指摘するのにとどまり、その理由は触れていない。それに加え、二項動詞のことによって対応が成り立たないことも指摘していない。

以下の(2)～(4)においては、二項動詞である「聞く」「待つ」「食べる」では、「二項動詞の動作主は第三者のために動作を行う場合、その第三者を“給”で導くことが可能である」という楊の主張に反し、中国語では“給”構文が成り立たないのに対し、日本語の「テヤ

ル」構文が自然である以下のような例も見られる。

- (2) いいわよ、話したいことあるんなら洗いざらい話しちゃいなさいよ。聞いてあげるから。

中訳： ○ 哪里。肚里有话要说，那就痛痛快快说彻底才好。我来听。

筆者訳：＊ 哪里。肚里有话要说，那就痛痛快快说彻底才好。我来给你听。

- (3) いいわよ、待ってあげる。あなたのことを信頼してるから。

中訳： ○ 那好，我等你，因为我相信你。

筆者訳：＊ 那好，我给你等。因为我相信你。

- (4) 今日は誕生日だから夕食はお前の好きなものを作ったらいい。我慢して食べてやる。(少納言)

筆者訳：○ 今天是你生日，就做你喜欢的东西吧。我姑且忍着吃。

＊ 今天是你生日，就做你喜欢的东西吧。我姑且忍着给你吃。

従って、「テヤル」構文を“給”構文に翻訳する際、楊(1994)が指摘した二項動詞という条件についてはさらに詳しく検討する余地があると考えられる。

また、受影者の所有物に対し、働きかけることを表す“給 V”構文の成立に関して、先行研究では割と統一的な説明がなされている。盧涛(2000)は受影者の所有物への働きかけについて、(5)のような例を挙げ、『頭』が李四の『頭』で、张三が洗ったら、自然と『李四』へのサービスになり、『給』は李四が受益者の立場にあることを示す。NP3 が NP2 の所属物であるならば、総てこの構文になる」(盧 2000 : 193)と述べている。

- (5) 张三给李四洗头

(張三は李四に頭を洗ってやる)

(盧 2000 : 193 下線筆者)

佐々木(1994)では、“給 V”構文を受益文と位置づけ、「ノタメニ」受益文と“給 V”受益文に関して、以下の比較を行った。

(6) a 彼女は夫のために髪を切った

b 她给爱人剪头发了

(7) a 彼女は子供のために手を洗った

b 她给孩子洗手了

(佐々木 1994 : 320 下線筆者)

佐々木(1994 : 320)は(6)(7)について、『ために』受益文の場合、受益者の利益を目的として、行為者自身の髪を切ったり、手を洗ったりしたという解釈がごく自然であろう。一方、“给”受益文の場合には、それらはあくまでも受益者のものであって、行為者自身のものであってはならない」と述べている。また、以下の(8)(9)中国語の文に対して、「受益表現としての性質が薄れ、どこか不自然さが付きまとう」と佐々木(1994 : 320)は指摘している。特に、(8)b について、佐々木(1994 : 324)は「誤って夫の髪を切ってしまった」という意味に解釈される可能性が高いと指摘している。

(8) a 彼女は夫の髪を切った

b ? 她剪了爱人的头发 (受益ではなく、中立的か被害)

(9) a 彼女は子供の手を洗った

b ? 他洗了孩子的手 (受益ではなく、中立的か被害)

(括弧は筆者による)

そのため、佐々木(1994 : 320)は「受益者の代わりに動作・行為を行う場合であっても“给”受益文が成立する背景には、その対象(中略)が受益者の所有物であるか、少なくとも受益者と密接な関係にあるもの、という認識が常に必要とされるのである」と主張している。

また、楊(2009)は、以下の例文を挙げて、説明している。

(10) a. 我向大书院老师的房间走去，副司务正给老师剃头，这是他最拿手的。『中日

- b. 大書院の老師の部屋へゆく。そういうことの巧い副司さんが、老師の頭を剃っている。 『中日対訳コーパス』

(11) *我向大书院老师的房间走去，副司务正给老师剃头，这是他最拿手的。

楊(2009 : 9)

(10)(11)について、楊(2009 : 9)は「“老师”(先生)と“头”(頭)は譲渡不可能な関係にあり、日本語では所有構造が用いられるが、中国語では受益標識が用いられている。中国語の受益標識“给”を所有標識の“的”に換えると、文全体が不自然になるか、または“老师”が受益者として解釈できなくなる。」と述べている。

佐々木(1994)、盧(2000)、楊(2009)の研究をまとめると、中国語では、「人」のために「人」の身体部位に対して働きかける場合、“给”で「人」を導いて、受益の意味を表し、所有構造を用いる場合、受益の意味がなくなり、“给”構文が受益文として見なされているということが明らかになる。

しかし、以下の文のように、誰かのために、その人の身体の一部に対して動作を行う「テヤル」構文では、中国語の“给”構文に訳すと、いずれも座りが悪いと思われる。

- (12) 女の子を置いていかないように自分から(女の子の)手をつないであげると良いでしょう。(少納言)

筆者訳：○ 自己要挽住女孩的手。

* 自己要给女孩挽住手。

- (13) 仕方ないから私、その子の頭を抱いて撫でてあげたわよ、よしよしってね。

中訳：无奈，我抱着抚摸着她的头，连声答应说：好的好的。

筆者訳：？ 无奈，我抱着给她抚摸着头，连声答应说：好的好的。

(12)(13)の「テヤル」構文においては、動作主の「私」が「手」と「腰」を対象として動作を行い、それらの動作によって「女の子」と「その子」に恩恵をもたらすということを表し、サービスになると言える。「手」「頭」が受益者「女の子」と「その子」の身体部位であり、先行研究の指摘に照らし合わせ、「手」と「女の子」、「腰」と「その子」はい

ずれも所有物と所有者の関係であり、緊密な関係か譲渡不可能な関係であると考えられる。しかし、(12)(13)の文においては、日本語の「テヤル」構文は成り立つのに対し、中国語の“给”構文は不自然で、成立しにくいのである。先行研究の分析に反して、対応の“给”構文の座りが悪く、所有構造の文のほうが自然である。従って、所有物に対し、働きかけることを表す「テヤル」構文と“给 V”構文との対応関係の成立に関して、意味上どういう条件が必要になっているかについてまだ検討する余地があると思われる。

上記の先行研究では、主として内省で日本語の授受補助動詞の「テヤル」と“给”との対照がなされ、構文、意味から考察が展開されてきた。しかし、内省で気づかれない反例がコーパスから検索された。本論文では、内省のそのような短所を避けるために、対訳コーパスを利用し、できるだけ多くの実例を収集する。ただし、コーパスにも一定の限界があるので、筆者の内省による作例もあげて、該当する問題点を説明する。

3 「テヤル」構文の日中翻訳に関するコーパス調査

先行研究では、内省あるいは少数の例文によって「テヤル」構文の日中対照研究を行っていた。これに対し、本章では、『中日対訳コーパス』を使用し、日本語の実例における「テヤル」構文およびそれらに対応する中国語の訳文を全部抽出した。結果は以下の表 1 に示す。

続いて例文の検索の手順について説明する。「テヤル」構文については、それぞれ「[てで][や遣][らりるれろっ]」、「[てで][あ上]げ」⁷、「[てで][さ差]し?[あ上]げ」といった正規表現を入力し、手作業で「金は別にあとでやらねばならんだろう」、「紹の黄衣の裾を膝頭まであげ」のような例文を除外する。訳文において構文上授受補助動詞の「テヤル」と対応する表現に絞り込んだ調査結果は表 1 のようになる。

⁷ 「[てで][揚挙]げ」でもう検索したが、用例がなかった。

表 1 「テヤル」構文と対応する中国語の表現

中国語の表現		例文数	比率	実例
1	なし(無標構文)	567	71.59% ⁸	それで私、小さい頃から可愛い女の子になって <u>やろう</u> と決心したの。 中訳：这么着，我从小就决心当一个可爱的女孩儿。
2	给	161	20.33%	杏子は説明の札を讀んで <u>やった</u> 。 中訳：杏子 <u>给</u> 梶大助念说明牌。
3	为	39	4.92%	曾根は、八千代のために悲しんだり、さびしがったりして <u>やっている</u> が。 中訳：尽管曾根为八千代而感到悲伤寂寞。
4	替	16	2.02%	出来る事なら、おれが代りに行って <u>やりたい</u> 様な気がした。 中訳：我甚至想，如果可能，就 <u>替他</u> 到延冈去。
5	帮	9	1.14%	お寝間着に、着がえましょう。ああ、だめねえ、お母さんが <u>やってあげる</u> 。 中訳：穿上睡衣吧，哎，真是，来，妈 <u>帮你</u> 穿！
合計		792	100.00%	

対訳コーパスの訳は唯一の訳であるわけではないため、本章では、表 1 における「テヤル」構文を訳す場合、筆者の内省によって有標構文のみ、無標構文のみ、有標構文と無標構文のいずれかも可能なものの三つに分けて考察した。以下の表 2 に示す。

表 2 「テヤル」構文と対応する中国語の表現の考察

中国語訳の構文		例文数	比率
A 無標構文のみ		418	52.78%
B 無標と有標構文のいずれか	“给”構文 ⁹	180	22.73%
C 有標構文のみ	C1 “给”構文	180	22.73%
	C2 “为”構文	1	0.13%
	C3 “替”構文	1	0.13%
	C4 “为”構文と“替”構文のいずれか	12	1.50%
合計		792	100.00%

⁸ 本論文では、パーセンテージはいずれも小数点第三位以下四捨五入で示す。

⁹ 表 2 における“给”構文においては、“给”構文と置換できる“为”構文、“替”構文、“帮”構文が含まれ、置換されても文の意味に支障が起きない。そのため、“给”構文で一括でまとめることにする。

上記の表 2 のデータを見ると、“給” 構文に訳すことができる「テヤル」構文は最大の範囲を取っても 360 例(B と C1 の合計)で、全体の 45.45%にすぎない。そのため、先行研究における日本語の「テヤル」構文と中国語の“給” 構文との対応関係に関する分析は十分ではないと言えるのである。一方、有標構文には、“为” 構文、“替” 構文があるが、2%にも満たないため、本章では「テヤル」構文が“給” 構文に訳されるか無標構文に訳されるかを軸に考察を進めることにする。以降では「テヤル」日中翻訳の際、“給” 構文に訳せない、無標構文と“給” 構文のいずれにも訳し得る、必ず“給” 構文に訳すという三つのパターンに分けて、考察を進めていきたい。

4 「テヤル」構文の分類およびそれに対応する中国語の表現

4.1 受影者の格に注目した分類

山田(2004)は、動作の受け手だけではなく、動作から何らかの影響を受ける対象として「受影者」という概念を導入し、受影者の有無といった観点から「テヤル」の意味分析を行った。本章では、山田(2004)の「受影者」という概念を取り入れ、動作主以外の人物を「受影者」として考察していく。

受影者の表示は「テヤル」構文においては必須ではないが、中国語の有標構文は受影者が必須成分となっている。即ち、それらの中国語の授受有標構文では、構文上“给”、“为”、“替”、“帮”などの標識によって動作の受影者を導き、意味上文全体の解釈は「テヤル」構文と対応するということである。そのため、中国語の翻訳においては、日本語の「テヤル」構文の受影者に注目することが必須のステップである。本章では、「テヤル」構文における受影者の格表示に注目し、日中翻訳の考察を行っていききたい。検索された「テヤル」構文の受影者の格は以下の表 3 に示す。表 3 における「？」とは受影者を補うことができない「テヤル」構文ということを指す。

表3 「テヤル」構文における受影者の格

「テヤル」構文の中訳	受影者の格	例文数	実例(下線と括弧は筆者による)
A “給”構文に訳せない	ヲ格	172	いつかきつと <u>お前を支配してやる</u> 。 中訳：总有一天，我要统治你。
	？	79	動かんなら、わしも歩いて <u>やるぞ</u> 。 中訳：如果不开，我就走路。
	ニ格	60	そうしてその感じが <u>妻に優しくして遣れ</u> と私に命じます。 中訳：而且命令我温存地对待妻子。
	ノタメニ	55	じゃ、鉄橋を渡るまで、 <u>(あなたのために)</u> 小父さんが道づれになつて <u>あげようか</u> 。 中訳：那么，让叔叔领着你过桥吧。
	ノ格	52	梶の上着のポケットをさぐつて <u>やった</u> 。 中訳：把手伸进梶的胸前小袋。
	ト格	14	今度のフォックス・トロットに <u>河合さんと踊って上げたら</u> 。 中訳：你同河合先生跳跳吗。
B 無標構文と“給”構文のいずれにも訳し得る	ニ格	114	もしよかったら泊まらせてくれる女の子の一人くらい紹介して <u>やれるけど</u> 、どうだ。 中訳：要是你愿意，还可以介绍一个让你过夜的女孩儿，怎么样？ 筆者訳：要是你愿意，还可以 <u>给你</u> 介绍一个过夜的女孩儿，怎么样？
	ノタメニ	42	お前もう家帰れよ、 <u>(お前のために)</u> 出勤にしといて <u>やるから</u> 、と店長が言った。 中訳：你回去吧，算你出勤。 筆者訳：你回去吧， <u>给你</u> 算出勤。

	ノ格	20	<p>やっと、飲みやんで、言いわけがましく<u>女の口</u>におしこんでやる。</p> <p>中訳：好不容易喝完了，他近乎道歉地把水壶口放到女人嘴里。</p> <p>筆者訳：好不容易喝完了，他近乎道歉地把水壶口<u>给女人</u>放到嘴里。</p>
	へ格	3	<p>また、嫁ぎ先のお金を、<u>里の弟へ</u>こっそり融通してやるなど、たいへん工合いの悪い事のようにも思われたので…。</p> <p>中訳：而且我觉得，私下把男方的钱接济娘家弟弟很不合适。</p> <p>筆者訳：而且我觉得，私下把男方的钱<u>接济给</u>娘家弟弟很不合适。</p>
	ヲ格	1	<p>そして、攻守交替の際にもベンチに戻ってくる<u>選手たちを</u>ねぎらい、元気づけてやることぐらいだった。</p> <p>中訳：看到替换下场的队员，我马上上前去问候致意，激发他们的斗志。</p> <p>筆者訳：看到替换下场的队员，我马上上前去问候致意，<u>给他们</u>打气。</p>
C 必ず“给” 構文に訳す	ニ格	76	<p>娘のころ、家で外出する<u>父に</u>、同じようにしてネクタイを<u>選んでやった</u>ことを思い出した。</p> <p>中訳：她想起自己在少女时代，经常这样在家<u>给</u>准备外出的父亲选择领带。</p>
	ノタメニ	62	<p>こんなに砂が附いているから、<u>(お前のために)</u>払って<u>やっている</u>んじゃないか。</p> <p>中訳：粘上这么多沙子，我是<u>给你</u>掸沙子呢。</p>
	ノ格	42	<p>云われるままに、私は<u>彼女の腕だの背中だの</u>を暫く搔いてやりました。</p> <p>中訳：我遵命<u>给她</u>抓了一会儿胳膊和后背。</p>

4.2 受影者の確認手順

以下、表3における受影者の格の確認の手順について簡単に説明する。「テヤル」構文の受影者を取り除けば、以下のような構文構造になる。

「X ガ ～ シテヤル」 (X が話し手の視点を置く動作主)

ステップⅠ 受影者の格が明示されている場合

「X ガ A ニ B ノ C ヲ シテヤル」という構造を持っている「テヤル」構文が以下のようなものである。

作例1 太郎が 花子に 次郎の子供を 預けてやった。

作例1の文に対し、文の意味によって花子、次郎、子供のうち、どちらが受影者であるかを判明する。「花子」が受影者である場合、作例1は「受影者」を「ニ」格で導く「テヤル」構文となる。「次郎」が受影者である場合、「受影者」を「ノ」格で導く「テヤル」構文となる。「子供」が受影者である場合、「受影者」を「ヲ」格で導く「テヤル」構文となる。

ステップⅡ 受影者が明示されていない場合

受影者が明示されていない「X ガ ～ シテヤル」という構造の「テヤル」構文に対し、前後の文脈および文の意味によってその文の受影者の格を考える。

作例2 太郎が ～ 行ってあげる。

文の意味によって「～」のところに「花子と」「花子のために」「花子のところへ」のいずれかが補える。そのため、それぞれ「ト」格で受影者を、「ノタメニ」で受影者を、「ノ」格で受影者を導く「テヤル」構文となり、違う意味を表している。

作例 3 太郎が 花子に/花子のために 料理を作ってやった。

作例 3 においては、受影者の「花子」は「ノタメニ」「ニ」のいずれか導くことができ、同じ意味を表すこともできる。本章では、「ノタメニ」と格助詞のいずれか受影者を導き、同じ意味を表す場合、「ノタメニ」ではなく、格助詞によって受影者を導く「テヤル」構文と見られることにする。

ステップⅢ 受影者を補うことができない場合

以下の作例 4 は受影者が補うことができない「テヤル」構文に該当する。

作例 4 太郎が 自分一人で 歩いてやろうと決心した。

作例 4 においては、文の意味によって格助詞であろうと、「ノタメニ」であろうと、受影者を導くことができない。このような「テヤル」構文は表 3 における「？」に該当する。表 3 における受影者の格の判定は上記のステップⅠからステップⅢの手順で行い、いずれも文脈や文の意味に依存して判断を下したのである。

4.3 「ヲ」格、「ト」格で受影者を導く「テヤル」構文

表 3 によれば、受影者が「ヲ」格で導く「テヤル」構文は 173 例で、そのうち、“給”構文に訳せないもの(以下の(14)(15))は 172 例である。“給”構文と無標構文のいずれにも訳し得るのは(16)の 1 例しかない。

- (14) そうすれば君を暗闇やら夢やらから守ってあげることができるし、レイコさんがいなくてもつらくなったときに君を抱いてあげられる。

中訳：那样的话，我就可以保护你不受黑夜和梦的干扰，还可以抱你——当离开玲子后你还感到难受的时候。”

- (15) 母の亡くなった後、私は出来るだけ妻を親切に取り扱かって遣りました。

中訳：母亲故去以后，我尽量温柔地对待妻子。

(16) そして、攻守交替の際にもベンチに戻ってくる選手たちをねぎらい、元気づけてやることぐらいだった。

中訳：看到替换下场的队员，我马上上前去问候致意，激发他们的斗志。

上記の(14)～(16)の例文では、受影者は構文上「ヲ」格によって表され、意味上「守る」「取り扱う」「元気づける」という動作の対象であるとともに、受益者でもある。また、(14)(15)では、「守る」「取り扱う」といった動作によってヲ格としての動作対象に何らかのモノを授与するという意味合いが読み取れない。「テヤル」の付け加えて、受影者への恩恵的感情を表し、「モノの授与」の意味の生起に関わっていない。

それに対し、(16)では、「選手たちを元気づける」には「選手たちに元気という抽象物をもたらす」という意味が含まれているので、「元気づける」という動作によって受影者の「選手たち」が「元気」をもらうという「モノの授与」を解釈できる。そのような意味を持っていることから、(16)の中訳は“给选手们打气”(選手たちに元気を分けてやる)に変えることができる。楊(1994: 27)は「日本語では、受益者が直接目的語であるが、中国語では他動詞文しか用いられず、受益構文を用いることができない」と述べているが、その理由について具体的に分析していない。(16)の例を見ると、「モノの授与」の意味が含まれる「テヤル」構文は“给”構文に訳すことができると考えられる。ただし、この場合、「モノの授与」はあくまで先行動詞の「元気づける」の意味によって表されているが、「テヤル」の授受補助動詞に関係がないと思われる。以下の(16)´のように、「テヤル」を取り除いても、“给 V”構文に訳すことができる。

(16)´ そして、攻守交替の際にもベンチに戻ってくる選手たちをねぎらい、元気づけることぐらいだった。

筆者訳：看到替换下场的队员，我马上上前去问候致意，给他们打气。

「元気づける」と同じく、「勇気づける」「恥をかかせる」「悲しませる」という動詞の意味に対して、受影者に「勇気」「恥」「悲しみ」を「もたらす」という角度から解釈すれば、「勇気」「恥」「悲しみ」は具象物に相当するものと見なすことができる。このため、

それぞれ“給…带来勇气”、“给…带来耻辱”、“给…带来悲伤”のように“给”構文に訳し得る。

一方、それらの動詞を「誰かを元気にする」「誰かを勇気づける」「誰かに恥をかかせる」「誰かを悲しませる」という使役の解釈も読み取れる。その場合、受影者に何らかのモノを授与することを表さず、受影者に対して直接動作を行うのみである。その場合に「モノの授与」がないため、“给”構文に訳せない。従って、「ヲ」格で受影者を導く「テヤル」構文は先行動詞の意味の解釈によって“给”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。

以上は「ヲ」格で受影者を導く「テヤル」構文の日中翻訳について分析をした。続いて、「ト」格で受影者を導く「テヤル」構文に関して説明する。表3によれば、該当する例文は14例で、いずれも“给”構文に訳せない。

(17) お母さんが、一日のうち、二十分でも、三十分でも、長子と遊んでやったり…

中訳： 如果母亲能在一天中抽出二、三十分钟时间跟大孩子玩一玩…

筆者訳：* 如果母亲能在一天中抽出二、三十分钟时间给大孩子玩一玩…

(18) じゃ、譲治さん、あたし一遍踊って来るから見てらっしゃい。後であなたと踊って上げるから。

中訳： 好，让治，我去跳一场，你看着。一会儿我再跟你跳。

筆者訳：* 好，让治，我去跳一场，你看着。一会儿我再给你跳。

(17)(18)では、「ト」格の受影者と「遊ぶ」「踊る」との共起によって誰かと共同で「遊ぶ」「踊る」といった動作を行うことを表しているが、「ト」格の受影者に対し、何らかのモノの授与の意味合いが一切読み取れない。「テヤル」の付加で、受影者に対して恩恵的感情を表すのみである。つまり、先行動詞であろうと、「テヤル」であろうと、いずれも「モノの授与」に関係ないと言える。そのため、筆者訳のように、“给”構文に訳せば、いずれも成り立たない。

同じ「ト」格で受影者を導き、「モノの授与」を表す「テヤル」構文が以下の通りである。

(19) 花子さんとプレゼントを交換してあげた。(作例)

筆者訳：○ 和花子交換了礼物。

＊ 给花子交換了礼物。

(19)では、「交換する」の意味によって動作主と花子の双方向の「モノの授与」の行為を表す。しかし、“给”構文で表現されると、動作主の一方的な「モノの授与」の行為しか表さないのもとの文の双方向の交換の意味と矛盾し、非文になってしまう。そのため、双方向の「モノの授与」を表している「テヤル」構文は“给”構文に訳せない。

以上の4.3節の分析をまとめると、受影者を「ヲ」格で導く「テヤル」構文は「モノの授与」ではない限り、“给”構文に訳せないと思われる。文が「モノの授与」を表しているかどうかは「テヤル」と関係なく、先行動詞の意味に依存するため、必ず“给”構文に訳さなければならないとは言えない。それに対し、「ト」格で受影者を導く「テヤル」構文においては、先行動詞の意味による「モノの授与」は動作主と受影者の双方向の行為であるため、動作主の一方的なモノの授与行為しか表さない“给”構文にも訳せない。

4.4 「ニ」格で受影者を導く「テヤル」構文

表3によれば、コーパスから検索された「テヤル」構文のうち、構文上「ニ」格で受影者を導く「テヤル」構文は250例である。以下の節から、“给”構文との対応関係について具体的に説明する。

4.4.1 必ず“给”構文に訳す場合

表3によれば、「ニ」格で受影者を導く「テヤル」構文のうち、必ず“给”構文に訳さなければならないものは76例である。これらの「テヤル」構文においては、「ニ」格は先行動詞の項ではなく、「テヤル」があるからこそ、「ニ」格が生起できるのである。

(20) あんた、村の者は(彼女に)蒲団を運ぶやら、湯を沸かしてやるやらで大騒動だったですが。

中訳：你听着，村里人给她送去了被子，给她烧开水，可热闹呢。

(21) 子どもに本を読んであげないということは、子どもの脳の前頭葉(思考・判断な

どが営まれる部分)切り取る手術をしているのと同じことだ。

中訳：说不给幼儿读书，就等于摘除了幼儿的前脑叶(主思考、判断的部分)。

(20)では「沸かす」という動作を通して、「お湯」を作り出すという「具象物の作成」の意味を表している。(21)では「読む」という動作によって「音声の内容を作る」という「抽象物の作成」の意味を表していると言える。(20)(21)においては「読む」「沸かす」がそもそも「ニ」格を要求しない動詞であり、「テヤル」の付け加えによってはじめて、「ニ」格が付加できるようになる。その「ニ」格と「テヤル」との共起があるからこそ、「ニ」格の受影者にモノを授与するという意味が現れてくると考えられる。つまり、その「モノの授与」は「テヤル」によるものである。「ニ」格の受影者は「テヤル」によって現れるものであるため、翻訳上その受影者の出現を訳さなくてはならない。

(20)「あんた、村の者は(彼女に)蒲団を運ぶやら、湯を沸かしてやるやらで大騒動だったですが。

筆者訳：# 你听着，村里人给她送去了被子，烧开水，可热闹呢。

(21)「子どもに本を読んであげない」ということは、子どもの脳の前頭葉(思考・判断など営まれる部分)切り取る手術をしているのと同じことだ。

筆者訳：# 不读书，就等于摘除了幼儿的前脑叶(主思考、判断的部分)。

(20)「(21)」における「ニ」格は、先行動詞「沸かす」「読む」の項ではなく、「テヤル」によって付与された項である。従って、「テヤル」の先行動詞は「ニ」格を取っていないため、先行動詞の意味のみによってその「ニ」格を訳すというわけではないと思われる。(20)「(21)」の筆者訳は先行動詞の意味しか表せない文で、対応する日本語の文は「湯を沸かす」、「本を読まない」のような動作主自身の動作しか表さないものになってしまう。従って、「テヤル」による受影者の存在の意味合いを読み取ることができないため、(20)「(21)」の訳は不適切である。

コーパスには用例が見られないが、(20)(21)と同様に、「テヤル」の付け加えによって「ニ」格の受影者が生起する「テヤル」構文は以下のようなものがある。

(22) 太郎は花子に傘を差しあげる。(作例)

筆者訳：○ 太郎给花子打伞。

* 太郎花子打伞。

(23) 太郎は花子に穴を掘ってあげた。(澤田 2007 : 77)

筆者訳：○ 太郎给花子挖了一个洞。

* 太郎挖了花子一个洞。

(22)(23)では、先行動詞「差す」「掘る」はいずれも「ニ」格を取れない動詞である。「てあげる」をつけてからこそ「ニ」格が生起するのである。その文の意味に関して、(23)については、澤田(2007 : 77)は「厳密には「穴」自体が物理的に与格名詞句へと移動しているわけではない。その所有権が与格名詞句に移っている」と説明している。つまり、「所有権の授与」という「モノの授与」の意味を表している。それに対し、(22)では、「傘」はあくまで太郎の手に握られているので、花子へ「傘」の所有権を移動するとは言えない。「差しあげ」る」という動作によって花子が「傘」の利用者になるということから、「傘」の利用権を受影者にもたらすと考えられる。そのため、(22)にも「モノの授与」が表されていると考えられる。その「モノの授与」は「てあげる」によるものであるので、必ず“给”構文に訳さなければならない。

従って、「テヤル」による「ニ」格の受影者の生起を表している「テヤル」構文は中国語に訳す際、「ニ」格の受影者の訳出が必須的である。その受影者が先行動詞によるモノの受け手である場合、“给”構文に訳さなければならない。

4.4.2 無標構文と“给”構文のいずれにも訳し得る場合

表3によれば、無標構文と“给”構文のいずれにも訳し得る「テヤル」構文は114例で、以下のような例である。いずれも先行動詞の意味によって「モノの授与」を表しているものである。

(24) あそこの家の男の子にピアノをちょこちょこと教えてあげているの。

中訳：三天两头教那家男孩一次钢琴。

(25) 友人に友人自身の短所を示してやること、それが友情におけるもっとも気骨の折れるつとめだ。

中訳：向朋友指出他的短处，这是友情中最痛苦的事情。

(24)(25)では、同じ「ニ」格の受影者を項として取っている「教える」、「示す」といった先行動詞の意味によって「ニ」格の受影者は動作主から「ピアノの技能」、「短所を示す情報」という抽象物を獲得することが表されている。従って、(24)(25)は「モノの授与」の意味が含まれているため、以下の中国語の“给”構文に訳すことができる。

(24) あそこの家の男の子にピアノをちょちょこと教えてあげているの。

筆者訳：三天两头给那家男孩教一次钢琴。

(25) 友人に友人自身の短所を示してやること、それが友情におけるもっとも気骨の折れるつとめだ。

筆者訳：给朋友指出他的短处，这是友情中最痛苦的事情。

(24) (25) の筆者訳においては、「テヤル」構文における「モノの授与」の意味は“给”構文によって表されている。(24)(25)の中訳はそれぞれ二重目的語授与構文と方向を指示する前置詞“向”(に対して、に向かって)によって情報の受け手が示されている文である。このことから、両方はいずれも先行動詞の意味によって「モノの授与」を表すことが可能である。先行動詞の意味によって“给”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。

以上の説明で、「ニ」格で受影者を導く「テヤル」構文は先行動詞による「モノの授与」を表す場合に“给”構文に訳すことができるが、必須ではないことが分かる。一方、先行動詞による「モノの授与」でも必ず“给”構文に訳さなくてはならないことがある。

(26) 職人たちに、給料も、正月の餅代も払ってやらねばならない。

中訳：工钱和过年的年货钱一定要发给工匠们才行。

筆者訳：○ 一定要发工匠们工钱和过年的年货钱才行。

(27) そう云いながら、私は殊更下手な手を打って相変らず(彼女に)負けてやります。

中訳：我虽然这么说，却故意走错了几步，仍然输给她。

筆者訳：＊ 我虽然这么说，却故意走错了几步，仍然输她。

上記の(26)(27)は、いずれも「二」格の受影者にモノを授与するとともに、恩恵利益を与えるということを表している。(26)においては、先行動詞の「払う」によって「二」格の受影者に対して、「給料」という「具象物」を授与することを表している。(27)は、「負ける」によって「二」格の受影者に勝利を与えるといった「抽象物の授与」を表している。「モノの授与」の意味はいずれも先行動詞によるものである。しかし、筆者訳に示すように(26)の中訳は必ずしも“給”構文に訳すとは限らないのに対し、(27)の中訳は“給”が不可欠である。それは“发”(払う)という動詞の意味には受け手に対するモノの授与のことを含んでいるのに対し、“输”(負ける)にはそういう授与の意味を含まず、必ず“给”と共に起して、授与の意味を表さなければならないからである。中国語では、“发”(払う)は三項授与動詞であるので、(26)の筆者訳では、「发 N1(工匠们)N2(工钱)」の二重目的語授与構文になれる。それに対し、(27)の“输”(負ける)は二項動詞であるので、“输比赛”(試合に負ける)とは言えるが、“输她比赛”、“输给她比赛”、“输比赛给她”の二重目的語構文はいずれも成り立たず、“输”には授与の意味が含まれていないと考えられる。対戦相手の彼女に負け、勝利を与えるという意味合いを中国語に訳す場合、“输给她”という“V 给”構造をしなくてはならない。“输”と同じように、“递”(手渡す)も“给”と必ず共起しなければならない。

(28) 馬丁に荷物を運ばせ終ると、玉枝は何がしかの錢を半紙にくるんで(馬丁に)手渡してやり、いそいで、裏の藪を横切って、喜左衛門の墓に詣でたのである。

中訳：马夫搬完了行李后，玉枝用半纸包了些钱递给马夫，然后急忙穿过屋后的竹丛，径直朝喜左卫门的坟墓走去。

(28)の中訳では、“递给马夫钱”より、“递马夫钱”(馬丁にお金を手渡す)は座りが悪いので、翻訳上“V 给”が必須的であると考えられる。

従って、「二」格で受影者を導く「テヤル」構文のうち、先行動詞による「モノの授与」を表している文において、先行動詞が中国語の三項動詞の意味に訳される場合、“给”構

文に訳すのが可能であるが、必須ではない。中国語の二項動詞の意味に訳される場合、必ず“給”構文に訳さなければならない。このことから、先行動詞の意味のみによって「ニ」格で受影者を導く「テヤル」構文は必ずしも中国語の“給”構文に訳すとは限らないことが明らかになった。

4.4.3 “給”構文に訳せない場合

表3のデータによって“給”構文に訳せず、無標構文のみに訳すのは60例であり、いずれも先行動詞によっても「テヤル」によっても「モノの授与」が読み取れないものである。

(29) 大学院へ行き、康子と結婚し、博士の学位をとって、あの刑事に復讐してやろうという考えも浮んだ。

中訳： 我还能上研究院，还能同康子结婚，取得博士学位，还能向那个便衣警察报仇……

筆者訳：# 我还能上研究院，还能同康子结婚，取得博士学位，还能给那个便衣警察报仇……

(30) 母親としてどんな態度で(子供に)接してやるべきでしょうか。

中訳： 作为母亲应该以什么态度去跟孩子接触呢？

筆者訳：* 作为母亲应该以什么态度去给孩子接触呢？

(31) 困ったな。まあ俺が(あなたに)ついててやるから、安心しな。

中訳： 真不好办。不过我陪着你，你就放心吧。

筆者訳：* 真不好办。不过我给你陪着，你就放心吧。

上記の(29)～(31)では、受影者を導く「ニ」格は先行動詞の「復讐する」、「接する」、「つく」の項であり、その生起は「テヤル」と関係ない。また、「復讐する」、「接する」、「つく」といった動作は「ニ」格の受影者に働きかけるものであるが、それらの動作によって受影者に対して何らかのモノを授与する意味が読み取れず、受影者に対して単純に動作を

行うのみである。「テヤル」の付加によって(29)は動作主の動作を行う意志を表明することを表し、(30)と(31)は動作主の受影者に対する恩恵的感情を表しているが、いずれも何らかのモノの授与の意味に関わっていない。つまり、(29)～(31)では、先行動詞の意味によっても「テヤル」によっても文全体の意味に「モノの授与」をもたらしていないと言える。“給”構文に訳せば、(29)の訳は「あの刑事のために、誰かに復讐してやる」の意味になってしまい、(30)(31)の訳は非文になってしまうため、いずれも“給”構文に訳すことができない。

4.5 「ノ」格で受影者を導く「テヤル」構文

表3によれば、「ノ」格で受影者を導く「テヤル」構文は114例である。そのうち、無標構文と“給”構文のいずれにも訳すのは20例で、必ず“給”構文に訳すのは42例で、“給”構文に訳せないのは52例である。

4.5.1 無標構文と“給”構文のいずれにも訳し得る場合

表3によれば、無標構文と“給”構文のいずれにも訳し得る「テヤル」構文は20例で、以下の例文が該当する。コーパスの中訳は“給”構文ではないが、筆者訳に示すように、“給”構文に置換されても意味上差し支えない。

(32) やっと、飲みやんで、言いわけがましく女の口におしこんでやる。

中訳：好不容易喝完了，他近乎道歉地把水壶口塞到女人嘴里。

筆者訳：好不容易喝完了，他近乎道歉地把水壶口给女人塞到嘴里。

(33) 丑松は校長を助けて、人々の机の上に十月分の俸給を載せてやった。

中訳：丑松协助校长把十月份的薪水放在每人的办公桌上。

筆者訳：丑松协助校长把十月份的薪水给每人放在办公桌上。

(34) 諸君の音楽隊の指揮をしてやる。

中訳：我就做你们的乐队指挥吧。

筆者訳：我就给你们做乐队指挥吧。

(32) (33)では、動作主の「おしこむ」「載せる」といった動作によって「女」に「水」を与えるということを、「人々」に「俸給」を渡すということを表している。(34)においては、「指揮をする」という動作を通して、「諸君」が「指揮者」を所有するようになる。そのことから、「モノの授与」を見なすことができる。即ち、先行動詞の意味によって受影者に何らかのモノを授与するという意味が読み取れるので、筆者訳のように、“給”構文にも訳し得る。ただし、あくまで先行動詞の意味による「モノの授与」であるので、“給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。「テヤル」の付加によって動作主が受影者に対する恩恵的感情を表しているが、「モノの授与」には関与していない。

さらに、以下の「テヤル」構文でも「モノの授与」を表していると考えられる。

(35) 太郎は花子の目を検査してあげる。(作例)

筆者訳：○ 太郎给花子检查眼睛。

○ 太郎检查花子的眼睛。

(36) 少し時間を割いて、子供の宿題を見てあげましょう。(作例)

筆者訳：○ 拿出一点点时间，给孩子检查作业吧。

○ 拿出一点点时间，检查孩子的作业吧。

(37) 君の手相を見てあげるよ。(作例)

筆者訳：○ 我给你看看手相。

○ 我看看你的手相。

(35)～(37)では、「目を検査する」「宿題を見る」「手相を見る」といった動作に伴って、必ず「花子」に目に関する検査の情報、「手相」に関する情報、「子供」に宿題に関するアドバイスなどの情報を伝えることを表している。つまり、先行動詞の意味によって「受影者への情報提供」という「モノの授与」が表されている。(32)～(34)と同様に、“給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。

4.5.2 必ず“給”構文に訳す場合

検索された「ノ」格で受影者を導く「テヤル」構文においては、先行動詞の意味によっても「テヤル」によっても「モノの授与」の意味合いを一切読み取れないにもかかわらず、“給”構文に訳されているのは42例である。

- (38) 僕はウィスキー・ソーダをひとくち飲み、緑のくわえたマルボロにマッチで火をつけてやった。

中訳：我喝了一口汽水威士忌，给绿子嘴上的“万宝路”点燃火。

- (39) さっき僕の月給をあげてやると云う御話でしたが。

中訳：刚才您说要给俺涨薪水。

- (40) 濡れ手拭でもこさえて、女の顔を拭いてやるとしようか。

中訳：绞一把湿手巾给女人擦把脸吧。

- (41) (彼女の) 湯上りの髪に櫛を入れてやりながら…。

中訳：她一边给女孩梳着头发…

(38)～(41)では、受影者の所有物か身体部位に対して働きかけた結果、受影者の所有物か身体部位にある物理的な変化を起こし、その変化は受影者にとって好ましいものであることが表されている。(38)では、「緑の煙草」に火をつけるという動作によってタバコを吸うことができるようになるという変化が生じる。(39)では、「月給が増える」という変化を表している。(40)「女の顔」を拭くことを通して、顔がきれいになるといった変化が生じる。(41)では、髪に櫛を入れることによって受影者の「彼女」には「髪がぼさぼさからさらさらになる」といった変化が生じる。「テヤル」の付け加えで、その変化は受影者への現実的な恩恵利益と見なされている。それは受影者がいずれも「のために」で導くことができるからである。従って、受影者の具体的な所有物に生じた変化は受影者にとって好ましいものである。

先行研究では、盧(2000)は「NP1+給+NP2+V+NP3」の“給”構文に関して、以下のよ

うに述べている。

『給+NP2』の『NP2』は実際その動詞の被動体である場合がある。それと関連するものだが、NP3 が NP2 の所属物の場合も、この受益構文になる。最も典型的なのは、身体語彙(body part lexeme)が NP3 になる場合である。(中略)NP3 が NP2 の所属のものならば、総てこの構文になる」

(盧 2000 : 193)

佐々木(1994)も“給”受益文の成立に関して、以下のように主張している。

「受益者の代わりに動作・行為を行う場合であっても、“給”受益文が成立する背景には、その対象(中略)が受益者の所有物であるか、少なくとも受益者と密接な関係にあるもの、という認識が常に必要とされるのである」

(佐々木 1994 : 320)

(38)～(41)は佐々木(1994)と盧(2000)の指摘に一致しているが、(42)～(44)では、受影者の身体部位に働きかけることによって受影者の感覚に変化をもたらすことを表している「テヤル」構文を“給”構文に訳せば、不自然か非文になる場合がある。

(42) お苦しうなといって(彼の)腹をさすつて遣ると水あたりの差込の留まった
のがある。 (括弧は筆者による)

中訳：她对另一个饮水中毒的说：‘你好象挺难过的。’给他揉揉肚子，侧腹的剧疼就止住了。

(43) 直也は加奈の背をさすつてやりながら、耳もとでささやいた。(少納言)

筆者訳 1：○ 直也摸着加奈的背，在耳边轻声说道。

筆者訳 2：？ 直也给加奈摸着背，在耳边轻声说道。

(44) 「おい、親分の足が冷えている。さすつてやれ」。(少納言)

筆者訳 1：○ 喂，老大脚冷。给他揉揉。

筆者訳 2 : ? 喂, 老大脚冷。揉揉。

(42)において、文脈によって受影者である「彼」の現存状態は「腹が痛い」というものであり、この状態は「彼」にとって良くないことである。これを「－状態」と記す。ここで「さする」という動作で、「腹が痛い」から「腹が痛くない」という状態に変わる。「腹が痛くない」の状態は「彼」にとって良いことなので、「＋状態」と記す。このように「－状態」から「＋状態」になるという変化によって受影者への恩恵利益を表している。この場合、“給”構文に訳さなければならない。

(43) (44)は先行動詞が同じ「さする」であるが、「－状態」から「＋状態」に変わるという変化の意味が読み取れない限り、“給”構文に訳すと、不自然な文になる。

(43)では、「通常通りの加奈の背をさする」ということを通して、受影者の「加奈」の気持ちをよくさせるという変化の意味合いが読み取れる。「背の通常の状態」を「0 状態」と表記すれば、その変化は「0 状態」から「＋状態」に変わるということである。筆者訳に示すように、“給”構文に訳すと、不自然である。ただし、「加奈の背が痛いので、その痛みを緩和するために背をさする」という「－状態」から「＋状態」という変化が起こる文脈が想定されれば、“給”構文に訳さなければならない。

(44)では、「さする」という動作によって「親分の足」が冷たい状態から暖かい状態になることによって受影者の感覚も「－状態」から「＋状態」に変わるといった好ましい変化の意味合いが読み取れ、“給”構文に訳さなければならない。(44)の筆者訳 2 においては、“給”がないと、「足をさする」という単純に動作を行うことしか表さないのである。わざわざ親分のために動作を行うニュアンスがなくなってしまう。それは「テヤル」構文の恩恵的な意味にそぐわないので、不適切であると考えられる。

以下の例のように同じ受影者の身体部位に働きかけて、「－状態」から「＋状態」という変化を表さない「テヤル」構文は“給”構文に訳せない。

(45) 仕方ないから私、その子の頭を抱いて撫でてあげたわよ、よしよしってね。

中訳：无奈，我抱着抚摸着她的头，连声答应说：好的好的。

筆者訳：* 无奈，我给她抱着抚摸着头，连声答应说：好的好的。

(46) 手をにぎってあげてるの。かわいそうなおばあちゃん。(少納言)

筆者訳：○ 握着她的手，可怜的老婆婆。

* 给她握着手，可怜的老婆婆。

(45)では、「彼女に抱いてほしいと言われると、彼女の頭を抱いて撫でている」という文脈であった。「撫でる」という動作を通して、女の気持ちをよくさせる。即ち、受影者の感覚が「0 状態」から「+状態」に変わるという変化である。(46)においては、「おばあちゃんの手を握る」を通して、おばあちゃんへの労わりの感情のみ表している。受影者の感覚に「0 状態」から「+状態」という変化を起こした。(45)(46)はいずれも“給”構文に訳せず、無標動詞文に訳されている。

また、受影者の所有物に好ましくない物理的な変化を起こした場合、以下の「テヤル」構文は“給”構文に訳せない。

(47) お前の最愛の娘を殺してやる。

筆者訳：○ 我要杀了你最爱的女儿。

* 我要给你杀了最爱的女儿。 (日本語の例文は山田 2004 : 200)

(48) 娘のスマホ、深夜禁止されているのに使ってたからぶっ壊してやった。(http://blog.livedoor.jp/love120331/archives/43516046.html)

筆者訳：○ 深夜是不允许玩手机的，但女儿玩了。所以就砸了女儿的智能手机。

* 深夜是不允许玩手机的，但女儿玩了。所以就给女儿砸了智能手机。

(47)(48)の「テヤル」構文においては、「殺す」「ぶっ壊す」といった動作によって受影者の所有物の「娘」「スマホ」には物理的な変化が起こっている。受影者の「お前」「娘」は「のために」で導けないので、それらの変化は受影者にとって好ましくないものと見なされている。それに加え、この場合の「テヤル」は動作主の動作を行う意志しか表さないもので、その意志の表明は“給”構文によって表現できない。従って、(47)(48)は“給”構文に訳せない。

まとめてみると、「ノ」格で受影者を導く「テヤル」構文に関して、受影者の身体部位に働きかけて「-状態」から「+状態」になるという変化を起こす場合あるいは受影者の具体的な所有物に好ましい物理的な変化が起こる場合は“給”構文に訳さなければならな

い。

4.5.3 “給”構文に訳せない場合

表3によれば、“給”構文に訳せず、無標構文のみに訳す「ノ」格で受影者を導く「テヤル」構文は52例で、そのうち、受影者の所有物が具象物である例が27例である。

- (49) 横から梶の身体を抱くような姿勢を取って、梶の上着のポケットをさぐってや
った。

中訳：要从旁边将梶抱起来似的，把手伸进梶的胸前小袋。

筆者訳：＊ 要从旁边将梶抱起来似的，给梶把手伸进的胸前小袋。

- (50) おれは、なに生意気な事をぬかすな、田舎者の癖にと、いきなり、傍に居た
師範生の頭を張りつけてやった。

中訳：我照着旁边师范生的脑袋就是一拳，骂道：“不要信口胡说，乡巴佬！”

筆者訳：＊ 我给旁边师范生打了一拳脑袋，骂道：“不要信口胡说，乡巴佬！”

- (51) 僕は彼のラジオをひつつかんで窓から放り投げてやろうと思ったが。

中訳：我恨不得一把抓起他的收音机抛出窗口。

筆者訳：# 我恨不得给他一把抓起收音机抛出窗口。

上記の(49)～(51)では、動作主が受影者の所有物に対して働きかけることを表しているが、「テヤル」の機能は受影者への恩恵的な感情を表すことではなく、動作主の動作を行う意志を強調したり表明したりすることである。それは受影者を「のために」で導くと、いずれも原文と違う意味を表してしまうからである。(49)では、「探る」という動作によって「ポケット」に物理的な変化を起こすわけではない。(50)では、「張りつける」という動作で「頭が殴られた」という物理的な変化の意味を読み取れるが、その変化は好ましいことではないため、“給”構文に訳せない。(51)に関しては、先行動詞の「放り投げる」は「誰かに何らかのモノを乱暴に出す」を表すため、「モノの授与」を含意していると言えるが、受影者の「彼」はモノの受け手ではない。あえて“給”構文に訳せば、対応する日

本語の文は二つある。一つは「僕はラジオをひつつかんで窓から彼に放り投げてやろうと思ったが」という文で、「彼」がラジオの受け手であることが表されている。もう一つは「僕は彼のために、そのラジオをひつつかんで窓から放り投げてやろうと思ったが」という文で、「彼」が動作主の動作から恩恵利益を受けたことが表されている。この二つの文の意味はいずれも元の「テヤル」構文の意味と異なっているため、“給”構文に訳せないと見なすことができる。

つまり、(49)～(51)においては、先行動詞によっても「テヤル」によっても「受影者に対しモノを授与する」ということが一切含意されていない。それに加え、「受影者のために」という意味ではないので、変化があっても好ましくないものである。従って、(49)～(51)の「テヤル」構文は“給”構文に訳せない。

一方、以下のように「ノ」格の受影者の抽象的な所有物に対して働きかけて、ある変化を起こすという意味を表している「テヤル」構文が 25 例あった。

(52) 放り出しておくといっても、幼児の食欲を満たしてやる世話をしなければなら
ないのはいうまでもありません。

中訳：尽管说放手，但不用说必须要照顾好孩子，使他们的食欲得到满足。

筆者訳：* 尽管说放手，但不用说必须要照顾好孩子，给他们满足食欲。

(53) 子どもの個性を抽き出し、最大限に伸ばしてやり、せつかくもって生まれた才
能を開花させないまま終わらせる不幸を防ぐのが第一の目的です。

中訳：它的目的首先在于培养孩子的个性，最大限度地加以发挥，使他天赋的才能能够
开花结果，不致终生埋没。

筆者訳：* 它的目的首先在于培养孩子的个性，最大限度地给孩子发挥个性，使他天
赋的才能能够开花结果，不致终生埋没。

(52)(53)では、「満たす」「伸ばす」といった先行動詞の意味によって「食欲が満足される」「個性がより生かされる」という変化の意味が読み取れる。また、「幼児」「子ども」は「のために」で導けるので、その変化は好ましいものである。ただし、その変化も「0 状態」から「+状態」に変わるというものである。そのため、身体部位と同様に、受影者の所有物が抽象物である「テヤル」構文は“給”構文に訳せず、無標構文に訳されている

のである。

4.6 「ノタメニ」で受影者を導く「テヤル」構文

検索された例文のうち、「ノタメニ」で受影者を導く「テヤル」構文は 159 例で、構文上受影者を「～のために」で表現することができる。この構文は受影者が先行動詞の項ではないことが特徴である。

4.6.1 無標構文と“給”構文のいずれにも訳し得る場合

表 3 によれば、“給”構文と無標構文のいずれにも訳すのは 42 例で、いずれも先行動詞の意味によって「モノの授与」を表している。

- (54) あしたな、わいは、足を棒にして、(あなたのために)京都じゅうの産婆を廻ってやるわ。ええか、園子はん、安心おし。

中訳：明天，哪怕走断了腿，我也要跑遍全京都寻找产婆，喔，园子姐，你放心。

筆者訳：明天，哪怕走断了腿，我也要跑遍全京都给你寻找产婆，喔，园子姐，你放心。

- (55) しかし、自分の血を分けた娘だから、(彼女のために)一応相談に乗ってやらなければならぬ。

中訳：然而，毕竟是自家亲生女儿，还是要大致同她谈谈才是。

筆者訳：然而，毕竟是自家亲生女儿，还是要大致给她谈一下才是。

- (56) (彼女のために)母屋へ行って着物の包みを取って来てやり、彼女の前へ放り出すと、彼女は一言も云わないで、つんとしてそれを着換えました。

中訳：我去正房那边取来装着衣物的包袱，放在她面前。她一言不发，以冷傲的态度换上了衣服。

筆者訳：我去正房那边给她取来装着衣物的包袱，放在她面前。她一言不发，以冷傲的态度换上了衣服。

(54)～(56)では、「産婆を廻る」「相談に乗る」「取って来る」の意味によって「産婆を

見つけてあなたに紹介する」、「相談に乗って、アドバイスなどをあなたに与える」といった情報の伝達および「包みを渡す」という受影者への「モノの授与」の意味が読み取れるため、“給”構文に訳すことができる。その「モノの授与」は先行動詞の意味によるもので、「テヤル」と関わっていないので、無標構文と“給”構文のいずれにも訳し得る。

4.6.2 必ず“給”構文に訳す場合

以下のような「ノタメニ」で受影者を導く「テヤル」構文は必ず“給”構文に訳さなければならない。それらの「テヤル」構文はいずれも「受影者の領域の変化」の意味あるいは「テヤル」による「モノの授与」の意味を表す。表3によれば、この構文は62例あった。そのうち、「受影者の領域の変化」を表している「テヤル」構文は23例である。

(57) こんなに砂が付いているから、(お前のために)払ってやっているんじゃないか。
中訳：沾上这么多沙子，我是给你掸沙子呢。

(58) こっちも、(お前のために)縄を解いてやったんだから、なんとかしろよ！
中訳：我这头已经给你解开了绳子，你就不能做点什么嘛！”

(59) 此方は此方で、(ナオミのために)足りないところを家庭で補ってやればいいのだ。
中訳：我就照我的办法做，学习不足的地方，在家里给纳奥米补上也就行了。

(57)～(59)では、先行動詞の意味によっても「テヤル」によっても「モノの授与」の意味を読み取ることがまったくできない。(57)と(58)においては、「砂」「縄」が受影者の体に付いているものなので、受影者の所有物と見なすことができる。「砂」と「縄」は「払う」「解く」という動作によってなくなるという物理的な変化が生じるという意味合いが読み取れる。受影者は「ノタメニ」で導けるので、「テヤル」は動作主の恩恵的な感情を表し、それらの変化は好ましいものと見なすことができる。検索された23例のうち、21例は受影者の具体的な所有物に好ましい物理的な変化が起こるという意味を表している。4.5節の説明に従い、受影者の具体的な所有物に好ましい物理的な変化が生じる場合、「テ

ヤル」構文は必ず“給”構文に訳す。ただし、ここでは受影者を表示するのは「ノ」格ではなく、「ノタメニ」である。(59)では、「足りないところ」は「ナオミ」の抽象的な所有物であり、「補う」という動作でその「足りないところ」が消滅するという変化を表している。受影者の抽象的な所有物が動作によって消滅することが表されている「テヤル」構文は2例であり、“給”構文に訳さなければならない。

受影者の領域に存在するものと言え、「受影者の～」(～は存在するものを指す)という構造ができれば、その「～」は受影者の領域に存在するものと見なされている。もし受影者の領域のものではない、あるいは受影者の領域のものに変化がない場合、「テヤル」構文は“給”構文に訳せない。

(60) 僕は母親のために市場へ行ってやった。

訳： * 我给妈妈去了市场。 (佐々木 1994 : 321 一部改変)

筆者訳：○ 我为妈妈去了市场。

(61) (お前のために)一走りしてきてやろう。

訳：我给你跑一趟吧。 (佐々木 1994 : 322 一部改変)

(60)では、「母親の所有している市場」ということが成り立たないと「市場」は「母親」の領域に存在するものではないので、「市場」に変化があっても受影者の「母親」の領域に変化が生じるとは言えない。一方、たとえ「母親の所有している市場」が成立するとしても、「行く」という動作で「市場」に物理的な変化が起こるわけではない。そのため、「母親」の領域には何らかの変化が生じるという意味合いが全く読み取れない。従って、(60)は“給”構文に訳せない。

(61)では、「一走りしてくる」は「用事を済ます」という意味である。これに「テヤル」を付加することで、「用事を済ました」ことが受影者にとって好ましいものであるということを表している。この文には「受影者を「お前のために」という形式で補うことができる。つまり、受影者の領域に存在する抽象物の「用事」は動作主の動作でなくなることが好ましいとされているのである。そのため、(61)は“給”構文に訳さなければならない。

まとめて言えば、「受影者の領域の変化」とは受影者の具体的な所有物に物理的な変化

が生じること、あるいは受影者の領域に存在する抽象物がなくなることを指す。

一方、コーパスから「テヤル」による「モノの授与」を表している「テヤル」構文が39例検索された。いずれも“給”構文に訳さなければならない。

- (62) もし、添書が必要だというなら、(彼女のために)判子の十や二十くらい、いつでもよろこんで押してやろう。

中訳：假如需要添加文件的话，咱的图章就是按一、二十下咱也随时都高高兴兴地给她按。

- (63) 子どもが、自分で考え、自分で行動しようとするのに(子供のために)必要な材料をそろえておいてやらなければならない。

中訳：应该让他们自己思考、自己行动，并给他们提供必须的材料。

- (64) いや、もうたくさん。(あなたのために)タクシーを拾ってあげますから、お帰りなさい。

中訳：不，已经够了。我给你叫出租汽车，你回去吧。

(括弧は筆者による)

(62)～(64)では、「押す」「揃えておく」「拾う」といった動作によってそれぞれ「書類の作成」という「モノの作成」、「材料の用意」「タクシーをつかまえる」という「モノの入手」を表している。さらに、「テヤル」を付け加えると、作成したモノを受影者に与える、入手したモノを受影者に利用させてあげるという意味合いで、受影者がモノの最終的な受け手であることが読み取れる。つまり、(62)～(64)は「テヤル」によって「モノの授与」の意味を表しているので、必ず“給”構文に訳さなければならない。

4.6.3 “給”構文に訳せない場合

「ノタメニ」で受影者を導く「テヤル」構文のうち、“給”構文に訳せないのは55例である。すべては先行動詞によっても「テヤル」によっても、「モノの授与」の意味を表していないのに加え、「受影者の領域の変化」という意味も読み取れない。

(65) 克平の出方次第でそれも(克平のために)あきらめやってもいいと思っている。

中訳： 心想只要克平态度好些，自己未偿不可放弃反对意见。

筆者訳：＊ 心想只要克平态度好些，自己未偿不可给他放弃反对意见。

(66) 弥々明日が手術という夜は、皆寝静まってから、しくしく蚊のように泣いているのを、手水に起きた娘が見つけて(彼のために)あまり不便さに抱いて寝てや
った。

中訳： 动手术的前夜，大家都睡下后，在一片寂静中，他象一只蚊子似的嚶嚶饮泣。姑娘起来解手，看见他这样，出于恻隐之心搂着他睡了。

筆者訳：＊ 动手术的前夜，大家都睡下后，在一片寂静中，他象一只蚊子似的嚶嚶饮泣。姑娘起来解手，看见他这样，出于恻隐之心给他搂着睡了。

(67) いいわよ、となりにいるくらいいくらでも(お前のために)いてあげるからって私言ったの。

中訳： 我说好的，陪多久都可以。

筆者訳：＊ 我说好的，给你陪多久都可以。

(65)～(67)では、「あきらめる」「寝る」「いる」といった動作によってそもそも何らかの「モノの作成」か「モノの授与」の意味が一切含まれていない。さらに、「寝る」「いる」はあくまで動作主自身の動作で、受影者と関係ない。また、「あきらめる」の対象は受影者領域に存在するものではなく、動作主自身の「反対意見」である。そのため、「あきらめる」「寝る」「いる」といった動作によって受影者に何らかの変化をもたらすわけではない。従って、(65)～(67)の「テヤル」構文は“給”構文に訳せず、無標構文のみに訳す。

4.7 「へ」格で受影者を導く「テヤル」構文

表3に示すように、受影者を「へ」格で導く「テヤル」構文は3例で、以下の例文が該

当する。

- (68) 私ひとりで、心細さのあまり和田の叔父さまへ、お母さまの御様子の変った事を葉書にしたためて知らせてやった。

中訳：我一个人很担心，于是写了一张明信片给和田舅舅，把母亲的病情变化告诉他。

筆者訳：我一个人很担心，于是写了一张明信片给和田舅舅，把母亲的病情变化给他说了。

- (69) また、嫁ぎ先のお金を、里の弟へこっそり融通してやるなど、たいへん工合いの悪い事のようにも思われたので…。

中訳：而且我觉得，私下把男方的钱接济娘家弟弟很不合适。

筆者訳：而且我觉得，私下把男方的钱接济给娘家弟弟很不合适。

- (70) 知り合いの中には、随分骨を折って、教師の職にありつきたがっているものがあるから、その方へ廻して遣ったら好かろうと書いた。

中訳：我告诉他，有个朋友正绞尽脑汁想谋求教员的工作，可以转让给他们。

筆者訳：我告诉他，有个朋友正绞尽脑汁想谋求教员的工作，可以给他们。

(68)～(70)では、先行動詞の「知らせる」「融通する」「廻す」の意味に「情報の伝達」「金銭の貸し借り」「送り渡す」といった「モノの授与」が含まれている。そのため、先行動詞の意味によって“給”構文に訳すことができる。この場合、「テヤル」は「授与」の機能を果たしておらず、動作主の受影者への恩恵的感情を表すのみであり、「モノの授与」の意味生起に関わっていない。

(70)の筆者訳における“給”は動詞であり、先行動詞「廻す」に含まれている「渡す」という意味を表し、本章でいう“給”構文のパターンではない。従って、先行動詞の意味による「モノの授与」を表す場合、必ず“給”構文に訳さなければならないわけではなく、無標構文と“給”構文のいずれにも訳し得る。

4.8 受影者が想定できない「テヤル」構文

本章では、受影者が想定できない「テヤル」構文とは、文の意味によって動作主以外の動作の影響を受ける人をいずれの格でも導くことができない文を指す。それは以下のような例文に該当する。

(71) 靴下もぬいで、指のまたをひろげ、風を当ててやる。

中訳：脱了鞋，叉开脚趾迎着风。

(72) この壁が邪魔だ、この壁を打っ壊してやりたいもんだ。

中訳：这堵墙碍事，我要砸烂它。

(73) 過飽和溶液は、ちょっとゆすつてやっただけでも、すぐに結晶を沈澱しながら、飽和点に移行してしまうものである。

中訳：“过于饱和”的溶液，只要稍微摇一摇，立刻就能使结晶沉淀，移行到“饱和点”。

(71)～(73)では、文の意味によって動作主の動作の影響を受ける人がいずれも格助詞か「ノタメニ」で導くことができず、想定できない。先行動詞の対象は「風」「壁」「過飽和溶液」であり、人を項として取るわけではない。それに加え、「テヤル」の付け加えで、動作主の動作を行う意志の表明を表すのみであり、誰かに恩恵を表すわけではない。そのため、受影者が意味上存在していない。従って、受影者を何らかの格か「ノタメニ」でいずれも表示できない「テヤル」構文は、受影者を文の必須要素とする“給”構文に訳せない。

4.9 まとめと先行研究の問題点の説明

4.3 から 4.8 節の分析をまとめると、以下のような翻訳規則になる。

- ① 「テヤル」による「モノの授与」を表す「テヤル」構文は必ず“給”構文に訳さなければならない。
- ② 「ノ」格で受影者を導く「テヤル」構文においては、受影者の具体的な所有物に

好ましい物理的な変化、あるいは身体部位に「－状態」から「＋状態」になるという変化が生じる場合は“給”構文に訳さなければならない。受影者の所有物が抽象物である場合、“給”構文に訳せない。

- ③ 先行動詞の意味による「モノの授与」を表す「テヤル」構文は、中国語の“給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。
- ④ 「ノタメニ」で受影者を導く「テヤル」構文では、受影者の領域にある具象物に物理的な変化が生じる場合、あるいは受影者の領域にある抽象物が消滅する場合は“給”構文に訳さなければならない。
- ⑤ 受影者が想定できない「テヤル」構文は“給”構文に訳せない。

①～⑤の翻訳規則に基づき、以下の「テヤル」構文に関する日中翻訳のフローチャートを提案する。

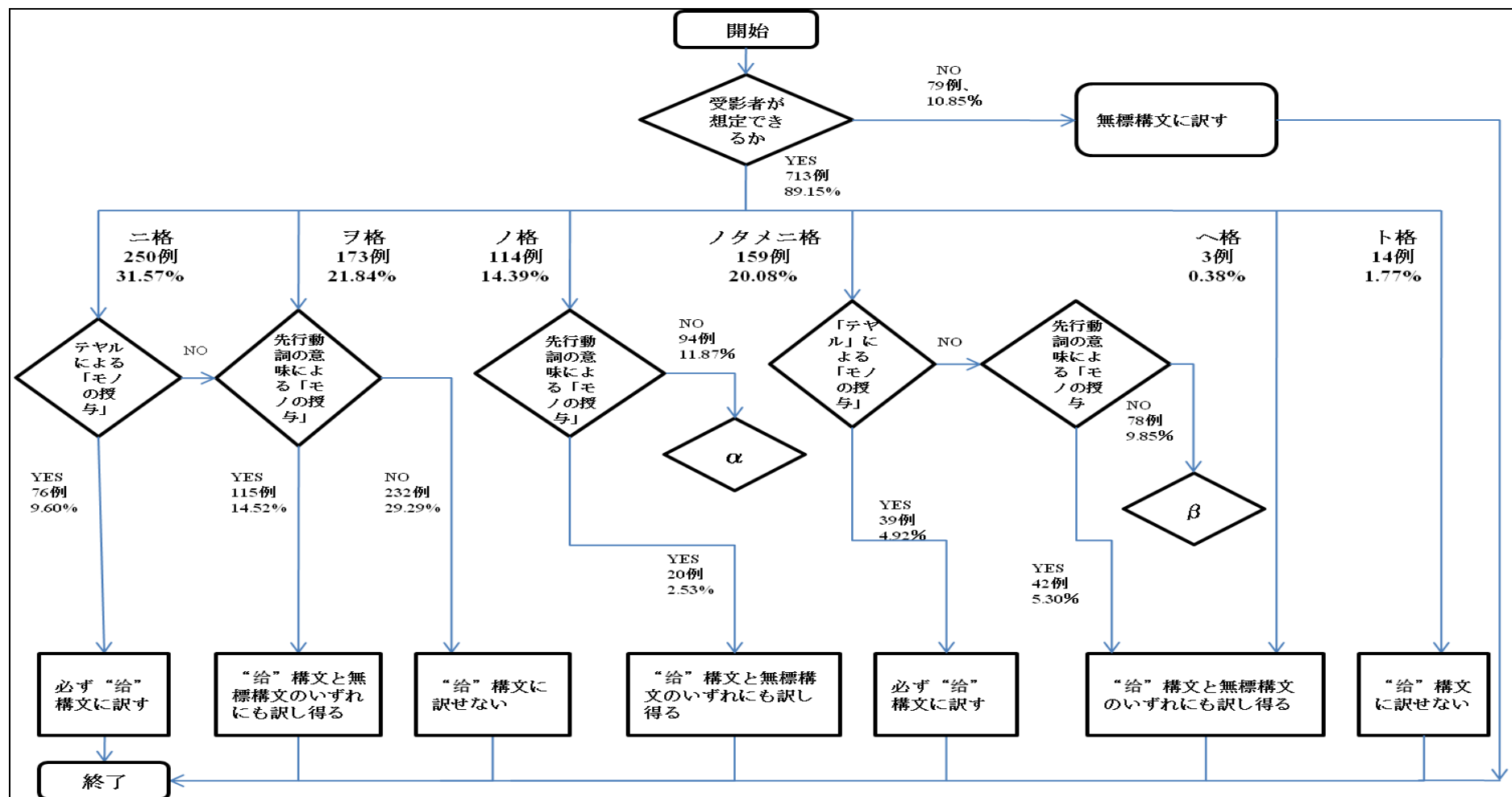


図1 「テヤル」構文の日中翻訳フローチャート

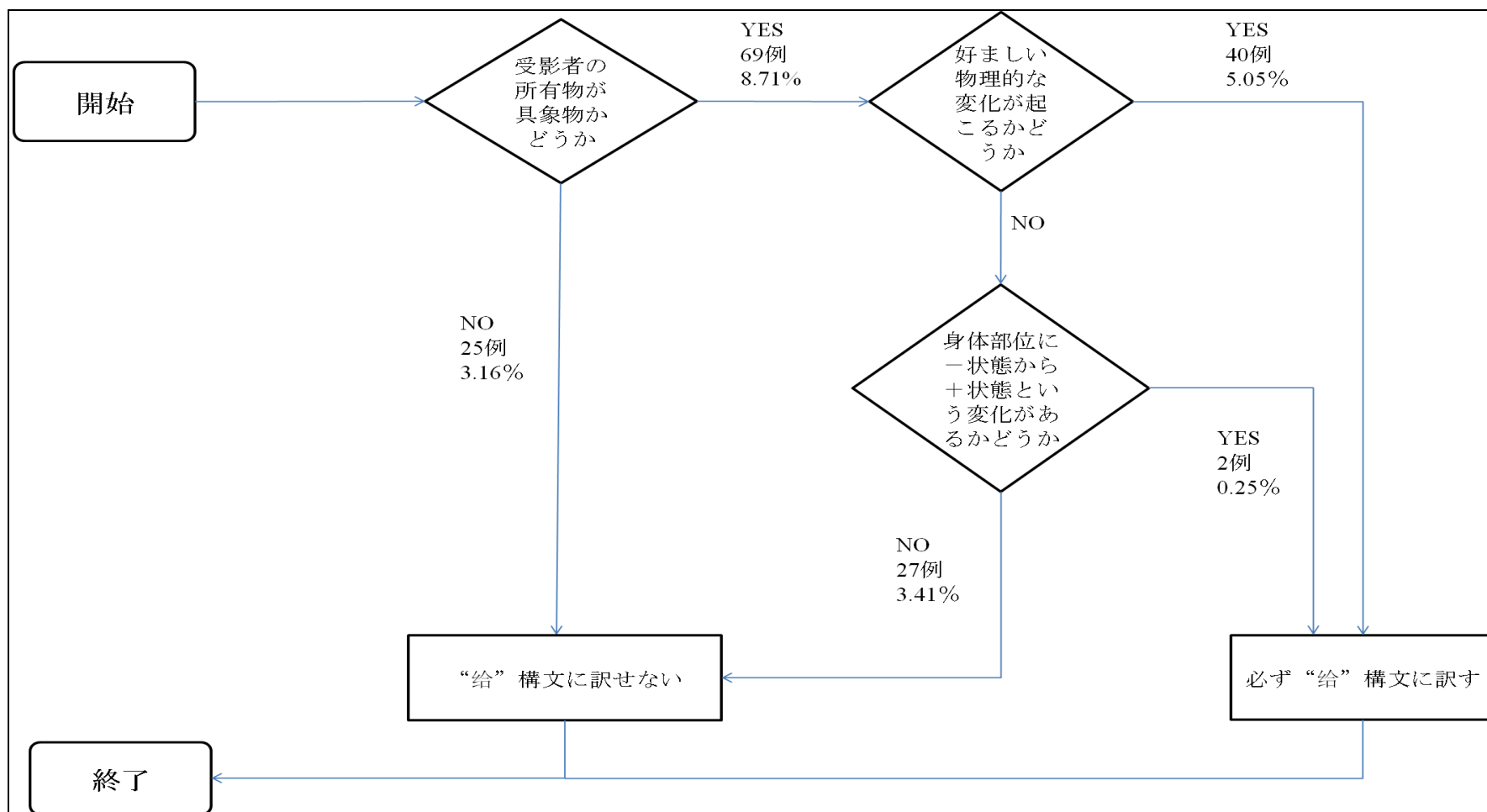


図1'-1 αのフローチャート

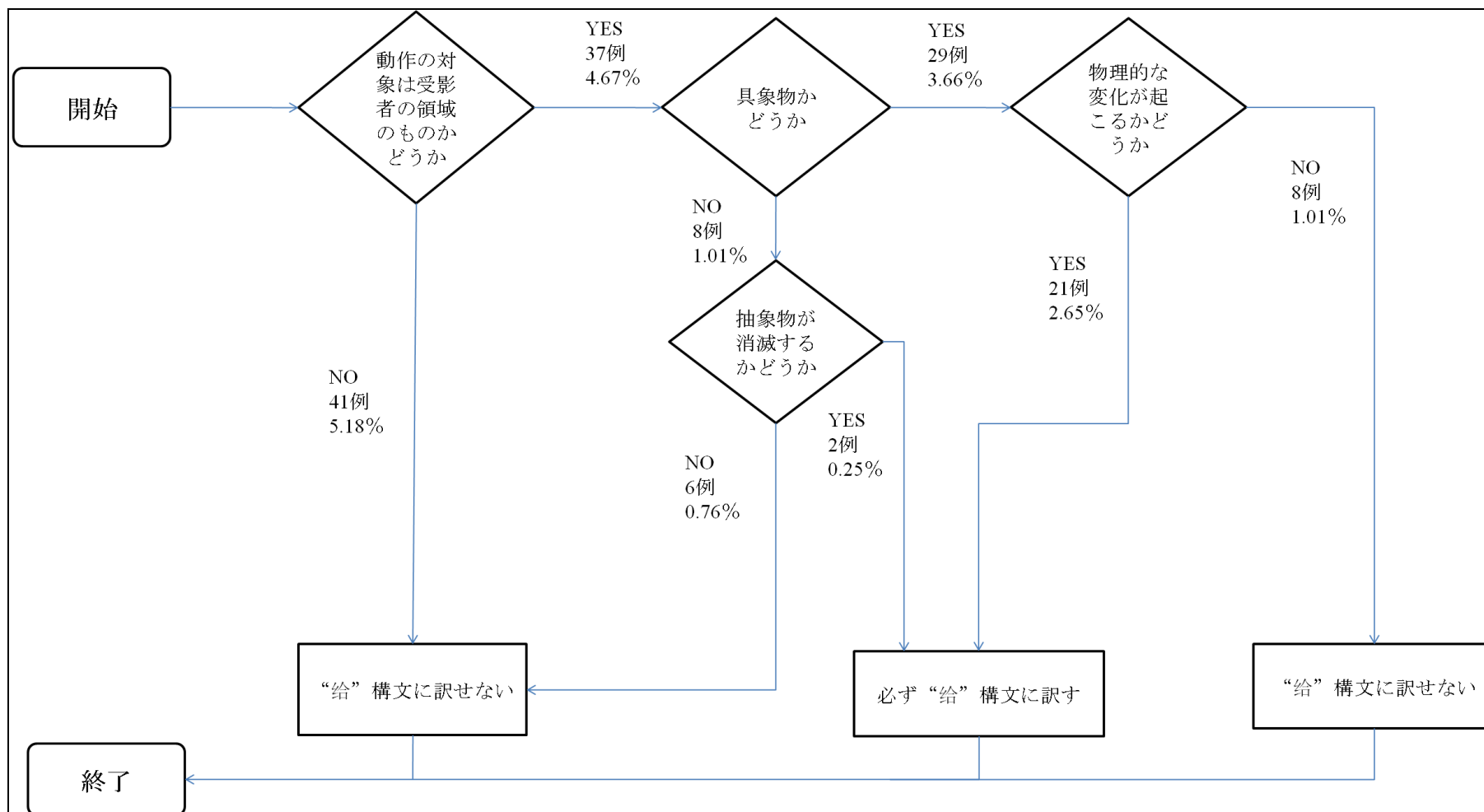


図1'-2 βのフローチャート

このフローチャートに基づけば、先行研究の実例および従来の分析で説明しきれない例も予測可能な形で翻訳できると思われる。

- (1) 目が醒めたときは起きていって、お茶を入れてあげることもあるけどな。(再掲)

訳：如果醒来了，有时候也给他泡杯茶。

- (2) いいわよ、話したいことあるんなら洗いざらい話しちゃいなさいよ。聞いてあげるから。(再掲)

中訳：○ 哪里。肚里有话要说，那就痛痛快快说彻底才好。我来听。

* 哪里。肚里有话要说，那就痛痛快快说彻底才好。我来给你听。

(1)は、構文上「ニ」格で受影者を導き、「お茶」を「ニ」格の受影者に授与する意味を表している。その「ニ」格は先行動詞の「入れる」の項ではなく、「テヤル」による項であるため、「テヤル」による「モノの授与」と見なされている。規則①に従い、翻訳上“給”構文に訳すのが必須であると考えられる。もし“给他”を取り除けば、対応する日本語の文は「お茶をいれることもある」になってしまい、動作主自身の動作しか表わさない。

(2)では、文の意味によって受影者を「ノタメニ」で導くことができる。「テヤル」による「モノの授与」でも「聞く」による「モノの授与」でもなく、また「聞く」という動作で受影者の領域にあるものとしての「話」という抽象物が消滅しない。そのため、規則③④に従い、“給”構文に訳せないと考えられる。

5 「テヤル」構文に関する日中翻訳規則の検証と説明

上記の翻訳規則を検証するために、BCCWJ(現代日本語書き言葉均衡コーパス 中納言)からランダムに「テヤル」構文を100例抽出し、上述の翻訳規則に基づき、中国語に翻訳した。その訳文を4人の中国語ネイティブにチェックしてもらった結果は以下の表4に示す。

表 4 「テヤル」構文の中訳の容認度の判断結果

ネイティブの 出身地 訳文の自然さ	北京市	黒竜江省	湖北省	浙江省	合計	比率
○	92	93	95	93	373	93.25%
△	7	7	4	6	24	6%
×	1	0	1	1	3	0.75%
合計	100	100	100	100	400	100.00%

○：自然 △：やや不自然だが、意味が通じる ×：非文

表 4 に示すように、自然な訳文が 93.25% を占めているため、本章でまとめた「テヤル」構文に関する日中翻訳規則の有効性は妥当なものであると言える。△と判断された「テヤル」構文のうち、先行動詞が「言う」「囁く」の例文は意味上情報伝達の「モノの授与」を表し、本章の翻訳規則で“给”構文に訳せるわけである。しかし、ネイティブの調査協力者から非文ではないが、“给”を“跟”“对”に変えた方がより自然であるとの指摘を受けた。△と×の例文は以下の通りである。

(74) 「かんけいないだろー」って(彼に)言ってやった。(括弧の受影者の表示は筆者による)

翻訳規則による訳：我给他说：“这和你没关系吧。”(4△)

調査協力者による訳：a 我对他说：“这和你没关系吧。”

b 我跟他说：“这和你没关系吧。”

(75) 「でしたら、こっちの道ですよ。」と、(彼に)教えてあげました。

翻訳規則による訳：于是给他说：“那样的话，就是这条路。”(4△)

調査協力者による訳：于是告诉他：“那样的话，就是这条路。”

(76) なぞなぞの答えならいつでも(お前に)与えてやる。

翻訳規則による訳：谜语的答案随时都可以给你说。(4△)

調査協力者による訳：a 谜语的答案随时都可以告诉你。

b 谜语的答案随时都可以给你。

(77) ニコルソンの耳元で、(彼に)囁いてやったんだよ。

翻訳規則による訳：在尼克尔松的耳边悄悄给他说。(4△)

調査協力者による訳：在尼克尔松的耳边悄悄对他说。

(78) センパイ、この人に話聞かせてやって、ね。

翻訳規則による訳：前辈，给这人也说说。(2△, 2○)

調査協力者による訳：前辈，跟这人也说说。

(74)～(78)においては、先行動詞は「言う」、「教える」、「答えを与える」、「囁く」、「聞かせる」の「言語情報」を伝える発話動詞である。意味上、それらの動作によって何らかの情報といった「抽象物」を受影者に与えるということを表している。本章の翻訳規則によって“給”構文に訳してもよいが、必須ではない。アンケート調査の結果から見ると、“給(受影者)说”(受影者に言う/教える/囁く/聞かせる)という構造の“給”構文が「やや不自然だが、意味が通じる」と判断されていることが分かる。ただし、『北京大学 CCL 语料庫』¹⁰から同じ“给(受影者)说…”の構造を持っている例文を検索した結果、多くの実例が抽出された。以下はその一部分である。

①医院的侯主任给她说：“小郝你的脾气好，护理孩子耐心，现在交给你个新任务。”

②郝芝兰给他说：“我老家不这样吃，米糊糊里放盐，放青菜。”

③他母亲后来给别人说：这孩子将来有饭吃！”

④没有读完高中的哥哥好像还在给他说。

⑤往后有啥困难，你就给俺说。

⑥得写下来，回去给大伙说说。

⑦哈尼族的老人们会给你说：“它表示很有能力的人，是对英雄的赞语。”

⑧我还是分类给你说吧。

¹⁰北京大学漢語言語学研究センターによって開発された中国語のコーパス。

⑨愿意听听吧，我细细给你说。

⑩我经常给队员说。

⑪他说我给你说个有趣的事。

⑫你不用逼我吓我难为我了，我全给你说。

⑬我休息还早哩，给你说个故事。

(①～⑬は『北京大学 CCL 语料库』から)

つまり、“给(受影者)说”の“给”構文は絶対言わないわけではないと言える。またそれは先行動詞の意味によるもので、「テヤル」と関係がないことが明らかにされた。従って、アンケート調査の結果は先行動詞による「モノの授与」は必ず“给”構文に訳すわけではないという翻訳規則③の例外ではなく、逆にその規則の妥当性を確認したと考えられる。

(79) そのために(彼女のために/に)できるだけのことをしてやろうと、あんた、思わないのかい。

翻訳規則による訳：所以你不觉得应该给她做些力所能及的事么？(2△, 2○)

調査協力者による訳：所以你不觉得应该为她做些力所能及的事么？

(79)では、意味上、受影者を「ノタメニ」と「ニ」のいずれにも導くことができる。「できるだけのことをする」の意味によって何らかのモノを作成することが読み取れる。さらに「テヤル」の付加によって「モノの作成」の場合は受影者へのモノの授与の意味が表されている。つまり、(79)は「テヤル」による「モノの授与」を表している。調査協力者から“给”はやや尊大な意味であり、“为”のほうがそれほど強くないという意見があった。つまり、“给”と“为”はいずれも(79)の訳文にとって必須的な要素であり、両者に恩恵のニュアンスの違いのみあって、意味上差し支えないということである。4.9 節の規則①によって「テヤル」による「モノの授与」を表している「テヤル」構文は必ず“给”構文に訳さなければならない。従って、アンケートの調査結果は規則①に一致していると考えられる。

(80) 本人の劣等感を取り除いてあげる。

翻訳規則による訳：给当事人消除自卑感。(3△, 1○)

調査協力者による訳：a 消除当事人的自卑感。

b 翫当事人消除自卑感。

(81) 幸村の、のぞみをかなえてやるがよいとおもう。

翻訳規則による訳：我想给幸村实现愿望。(3×, 1△)

調査協力者による訳：我想翫幸村实现愿望。

(80)(81)の翻訳規則による訳は規則②に反する訳であり、いずれも「ノ」格で受影者を導く「テヤル」構文である。先行動詞の意味によって「劣等感がなくなる」、「のぞみが本当のことになる」の変化が起こるという意味合いが読み取れる。4.9 節の規則②に述べたように、所有物が抽象物であれば、“给”構文に訳せない。しかし、アンケート調査の結果から見てわかるように、(80)について調査協力者三人は「△」、一人は「○」を付けている。それによって規則②の妥当性には揺れが生じると考える。以下の例文の分析を通して、その揺れの原因を確かめる。

(82) 人の誤りを正してやる。(作例)

筆者訳：a 纠正别人的错误。

b 给人纠正错误。

(83) 子供の悪い癖を直してあげる。(作例)

筆者訳：a 纠正孩子的坏习惯。

b 给孩子纠正坏习惯。

(84) 一人ひとりの個性をととても尊重して、長所を伸ばしてやろうとしていることでした。

中訳：尊重每个孩子的个性，努力发挥孩子的长处。

筆者訳：* 尊重每个孩子的个性，努力给孩子发挥长处。

(82)(83)の「テヤル」構文においては、「正す」「直す」といった動作によって「誤り」「悪い癖」がなくなるという意味合いが読み取れるのである。それに対し、(84)では、「長所

を伸ばす」という動作によって長所はなくなるという意味合いを読み取ることができない。従って、規則②の補足として、抽象物が先行動詞の動作によって消滅すれば、“給”構文に訳すことができる。調査協力者はこの角度から(80)に対して「△」と「○」を付けたのであると思われる。

(81)については、三人の調査協力者が「×」、一人は「△」を付けていることによって基本的に規則②の妥当性を確認する証拠になると言える。「△」に関しては、調査協力者から「幸村にのぞみをかなえる機会あるいは具体的な援助をあたえる」の「モノの授与」の角度から見れば、訳文が通じられるという指摘があった。それは先行動詞の意味から「モノの授与」が読み取れるため、“給”構文に訳し得るという規則③に一致していると考えられる。

6 本章のまとめ

本章では、従来内省と少数の例文によって「テヤル」構文と“給”構文との対照を行った先行研究の問題点を指摘し、「テヤル」構文の日中翻訳のフローチャートを提案し、検証した。『中日対訳コーパス』から検索された「テヤル」構文の受影者の格に注目し、それによって分類した。各級の「テヤル」構文について、「モノの授与」と「受影者の領域の変化」という基準で、必ず“給”構文に訳す条件、無標構文と“給”構文のいずれにも訳し得る条件、“給”構文に訳せない条件を明らかにした。

本章における「モノの授与」は先行動詞の意味によるものと「テヤル」によるものに分けられる。

A 先行動詞の意味による「モノの授与」とは以下の A-1 と A-2 のいずれかに当たる。

A-1 先行動詞の動作対象にあたる具象物あるいは抽象物が先行動詞の動作によって受影者に移動したり、伝えられたりすること。

A-2 先行動詞の動作対象とは異なる何らかの抽象物が先行動詞の動作によって受影者にもたらされること。

B 「テヤル」による「モノの授与」とは

先行動詞が表す動作で作成した具象物が「テヤル」によって受影者に移動すること、

あるいは先行動詞によって生じた何らかの抽象物が「テヤル」によって受影者にもたらされることを指す。

本章における「受影者の領域の変化」とは以下のア～ウのいずれかに当たる。

- ア 受影者の領域に存在する具象物に好ましい物理的な変化が起こること。
- イ 動作によって受影者の身体部位に「－状態」から「＋状態」に変わるという変化が生じること。但し、「0 状態」から「＋状態」に変わるという変化が含まれない。
- ウ 先行動詞という動作によって受影者の領域に存在する抽象物がなくなること。

上の「モノの授与」と「受影者の領域の変化」という基準で、以下の「テヤル」構文の日中翻訳規則をまとめた。

- ① 「テヤル」による「モノの授与」を表す「テヤル」構文は必ず“給”構文に訳さなければならない
- ② 「ノ」格で受影者を導く「テヤル」構文においては、受影者の具体的な所有物に好ましい物理的な変化、あるいは身体部位に「－状態」から「＋状態」になるという変化が生じる場合は“給”構文に訳さなければならない。受影者の所有物が抽象物である場合、その抽象物が消滅するならば、“給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。消滅しないと、“給”構文に訳せず、無標構文のみに訳す。
- ③ 先行動詞の意味による「モノの授与」を表す「テヤル」構文は、中国語の“給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。
- ④ 「ノタメニ」で受影者を導く「テヤル」構文では、受影者の領域にある具象物に物理的な変化が生じる場合、あるいは受影者の領域にある抽象物が消滅する場合は“給”構文に訳さなければならない。
- ⑤ 受影者が想定できない「テヤル」構文 “給”構文に訳せない。

以上のまとめに従って、図1'のフローチャートを修正し、以下の図1のようになった。

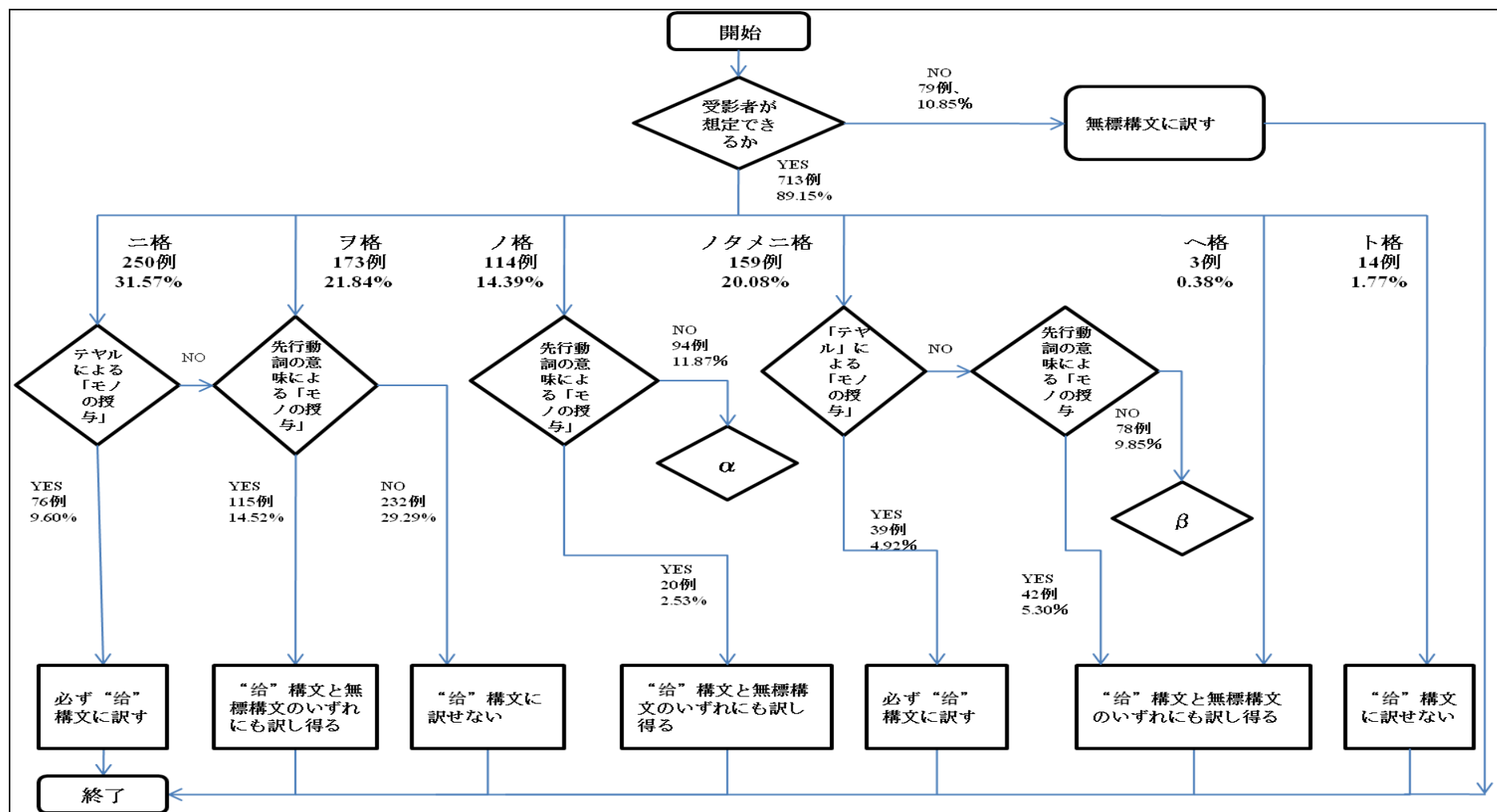


図1 「テヤル」構文の日中翻訳のフローチャート(再掲)

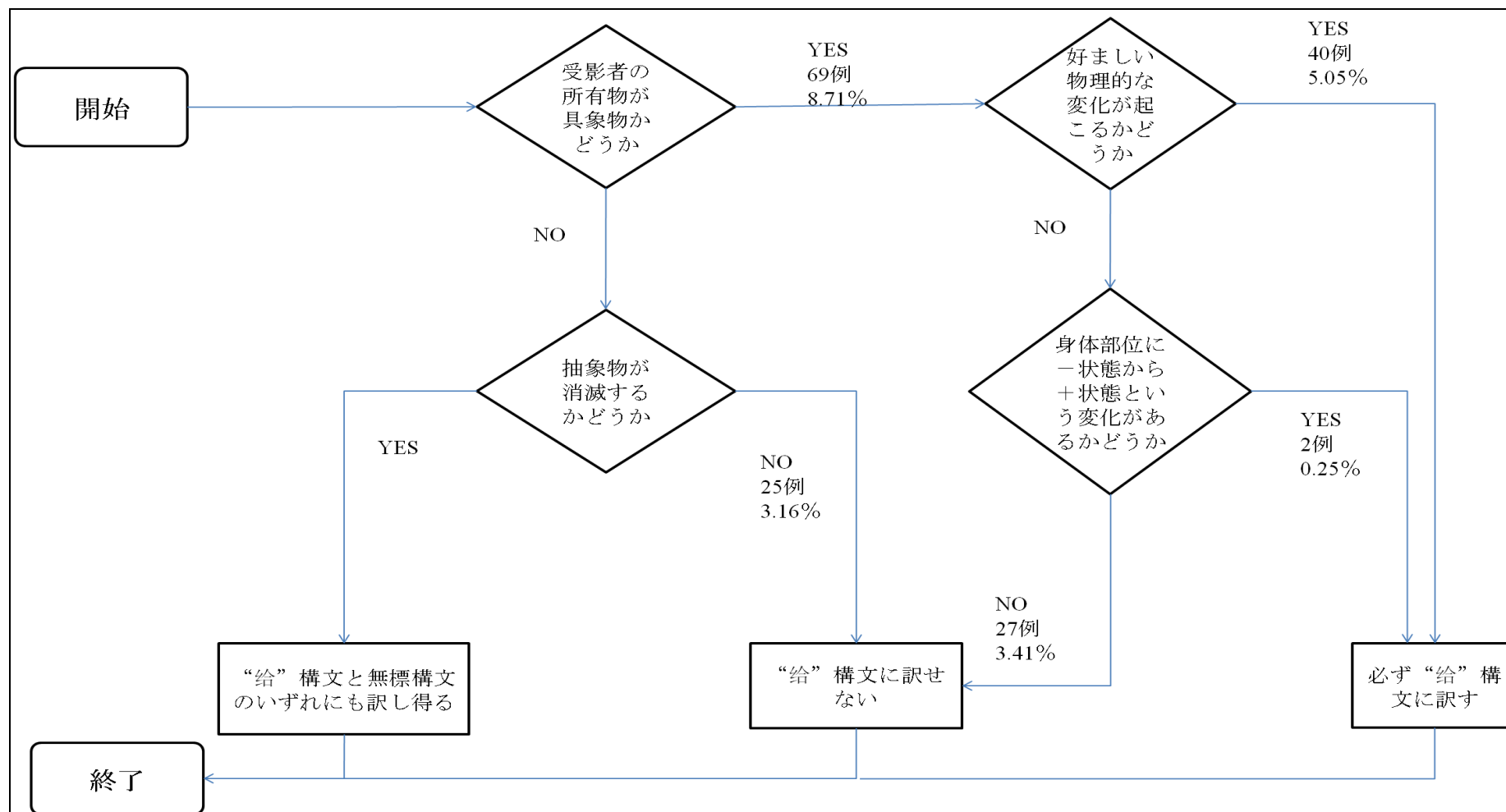


図 1-1 αのフローチャート (修正版)

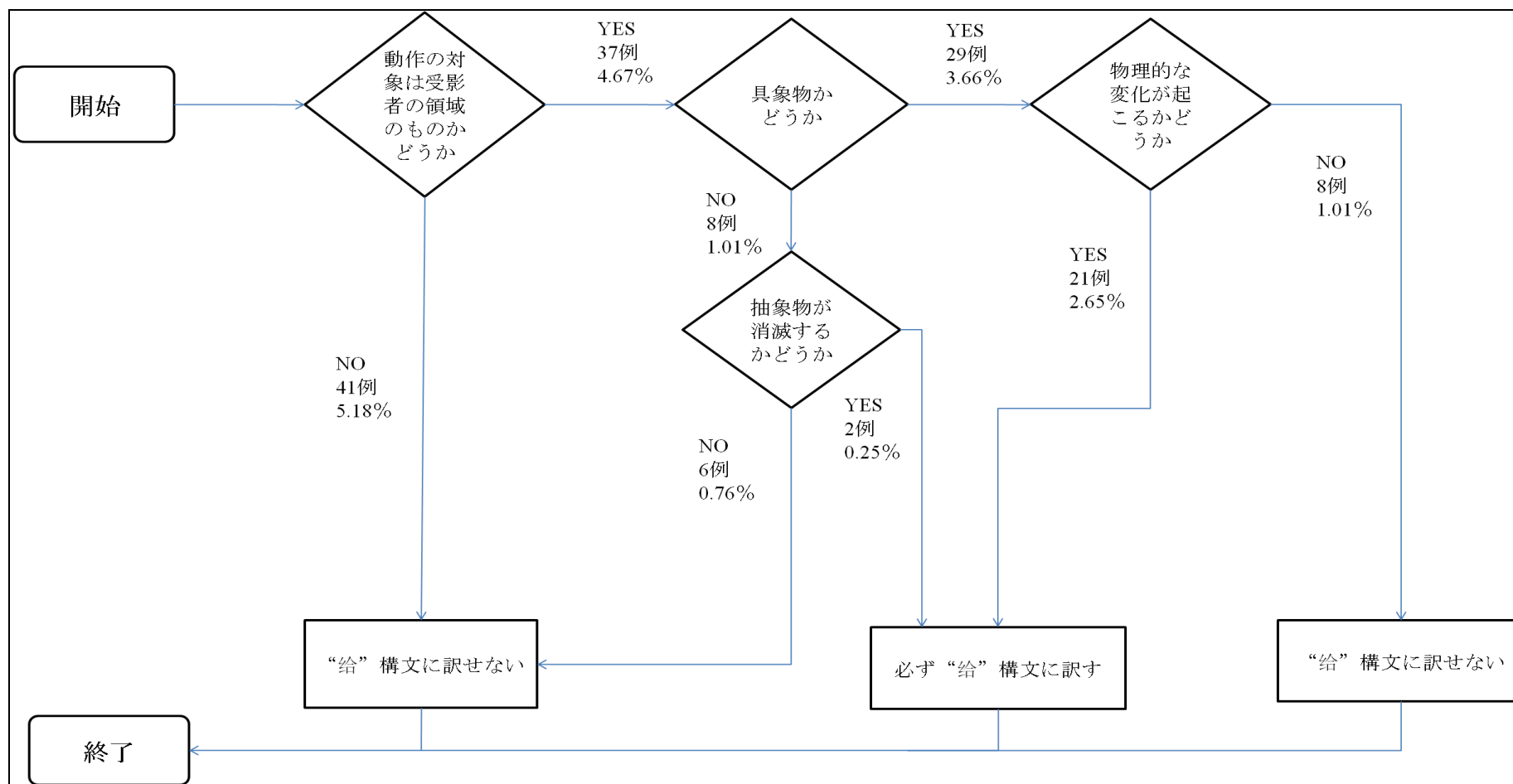


図 1-2 β のフローチャート (再掲)

第3章 「テクレル」構文に関する日中翻訳規則

0 本章の概要

第3章では、先行研究の問題点の解決に向けて、『中日対訳コーパス』から収集した1405例の「テクレル」構文およびそれらと対応している中国語の訳文を抽出する。さらに受影者の格によって「テクレル」構文を分類する。第2章の「テヤル」構文と同様に、「モノの授与」と「受影者の領域の変化」といった基準を立て、各パターンの「テクレル」構文の意味特徴によって、“給”構文に必ず訳さなければならない条件、無標構文と“給”構文のいずれにも訳し得る条件、“給”構文に訳せない条件をまとめる。それを踏まえ、「テクレル」構文の日中翻訳フローチャートを提案する。さらに、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(中納言)からランダムに実例を抽出し、フローチャートに従ってその実例を中国語に訳す。訳した文の容認度を中国語のネイティブにチェックしてもらうことで、フローチャートの有効性を検証する。提案するフローチャートは以下の通りである。

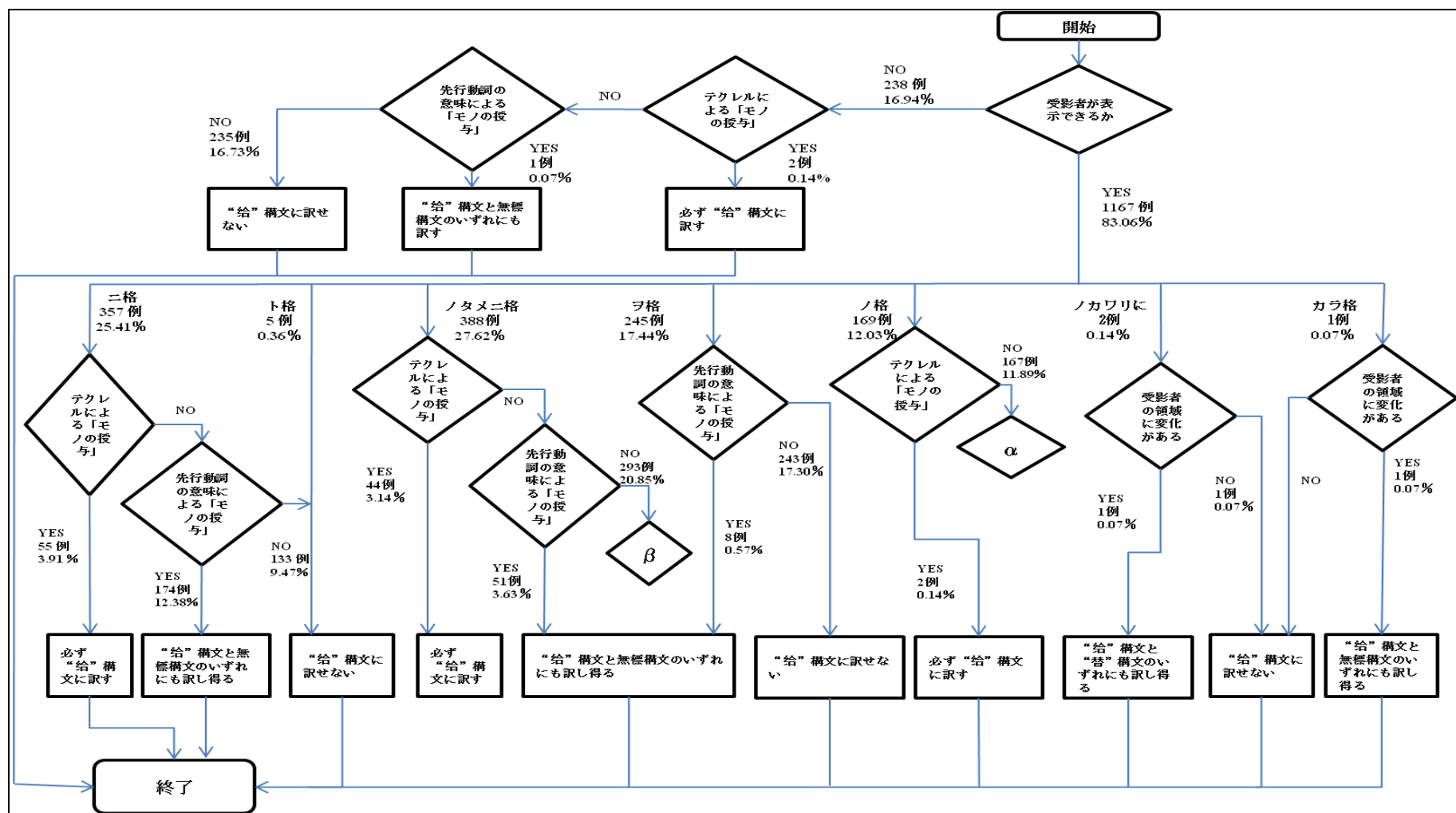


図1 「テクレル」構文の日中翻訳のフローチャート

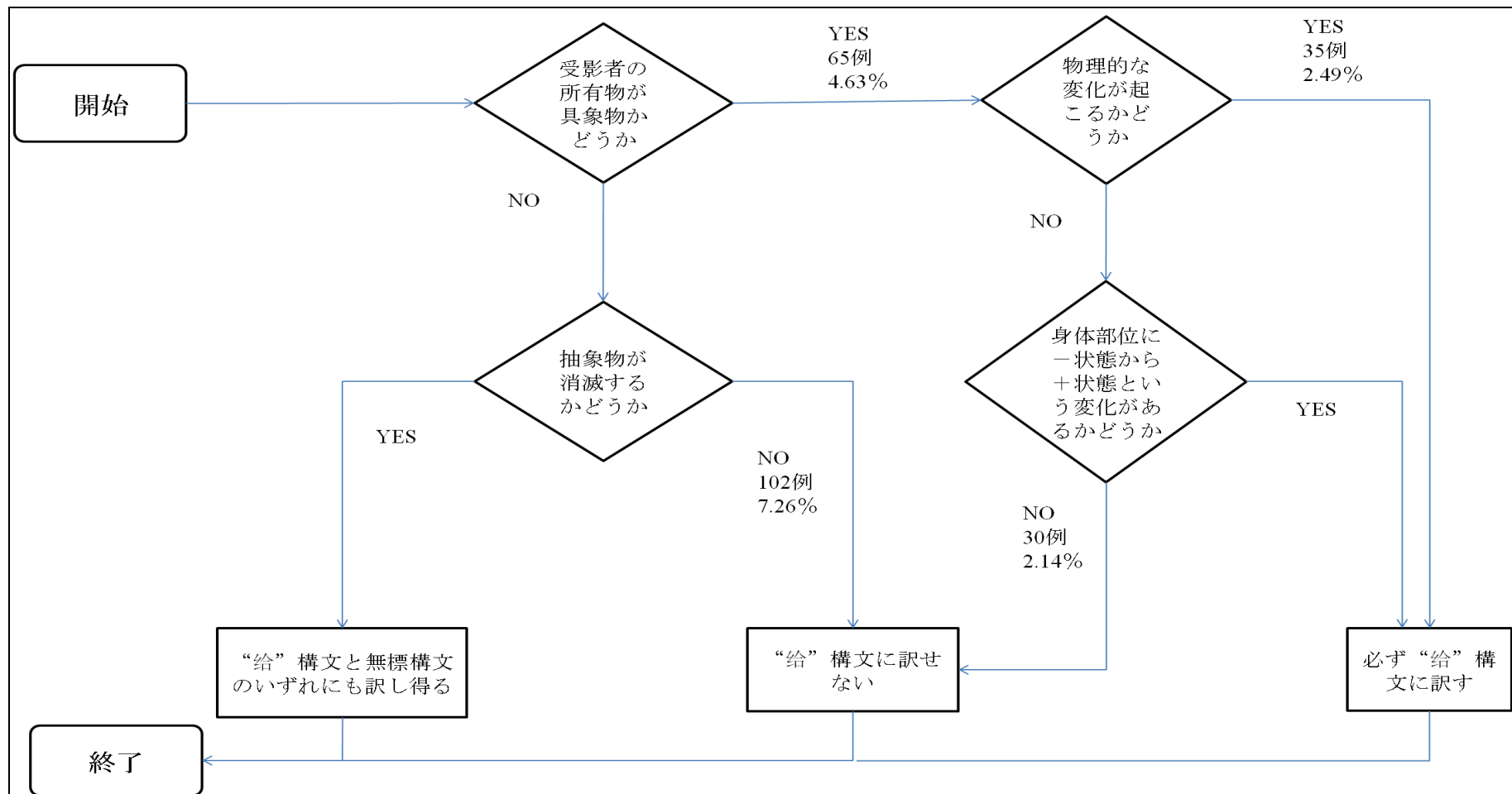


図 1-1 αのフローチャート

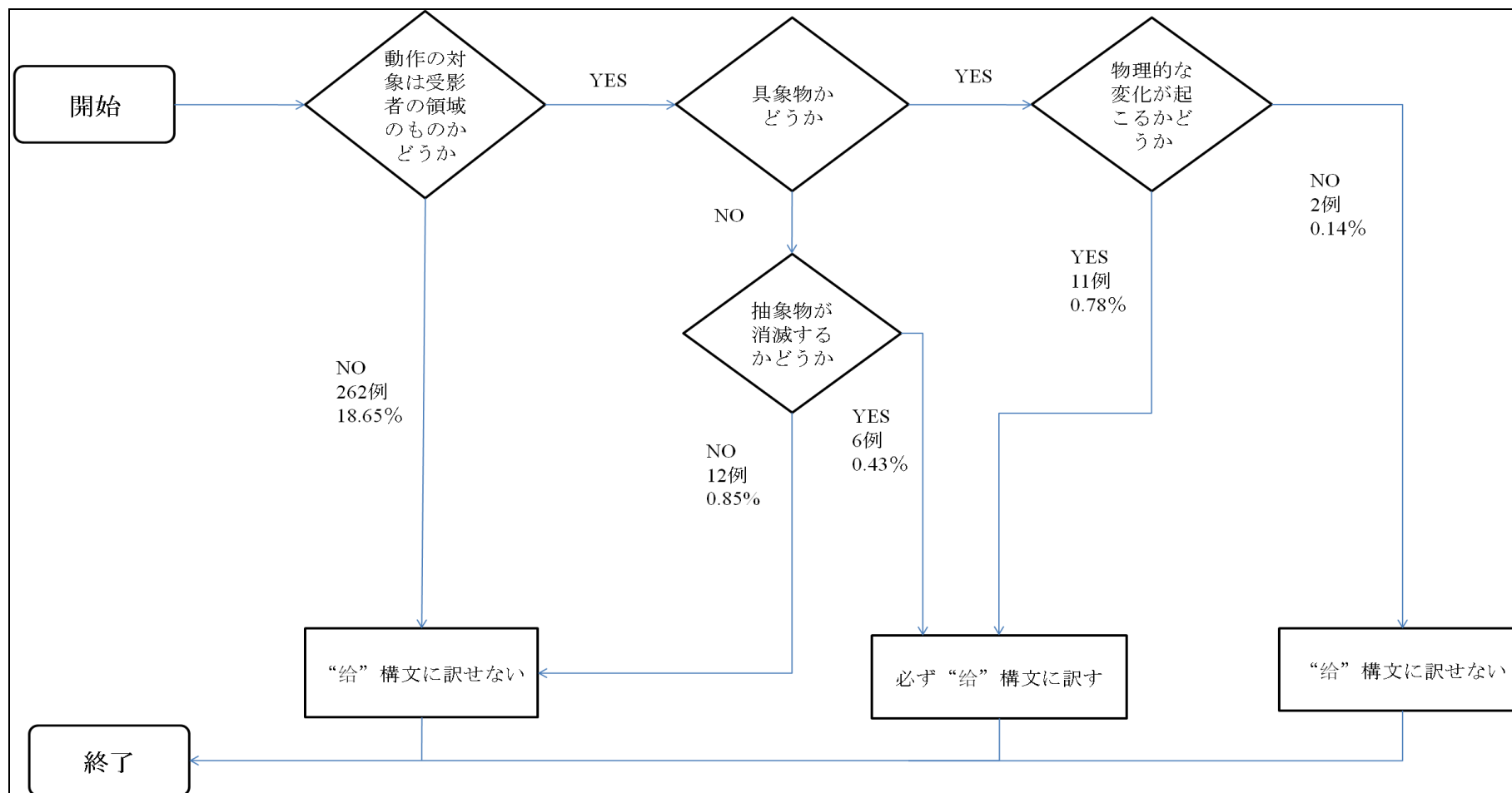


図 1-2 β のフローチャート

1 「テクレル」構文に関する先行研究の概観と問題点

「テクレル」構文に関する日中対照研究は数が少ないながら、「テクレル」構文と中国語の“給”構文との対照が行われている。以下ではそれらの先行研究について説明する。

楊(1994 : 118)は、“給”と「てあげる、てくれる」との比較の中で、

「本来二項動詞(他動詞)は構文的要素として主語(動作主)のほかに目的語を取るのが普通であるが、動作主が第三者のために何らかの行為を行う場合、その第三者によって導くことも可能である」、「(中略)受益を表す形式としては、“給”と補助動詞がもっとも対応していると言える」

と述べ、以下のような例文を取り上げている。

- (1) 東京のことなんて何一つ知らなかったし、独り暮らしをするのも初めてだったので、親が心配してその寮を見つけてくれた。(ノルウェイの森、林少華訳)(下線筆者)

訳 : 对东京还一无所知, 独自生活也是初次。父母放心不下, 在这里给我找了间宿舍。

(楊 1994 : 117)

楊(1994)の主張において、二項動詞によって「テクレル」構文と“給”構文との対応可能性のみを指摘しているが、その対応関係の成立および不成立の理由に触れていない。それに加え、以下の二項動詞による文においては、中国語では“給”構文が成り立たないのに対し、日本語の「テクレル」文は自然であると考えられる。

- (2) それは、丑松の積りでは、对手が自分の話を克く聞いててくれるのだろうと思って…。

中訳 : 丑松原以为大家都会很认真地听他说话的。

筆者訳 : * 丑松原以为大家都会很认真地给他听说话的。

楊(1994 : 118)は「可能である」という言い方で指摘しているため、二項動詞であるという条件では不十分であることを示唆していると考えられる。従って、「テクレル」構文と“給”構文との対応については、楊(1994)の分析もさらに検討する余地がある。

また、李(2009)は先行動詞との共起関係によって日本語の「テクレル」構文と“給(我)”構文との対照を行った。李(2009)は中国語の“給(我)”構文と日本語の「テクレル」構文の対応に関して、以下のように述べている。

「具体的なものの移動を表す対象移動動詞と発話内容移動動詞である“給(我)”構文は日本語の「テクレル」構文と対応している。また、作成動詞の場合は、受け手(話者)のために、何か具体的なものが作成動詞によって完成され、受け手(話者)が利益を取得することができるような“給”構文は日本語の「テクレル」構文と対応している。それ以外の「テクレル」構文は“給(我)”構文と対応しない」

(李 2009 : 12)

上の説明に合わせて、李(2009)は以下の例文を取り上げている。

具体的なものの移動を表す対象移動動詞の場合：

- (3) 女儿出差上海回来，给我买回一块手表。(《人民日报》1993)/娘は上海へ出張して、時計を買ってくれた。

発話内容移動動詞の場合：

- (4) 他给我讲了许多他小时候的事。(肖华《我和张艺谋的友情和爱情》)/かれは小さいときのことをたくさん話してくれた。

作成動詞の場合：

- (5) 她猜到了我没有吃早饭，匆匆忙忙地给我做饭。(梁晓声《京华闻见录》)/彼女は私がまだ朝ご飯を食べていないと思って、急いで作ってくれます。

(李 2009 : 8-9)

しかし、李(2009)の説明に反する例文は以下の通り存在する。以下の(6)～(8)においては、具体的なものの移動を表す対象移動動詞の「買う」、発話内容移動動詞の「話す」作成動詞の「作る」の日本語の「テクレル」構文が自然であるのに対し、“給”構文に訳すと、非文か元の文と異なる意味を表す文になってしまう。

- (6) 不動産売却の際、所有者本人が営業セールスして買ってくれる人を見つけられる
といいですが。 (少納言)

筆者訳：# 在销售不动产的时候，持有者通过营销能找到给他买的人就不错了。

○ 在销售不动产的时候，持有者通过营销能找到买的人就不错了。

- (7) 私がそのことを口ごもり、松村一人が助け舟を出して、私の『戦争と平和』論の
ことを話してくれた。 (少納言)

筆者訳：# 我闭口不谈，松村一人从旁相助，给我谈了我的《战争和和平》论。

○ 我闭口不谈，松村一人从旁相助，谈了我的《战争和和平》论。

- (8) 肌を引き締め、健康な肌を作ってくれるのだそうだ。 (少納言)

筆者訳：# 据说可以是肌肤紧致，给我创造健康肌肤。

○ 据说可以是肌肤紧致，让人拥有健康肌肤。

(6)～(8)の筆者訳を日本語に訳すと、「所有者に買ってくれる」「松村は私に話してくれた」「誰かが私に健康な肌を作ってくれる」という意味になってしまい、いずれも元の「テクレル」構文の意味と異なっている。従って、“給”構文に訳されるのは不適切である。

さらに、『中日対訳コーパス』から以下のような例文が検索された。いずれも李(2009)の主張に反する例である。

- (9) 野島にもよく話しかける。梨をむいてくれる。¹¹

中訳：她经常对野岛讲话，给他削梨。

¹¹第1章で述べたように、この例文では、話し手の視点が「野島」に置かれて述べられている。即ち、「野島」は話し手の身近な人と見られ、中訳の“他”(彼)の機能は“我”(私)と同じである。

(10) あの時分にはあたしの体を始終洗ってくれたじゃないの。

中訳：那时不是经常给我洗吗？

(11) 両親は俺が幼児のときに、矯正手術をしてくれるべきだったのだ。

中訳：小时候父母本应及时给我做矫正手术……

(9)～(11)では、「むく」「洗う」「手術をする」はいずれも「対象移動動詞」「発話内容移動動詞」「作成動詞」ではなく、単純に動作を表す動詞であるにもかかわらず、「テクレル」と共起して、中国語の“給”構文と対応することができる。そのため、動詞の性質だけによって「テクレル」構文と“給”構文との対応関係を検討してきた李(2009)の分析は不十分であると考えられる。

上記の「テクレル」構文と“給”構文との対照研究のほか、佐々木(1994 : 321)は“給”受益文の成立条件に関して、「“給”受益文では、自動詞的な受益表現が必ずしも成立しないとは限らないからである」と指摘している。以下の例文を取り上げている。

(12)* 我给妈妈去市场了。(僕は母親のために市場へ行った。)

(13) ○ 他给我哭了一个晚上。(彼は僕のために一晩中泣いてくれた。)

(佐々木 1994 : 321 一部改変)

さらに、佐々木(1994 : 321)は(12)の“給”受益文が成立しない理由について、「直接的な受益行為でないことの方にその原因を求めるべきであろう」と主張している。しかし、「行く」であろうと「泣く」であろうと、いずれも動作対象を取れない動詞で、その動作自体は“我”、“妈妈”とは関係がないと考えられる。そのため、佐々木(1994)が主張している「直接受益行為」では(12)(13)の文の差異を説明することができないと思われる。

先行研究では、主として動詞の属性によって「テクレル」構文と“給”構文との対応及び“給”構文の成立を論述してきたが、日中翻訳の角度から見れば、いずれも説明できないところがある。本章では、動詞の属性に加え、文の意味から、「テクレル」構文の日中翻訳に関して説明をしていく。

2 「テクレル」構文の日中翻訳に関するコーパス調査

第1節では、「テクレル」構文と“給”構文との対照が行われてきた先行研究に関して批判的な検討を行ったところ、先行研究の主張によって日中翻訳上まだ説明しきれないところがあることが分かった。従って、「テクレル」構文の日中翻訳の実態を把握するために、『中日対訳コーパス』を利用し調査を行った。その結果は表1のようになった。

表1 「テクレル」構文の中国語の訳のパターン

訳される中国語の表現	例文数	比率	実例
A なし(無標構文)	1187	84.48%	幼稚園では、自分勝手なまがとおらないといって、泣こうが、暴れようが、誰も相手にならず、同情もしてくれ <u>ません</u> 。 中訳：在幼儿园里，一不能为所欲为就哭就闹，但谁也不会理睬他，同情他。
B 给	145	10.32%	「おッ母さんが縫 <u>って</u> くれたの」。 中訳：“是妈妈 <u>给</u> 我做的。”
C 为	46	3.27%	ひとりの男が自分のために命をさ <u>げ</u> てくれたということは、女にとっては最大の満足であるだろう。 中訳：一个男人能 <u>为</u> 自己舍弃生命，这对女人来说是最大的满足。
D 替	22	1.57%	高校受験の時も、結局は、母が見に行 <u>って</u> くれたので… 中訳：考高中的时候，是母亲 <u>替</u> 我看的榜。
E 帮	5	0.36%	それからお咲さんは、焼跡の整理を少し手伝 <u>って</u> 下さった。 中訳：阿笑还 <u>帮</u> 我收拾了一下火烧过的地方。
合計	1405	100.00%	

検索方法としては、それぞれ「[てで][く呉]れ」、「[てで]くださ[らりる]れろっ」、「[てで]下さ[らりる]れろっ」といった正規表現を入力し、検索された例文を手作業で「窓をしめてくれ」「もしよければその話を聞かせてくれませんか」のような依頼モダリティを表す文を排除する。表1における「なし（無標構文）」とは構文上当該の授受補助動詞と対応する表現がなく、先行動詞のみを述部とする中国語の動詞文のことを指す。

表 1 を見れば、「テクレル」構文と“給”構文の対応率は 10%程度で、「テヤル」構文と比べて、極めて低い。即ち、「テクレル」構文は“給”構文とはほとんど対応していないと言える。そのため、「テクレル」構文についても先行研究の主張の有効範囲はかなり制限されているのである。

3 コーパス調査の結果の分析

コーパス調査によって「テクレル」構文と中国語の授受有標構文との対応率が低いことが明らかになったが、コーパスの訳文は唯一の訳であるわけではないと考える。そのため、筆者は表 1 における「テクレル」構文について、「テヤル」構文と同様に内省で中国語の訳文を再整理した。その結果は表 2 のようになった。

表 2 「テクレル」構文と対応する中国語の表現の再整理

中国語訳の構文		例文数	比率
A 無標構文のみ		984	70.04%
B 無標構文と授受の有標構文のいずれか	B1 無標構文と“給”構文のいずれか	235	16.73%
	B2 無標構文と“替/ 帮”構文のいずれか	3	0.21%
	B3 無標構文と“为 / 替/ 帮”構文のいずれか	2	0.14%
C 授受の有標構文のみ	C1 “给”構文 ¹²	155	11.03%
	C2 “为”構文と“替”構文のいずれか	13	0.92%
	C3 “为”構文	6	0.43%
	C4 “为”構文と“替”構文と“帮”構文のいずれか	4	0.29%
	C5 “替”構文	3	0.21%
合計		1405	100.00%

表 2 を見れば、授受の有標構文に訳すことができる「テクレル」構文(B+C)の数は 421 例で、全体の 29.96%に過ぎない。そのうち、“给”構文に訳すことができる「テクレル」構文(B1+C1)は 390 例で、全体の 27.76%を占めているが、「テヤル」構文の 45.45%と比べて、「テクレル」構文と“给”構文の対応率はかなり低いと言える。また、“给”構文に訳すことができる「テクレル」構文は有標構文の 92.40%を占めているため、本章では、日中翻訳の角度から「テクレル」構文と“给”構文との対応に関して分析を行う。さらに

¹²ここでいう“给”構文には“为”“替”などほかの有標構文が含まれている。それらの構文は“给”構文に置換されても意味上問題がないため、“给”構文で一括代表することにする。

先行研究ではあまり触れていない無標構文のみに訳す「テクレル」構文と“給”構文以外の中国語の有標構文も視野に入れ、「テクレル」構文についての日中翻訳規則を明らかにしていく。

4 「テクレル」構文の分類およびそれに対応する中国語の表現

4.1 「テクレル」構文における受影者の格の確認手順について

本章では、第2章と同じく山田(2004)が提唱した「受影者」の概念を導入し、「テクレル」構文を分類することにする。「テクレル」構文においては、受影者が必ず現れるとは限らないのに対し、“給”構文においては、動作との関係を表すためにその受影者がいずれも“給”によって導かれ、授受の有標構文の必須要素になる。そのため、翻訳の際その受影者の分析も必要であると考えられる。

まず、「テクレル」構文における受影者の格の確認手順について説明する。第2章の「テヤル」構文の受影者の格の判定と同じ手順で行う。「テクレル」構文は基本的に以下のような構造であるとする。

「Xガ ～ シテクレル」 (Xが動作主)

ステップⅠ 受影者が明示されている場合

Xの以外格助詞で表示される人物の中で、文の意味によって受影者を確認する。

作例1 太郎が 花子に 次郎の子供を 預けてくれた。

この文の意味によって受影者が「花子」「次郎」「子供」のいずれにもなる可能性がある。そのため、作例1の「テクレル」構文はそれぞれ「ニ」格の受影者、「ノ」格の受影者、「ヲ」格の受影者に分類される。

ステップⅡ 受影者が明示されていない場合

作例2 太郎が ～ 送ってくれる。

作例 2 では、文の意味によって「～」のところに受影者が「私を」「私に」「私のために」として表示できる。従って、作例 2 の「テクレル」構文は意味によってそれぞれ「ヲ」格の受影者、「ニ」格の受影者、「ノタメニ」の受影者に分類される。また、以下のような格助詞と「ノタメニ」両方も受影者を導け、文の意味が同じである場合、その「テクレル」構文は格助詞を基準として分類する。

作例 3 私の誕生日に太郎は 私に/私のために おいしいケーキを作ってくれた。

本章では、作例 3 のような「テクレル」構文は「ニ」格の受影者に分類する。

ステップⅢ 受影者が表示できない場合

上記の 2 種類の「テクレル」構文以外の文に対し、「ノタメニ」テストによって「だれのために」ということが補えなければ、受影者が表示できない「テクレル」構文であると見られる。

作例 4 太郎が (*私のために) 無事に 卒業してくれた。

4.2 受影者の格による訳文の整理

4.1 節の手順によって確定した受影者の格によって表 2 の「テクレル」構文と対応する中国語の訳文を再整理した。その結果は表 3 のようになった。

表3 「テクレル」構文と対応する中国語の訳文の整理

受影者の格	A 必ず “給”構 文に訳す	B “給”構文と 無標のいずれ にも訳し得る	C “給”構文 に訳せない	合計	実例(下線と括弧は筆者)
ニ	55	174	128(無標： 128 例)	357	<p>A あんなにお金が沢山あるのに、<u>あたしに着物の一枚ぐらい拵えてく</u>れてもいいと思うわ。</p> <p>中訳：我想，你有那么多钱，<u>给我</u>做一件衣服总是可以的。</p> <p>B 直子は<u>僕に</u>自分で編んだ毛糸の手袋をプレゼントして<u>くれた</u>。</p> <p>中訳：直子送我一副她亲手织的毛线手套。</p> <p>筆者訳：直子<u>送给我</u>一副她亲手织的毛线手套。</p> <p>C 先生も<u>ボクに</u>気付いて<u>くれた</u>ようだ。</p> <p>中訳：好像是老师先发现了我。</p>
ノタメニ	61	51	276(無標： 253 例、“为” “帮”“替”： 合わせて 23 例)	388	<p>A 誰かが究竟頂の内部からあけて<u>くれる</u>ような気がしたのである。</p> <p>中訳：好象谁能从里面<u>给我</u>开门似的。</p> <p>B 二人は、ボーイのよんで<u>くれた</u>大型の自動車に乗った。</p> <p>中訳：两人钻进男侍叫来的大型出租小汽车。</p>

受影者の格	A 必ず “給” 構 文に訳す	B “給” 構文と 無標のいずれ にも訳し得る	C “給” 構文 に訳せない	合計	実例(下線と括弧は筆者)
					<p>筆者訳：兩人钻进男侍<u>给他们</u>叫来的大型出租小汽车。</p> <p>C どんなに先輩は驚いて、自分の手を執って、「君もそうか」と喜ん<u>でくれる</u>であろう。</p> <p>中訳：那位前辈就会惊奇地握着自己的手欢喜地说：“你也是么？”</p>
ノ	37	0	132(無標： 125 例、“为” “替”：合 わせて 7 例)	169	<p>A あの時分には<u>あたし</u>の体を始終洗<u>ってくれた</u>じゃないの。</p> <p>中訳：那时不是经常<u>给我</u>洗吗？</p> <p>C 蓮太郎はそれを胸に浮べて、かねて知己とは思っていたが、こうまで<u>自分の</u>書いたものを読ん<u>でくれる</u>とは思わなかった。</p> <p>中訳：莲太郎寻思，过去虽然把丑松当成知己，却未曾想到他这样爱读自己的著作。</p>
ヲ	0	8	237(無標)	245	<p>B 下の農家の中井さんの娘さんが、時々(<u>私を</u>)お手伝いして下さった。</p> <p>中訳：坡下农家中井先生的姑娘也常常来<u>帮我</u>忙。</p>

受影者の格	A 必ず “給” 構 文に訳す	B “給” 構文と 無標のいずれ にも訳し得る	C “給” 構文 に訳せない	合計	実例(下線と括弧は筆者)
					<p>筆者訳：坡下农家中井先生的姑娘也常常来<u>给我</u>帮忙。</p> <p>C <u>私を</u>理解してくれる貴方の事だから、説明する必要もあるまいと思いますが。</p> <p>中訳：你是理解我的，也没有必要再解释了。</p>
？	2	1	235(無標)	238	<p>A わりや(汝は)飛んでもねえことを<u>為てくれた</u>なあ。</p> <p>中訳：你<u>给我</u>闯下了大祸。</p> <p>B 君がもしここで乱暴を働いて<u>くれる</u>と、僕は非常に迷惑する。中訳：你要是一味地胡闹，我是吃不消的。</p> <p>筆者訳：你要是一味地<u>给我</u>胡闹，我是吃不消的。</p> <p>C 勝野君が首座でも<u>あつてくれる</u>と、私も大きに安心なんですけれど。</p> <p>中訳：要是胜野君能当上首席教员，那我就大大放心啦！”</p>
ト	0	0	5(無標)	5	<p>C けれども、そんないい人たちは、僕と遊ん<u>でくれ</u>やしない。</p> <p>中訳：可是那样的好人却不会和我交往。</p>

受影者の格	A 必ず “給” 構 文に訳す	B “給” 構文と 無標のいずれ にも訳し得る	C “給” 構文 に訳せない	合計	実例(下線と括弧は筆者)
ノカワリニ	0	0	1(“替”)	1	おれの云おうと思うところを おれの <u>代りに</u> 山嵐がすっかり 言 <u>つてくれた</u> 様なものだ。 中訳：似乎我想说的话全由豪 猪 <u>替我</u> 说完了。
ニカワッテ	0	1(“替”)	0	1	<u>僕にかわって</u> 彼の看病をやっ <u>てくれ</u> そんな物好きな人間も みつからなかった。 中訳：而且也找不到能代为照 料他热心人。 筆者訳：而且也找不到能 <u>替(给)</u> <u>我</u> 照料他的热心人。
カラ	0	0	1(無標)	1	話をしたことはなくても彼女は <u>ボクから</u> 何かを感じ取 <u>って</u> <u>くれた</u> のだろう。 中訳：我尽管没曾与那女孩交 谈过，但我想她一定从我身上 感受到了她认为极有价值的东 西。
合計	155	235	1015	1405	

注：？とは受影者が表示できないことを指す。

表3によれば、“給”構文に訳すことができる「テクレル」構文は全部で390例(A+B)であり、全体の27.76%であった。第2章では、“給”構文に訳すことができる「テヤル」構文は全体の45.45%であったため、両者の間に大きな差が出てきた。その理由の一つは用法の違いにあると考える。

表3における「？」で表示される「テクレル」構文はいずれも受影者が表示できず、話し手側の事態に対する評価の仕方、いわゆる待遇的な言い方を表すのが特徴である。話し手側の評価を表す「テクレル」構文は238例であり、全体の約17%を占めている。それに対し、「テヤル」構文の場合は受影者が想定できない文は79例であり、全体の約10%しかない。即ち、「テヤル」構文よりも、受影者が表示できず、待遇的な意味を表す「テクレル」構文がより広く使われている。この「テクレル」の待遇的な用法は本動詞の「クレル」から受け継いでいると考えられる。先行研究においても「テクレル」の待遇的な用法がよく指摘されている。李(2013: 120)は丁寧語の発達と授受表現との関係について、以下のように述べている。

「聞き手が主格に現れ、発話現場にいる」且つ「授受表現を使用する」という条件を最も満たすのはクレル(系)表現形式である。その中でも、とくに、クレル(系)を用い、聞き手に対して物や行為を要求する際に、聞き手に対する配慮が最も強くなると思われる。よって、丁寧語の発達と授受表現の場合のクレルの成立・発達は関連していると言える」

李(2013: 120)

李(2013)の指摘によって「テクレル」の待遇的な用法がかなり発達していることが分かる。つまり、モノの授与だけではなく、話し手が恩恵を感じてさえいれば、「テクレル」は制約なしに用いることが可能であり、より主観的な用法であると思われる。

この用法の違いから「テクレル」構文と“給”構文との対応率は「テヤル」構文と比べると大きな差が現れてくると考えられる。

ところで、次節から、受影者の格によって分類される「テクレル」構文に関して、どういう条件で、“給”構文に訳されるかを検討する。

4.3 「ヲ」格で受影者を導く「テクレル」構文

表3によれば、「ヲ」格で受影者を導く「テクレル」構文は合わせて245例である。中国語の授受の有標構文に訳し得るのはわずか8例であるが、いずれも“給”構文に訳すことができる。“給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。

4.3.1 “給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る場合

以下のような「テクレル」構文は“給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。それは先行動詞の意味によって「モノの授与」の意味合いが読み取れるからである。

- (14) 応援の仕方はいくらでもある。精神的に(私を)応援してくれたらいい。何をしながらも…

中訳：支持的方式有的是。精神上的支持也可以，即使什么也不做……

筆者訳：支持的方式有的是。精神上给我加油打气也可以，即使什么也不做……

- (15) 下の農家中井さんの娘さんが、時々(私を)お手伝いして下さった。

中訳：坡下农家中井先生的姑娘也常常来给我帮忙。

筆者訳：坡下农家中井先生的姑娘也常常来帮我忙。

- (16) そう言って、八千代を案内してくれた。

中訳：说着，给八千代带路。

筆者訳：说着，带着八千代去。

先行研究では、楊(1994:118)は「(中略)日本語では受益者が直接目的語であるが、中国語では、他動詞文しか用いられず、受益構文を用いることができない」と述べ、以下の例を取り上げている。

- (17) するとあなたが会社に行っているあいだいったい誰が私を守ってくれるの？

(ノ)¹³

訳：那么在你上班的时间里，有谁能守护我呢？（林少华訳）

(楊 1994:118)

(17)の中訳は「するとあなたが会社に行っているあいだいったい誰が私を守る」という他動詞文に対応し、「テクレル」の恩惠の意味は「守る」のプラスの意味か文脈によって読

¹³ 「ノ」とは『ノルウェイの森』という小説作品を指す

み取るしかできない。一方、(14)～(16)の中訳は楊(1994)の説明に反する例であるのに加え、対応する“給”構文は「テクレル」の恩恵的意味を明確に表し、自然な文である。

また、李(2009: 11)は「主体・対象同時移動動詞の場合、中国語では、話者は動詞の目的語になって、移動の方向性がなくなるため、“給”と共起しない」と主張している。それに対し、上記の(16)では、「案内する」は「主体・対象同時移動動詞」であっても、“給”構文に訳すことができる。

どういう条件の場合に(14)～(16)を“給”構文に訳すことができるかについて説明する。(14)～(16)では、先行動詞の「応援する」「手伝う」「案内する」によってそれぞれ「元気を分ける」「力を貸す」「案内情報を伝える」のように「元気」「力」「案内情報」という「抽象物」を受影者にもたらすという意味を表している。翻訳上、この意味から考えれば、“給”構文に訳すことができると思われる。一方、「モノの授与」を考えず、「テクレル」によって動作主の動作に対する受影者の恩恵的感情の角度から訳すと、“給”構文に訳せない。従って、上記の筆者訳を見れば、(14)～(16)は必ず“給”構文に訳すわけではないことが明らかになる。

4.3.2 “給”構文に訳せない場合

「ヲ」格で受影者を導く「テクレル」構文においては、“給”構文に訳せない例は237例で、約96.73%を占めている。以下の例文のように、「モノの授与」の意味合いが読み取れない。

- (18) それはたぶん直子が僕を一人の友だちとして認めてくれたしるしだろうと僕は思ったし。

中訳：我想这大概是她将我作为一个朋友予以承认的表示。

- (19) 奥さんは心得のある人でしたから、わざと私をそんな風に取り扱てくれたものとも思われますし。

中訳：觉得夫人是个明事理的人，才故意这般称赞我的。

- (20) 近所の人にボクが存在を知ってもらおうと、いつでもボクを連れて歩いてくれ

た。

中訳：他们时常带我外出，让邻居们都知道我的存在。

- (21) 九日の朝早く、細川の兄が湯田村から福山まで私を自転車の後に乗せて送って
くれました。

中訳：九日一大早，细川的哥哥让我坐在自行车后边，从汤田村把我驮到了福山。

(18)(19)においては、先行動詞の「認める」「取り扱う」は意味上「モノの授与」を表していない。山田(2004)の動詞分類では、「認める」「取り扱う」はいずれも態度働きかけ動詞であり、移動を含意しないとされる。つまり、先行動詞の意味によって受影者に対する「モノの授与」という意味が読み取れるわけではない。また、それらの動詞の「ヲ」格も受影者であるので、先行動詞による「モノの作成」とも考えられない。そして、「モノ」が存在しないので、「テクレル」による「モノの授与」を表す可能性もない。従って、(18)(19)の「テクレル」構文は“給”構文に訳せない。

(20)(21)においては、先行動詞は「連れる」「送る」である。李(2009)では、「〔(物を)送る〕の場合の「送る」は具体物の移動を表す「対象移動動詞」に属し、もともとガ格参与者のもとに存在したものが「ニ」格参与者へと移動することを表す動詞類である」と指摘されている(李 2009 : 4)。その場合、「テクレル」構文は“給”構文と対応していると主張している。(20)(21)では、「ボクを連れる」「私を送る」は「ヲ」格のものを「ニ」格の参与者へと移動することではないので、ここでの「連れる」「送る」は李(2009)の「対象移動動詞」の範囲に入らず、“給”構文と対応しないと考えられる。その理由は李(2009)では説明していないが、本章では受影者に対する「モノの授与」の意味合いが読み取れないことにあると考える。「連れる」「送る」の動作によって「ボク」「私」に何らかのモノを授与することが表せないため、“給”構文に訳せないのである。

4.4 「ト」格で受影者を導く「テクレル」構文

『中日対訳コーパス』に見られた「テクレル」構文のうち、「ト」格で受影者を導く「テクレル」構文はわずか5例で、いずれも“給”構文に訳せない。以下の例文が該当する。

(22) けれども、そんないい人たちは、僕と遊んでくれやしない。

中訳：可是那样的好人却不会要跟我交往。

筆者訳：＊ 可是那样的好人却不会要给我交往。

(23) ボクと友達をつないでくれたのは、ないはずの「手足」。

中訳：我结交朋友靠的是我没有手和脚。

筆者訳：＊ 给我结交朋友靠的是我没有手和脚。

(22)(23)では、先行動詞「遊ぶ」「つなぐ」の意味によって「モノの授与」か「モノの作成」が一切表されていない。つまり、モノの出現条件がそもそも存在していないので、「モノの授与」を表すことができない。そのため、筆者訳の“給”構文はいずれも非文である。また、先行動詞の意味に「モノの授与」が含意されていても“給”構文に訳せない。

(24) 太郎は僕とプレゼントを交換してくる。(作例)

筆者訳：○ 太郎和我交换礼物。

＊ 太郎给我交换礼物。

第2章でも述べたように、「ト」格と共起する動詞は双方の動作を表さなければならない。しかし、“給”構文では一方的な動作しか表さないので、双方向動作を表す「交換する」という動詞と共起できない。そのため、先行動詞には「モノの授与」の意味が含まれているにもかかわらず、「ト」格で受影者を導く「テクレル」構文は“給”構文に訳せない。

4.5 「ニ」格で受影者を導く「テクレル」構文

表3によれば、受影者を助詞「ニ」で導く「テクレル」構文は全部で357例である。そのうち、中国語の有標構文に訳し得るのは229例で、いずれも“給”構文に訳すことができる。そのため、以下は翻訳する際、どういう場合に必ず“給”構文に訳すのか、無標構文と“給”構文のいずれにも訳し得るか、あるいはどういう場合に“給”構文に訳すことができないのかについて分析していく。

4.5.1 必ず“給”構文に訳す場合

本節では、「テクレル」構文にはどういう条件によって必ず“給”構文に訳さなければならぬとされるかについて分析する。表3によれば、必ず“給”構文に訳すのは55例である。いずれも「テクレル」によって「モノの授与」を表している。

(25) 時には(私に)鍋焼饅頭さえ買ってくれた。

中訳：有时还特地给我买砂锅面条。

筆者訳：# 有时还特地买砂锅面条。(時には鍋焼饅頭さえ買った。)

(26) 母は母で、暇さえあればボクに本を読んでくれていた。

中訳：母亲呢，只要一有空就给我读书。

筆者訳：# 母亲呢，只要一有空就读书。(母は母で、暇さえあれば本を読んでいた。)

(27) 刑事が(彼に)番茶をついでくれた。

中訳：便衣警察给他倒了一杯粗茶。

筆者訳：# 便衣警察倒了一杯粗茶。(刑事が番茶をついだ)

(28) あんなにお金が沢山あるのに、あたしに着物の一枚ぐらい拵えてくれてもいい
と思うわ。

中訳：我想，你有那么多钱，给我做一件衣服总是可以的。

筆者訳：# 我想，你有那么多钱，做一件衣服总是可以的。(あんなにお金が沢山あるのに、着物の一枚ぐらい拵えてもいいと思うわ)

(25)～(28)では、受影者をいずれも「ニ」格で導けることが確認された。先行動詞の「買う」「読む」「つぐ」「拵える」は「鍋焼饅頭」「本を読む声」「番茶」「着物」といったモノを入手したり、作成したりするという意味を表すが、誰かに授与する意味をそもそも持っていない。「テクレル」をつけてはじめて、「ニ」格の受影者が現れてくるのである。「ニ」格が現れてくるからこそ、先行動詞の動作によって入手したり、作ったりしたモノを受影者に与えるという意味合いを読み取ることができるのである。つまり、(25)～(28)の「テ

クレル」構文は「テクレル」によって「モノの授与」が表され、「ニ」格の受影者にモノを授与するとともに受影者に恩恵をもたらす意味を表すようになる。それらの「テクレル」構文と対応する“給”構文は「モノの授与」のほか、先行動詞の意味による語用論的な要因で受影者に利益を与えるという意味も表している。この点が(25)～(28)の「テクレル」構文にぴったり対応していると思われる。もし中訳に“給”がなければ、筆者訳のようにただ動作主の動作を描写する文になってしまう。それに加え、“給”がない中訳に対応する日本語の文も「テクレル」の意味が含まれていない。従って、「テクレル」によって「ニ」格の受影者が出現し、「モノの授与」の意味が現れてくる場合、必ず“給”構文に訳さなければならない。

李(2009)では、具体的なものの移動を表す対象移動動詞と発話内容移動動詞または作成動詞である場合は「テクレル」構文が“給”構文と対応していると指摘されているが、その理由について述べられていない。本論文では、「テクレル」による「ニ」格の出現および「モノの授与」の意味が含まれることがあるからこそ、両者の対応は成立すると考えられる。

4.5.2 “給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る場合

「ニ」格で受影者を導く「テクレル」構文においては、“給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る実例は174例である。いずれも「モノの授与」の意味を表しているが、4.5.1節の例と違い、その「モノの授与」の意味は先行動詞によるもので、「テクレル」と関わっていない。以下の例文を見てみよう。

(29) 甚だ地味な外見の食品だが、僕は(僕に)この食糧を送てくれた妻の里の人に密かに感謝した。

中訳：虽然从外表看是极平常的粗粮，但我还是向偷着送来干粮的妻子的娘家人表示感谢。

筆者訳：虽然从外表看是极平常的粗粮，但我还是向偷着给我们送来干粮的妻子的娘家人表示感谢。

(30) 彼女はいちばん上の一房をとって僕に手渡してくれた。

中訳： 她取出最上头的一串递给我。

(29)(30)では、先行動詞の「送る」「手渡す」はいずれも「授与」の意味を持っている動詞であり、そもそも先行動詞には何らかのモノを誰かに授与することが含意されている。また、受影者を導く「ニ」格が先行動詞の項であり、「テクレル」によるものではない。つまり、先行動詞のみによって「モノの授与」の意味を表している。それは以下の例のように、「テクレル」を取り除いても¹⁴、中訳が変わらないからである。

(29) 甚だ地味な外見の食品だが、僕は(私達に)この食糧を送った妻の里の人に密かに感謝した。

中訳：虽然从外表看是极平常的粗粮，但我还是向偷着送来干粮的妻子的娘家人表示感谢。

筆者訳：虽然从外表看是极平常的粗粮，但我还是向偷着给我们送来干粮的妻子的娘家人表示感谢。

(30) 彼女はいちばん上の一房をとって僕に手渡した。

中訳： 她取出最上头的一串递给我。

筆者訳：?? 她取出最上头的一串递我。

そのため、李(2009)の「具体的なもの移動を表す対象移動動詞の場合、「テクレル」構文と“給”構文と対応している」という主張は成立すると考えるが、必ず対応しているとは言えない。その理由は先行動詞の「送る」「手渡す」を中国語に訳す際、先行動詞と“給”との共起の状況が違っているからである。「送る」に対応する中国語の“送(song)”は“送我们粮食”(私達に食糧を送る)という二重目的語構造を取れる三項動詞であり、“給”の付加は任意である。それに対し、「手渡す」に対応する中国語の“递(di)”について、“递给我葡萄”は“递我葡萄”より自然であるので、“送”と比べて、“給”の付加は義務的であると考えられる。このことから、「ニ」格で受影者を導く「テクレル」構文においては、先行動詞が対象移動動詞である場合、“給”構文に訳されるかどうかは先行動詞の意味に

¹⁴ 「テクレル」を取り除くと、日本語の文は文法上は問題がないが、語用論的な自然さが落ちる。

よるものであり、「テクレル」とは関係ないと言える。従って、翻訳上“給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。

4.5.3 “給”構文に訳せない場合

さらに表3によれば、4.5.2と同じく「ニ」格で受影者を導くのに関わらず“給”構文に訳せない「テクレル」構文は、「テクレル」構文は合計128例である。該当する例文は以下のものである。いずれも「モノの授与」の意味合いが読み取れない。

- (31) じゃ、さっき云ったことは忘れないわね、何でも(わたしに)好きにさせてくれ
るわね。

中訳：那么，别忘记刚才说过的话哟。我想怎样做就让我怎样做。

筆者訳：＊ 那么，别忘记刚才说过的话哟。我想怎样做就给我怎样做。

- (32) 君が僕に触れてくれていたときのことを忘れたくないからです。

中訳：因我不愿忘记你接触我时留下的感觉。

筆者訳：＊ 因我不愿忘记你给我接触时留下的感觉。

- (33) でも、きっと、お母さまも、弟も、また世間の人たちも、誰ひとり私に賛成し
て下さらないでしょう。

中訳：不过妈妈、弟弟和社会上的人肯定没有一个会赞成我。

筆者訳：＊ 不过妈妈、弟弟和社会上的人肯定没有一个会给我赞成。

上記の(31)～(33)では、受影者は「ニ」格で導くが、中訳ではいずれも“給”構文に訳せない。(31)～(33)では先行動詞の「させる」「触れる」「賛成する」にはいずれも「モノの授与」が含意されていない動詞であり、それらの動作により何らかのモノの作成も表さず、単純な動作を行うことを表すのみである。また、「ニ」格の受影者は動作の対象であり、動作から何らかのモノを受ける意味合いを一切読み取れない。「テクレル」を付けたとしても、文全体の意味に「モノの授与」を付与することができず、受影者である話し手の恩惠的感情しか表していないと考えられる。従って、「ニ」格で受影者を導く「テクレル」

構文は先行動詞の意味によっても「テクレル」によっても「モノの授与」の意味を表さないので、“給”構文に訳すことができない。

4.6 「ノ」格で受影者を導く「テクレル」構文

表3によれば、「ノ」格で受影者を導く「テクレル」構文は169例である。そのうち、必ず“給”構文に訳すのは37例であり、“給”構文に訳せないのは132例である。「モノの授与」を表していないのにもかかわらず、“給”構文に訳されている「テクレル」構文に対して、「受影者の領域の変化」という基準を立て、日中翻訳の際「ノ」格で受影者を導く「テクレル」構文と“給”構文との対応関係をめぐって分析する。

4.6.1 必ず“給”構文に訳す場合

表3のデータに基づき、「ノ」格で受影者を導く「テクレル」構文のうち、必ず“給”構文に訳すのは37例である。そのうち、「ノ」格の受影者の領域に変化が生じる意味が表されているのは35例である。以下の例文に該当する。

(34) (私の)耳穴のなかの蛆は中尉が取出してくれました。

中訳：耳孔里边的蛆，由中尉给我夹了出来。

(35) あの時分にはあたしの体を始終洗ってくれたじゃないの。

中訳：那时不是经常给我洗吗？

(36) しかし ABCC は被爆患者の発病経緯は調査するが、患者の治療をしてくれる施設ではないそうだ。

中訳：不过，据说这个机构只调查被炸患者发病的始末，并不给患者进行治疗。

(34)～(36)では、先行動詞「取り出す」「洗う」「治療する」の動作対象は受影者である話し手側の体に付いているもの、あるいは身体部位であるので、受影者の領域のものとして見なすことができる。さらに、動作主の動作によって受影者の領域に何らかの変化が生じることが読み取れる。動作主の動作によって(34)では「私の耳穴」がきれいになるという

変化、(35)では「あたしの体」がきれいになるという変化、(36)では受影者の病気が治され、体がよくなるといった変化の意味を表している。この三つはいずれも物理的な変化であり、その変化を受影者が恩恵利益と受け止めていることを「テクレル」の付加によって表している。第2章で述べた「テヤル」構文と同じように、「ノ」格で受影者を導く「テクレル」構文では、「受影者の領域に変化が生じる」という意味を表す場合、“給”構文に訳さなければならない。

“給”構文ではなく、“～的～”の所有構造の文に訳すと、佐々木(1994)と楊(2009)が指摘したように、受益の意味ではなく、中立か被害の意味が読み取られるようになる。

(34) 〃 (私の)耳穴のなかの蛆は中尉が取出してくれました。

中訳：我耳孔里边的蛆，由中尉夹了出来。

(34) 〃 の中訳に対応する日本語の文は「(私の)耳穴の中の蛆は中尉が取り出した」か「私は中尉に耳穴の中の蛆を取り出された」の二通りであるが、それらの文自体からいずれも受益の意味が読み取れない。従って、(34)～(36)の中訳は“給”構文に訳さなければならないと考えられる。

また、コーパスから実例が見られないが、(37)のように受影者の抽象的な所有物に対して動作を行う場合、抽象物が消滅すれば、“給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。

(38)では抽象物が消滅しなければ、“給”構文に訳せない。

(37) 太郎は私の悪い癖を正してくれた。 (作例)

筆者訳：○ 太郎给我纠正了坏习惯。

○ 太郎纠正了我的坏习惯。

(38) 周りの人々は私の個性を尊重してくれた。 (作例)

筆者訳：* 周围的人给我尊重个性。

○ 周围的人尊重我的个性。

受影者の身体部位に対して働きかけて、受影者に「－状態」から「＋状態」に変わるといふ変化が起こることを表している「テクレル」構文は“給”構文に訳さなければなら

い。コーパスから実例が検索できなかったが、以下のようなものである。

(39) 太郎は私の肩を揉んでくれた。(作例)

筆者訳：太郎给我揉了揉肩膀。

(40) 早紀子さんは優しくボクの頭をなでてくれた。(少納言)

筆者訳：a ○ 早紀子温柔地摸了摸我的头。

b ? 早紀子温柔地给我摸了摸头。

(39)では、「揉む」という動作で、「肩が凝っている」の「－状態」から「凝っていない」の「＋状態」に変わるという変化が受影者に起こるので、“給”構文に訳さなければならない。それに対し、(40)では、「頭」が通常の状態で、「なでる」という動作で受影者の気持ちがよくなるとされる。つまり、受影者に「0状態」から「＋状態」になるという変化なので、“給”構文に訳すと、不自然な文になる。

まとめて言えば、「受影者の領域の変化」とは、以下の三つの状態変化を指す。

- a. 受影者の具体的な所有物に物理的な変化が生じること
- b. 身体部位に「－状態」から「＋状態」への変化が生じること
- c. 受影者の抽象的な所有物が消滅すること

一方、以下のような文は「テクレル」による「モノの授与」の意味を表しているので、“給”構文に訳さなければならない。以下のわずか2例である。

(41) 私がまだ初等科にかよっていた頃、お母さまがこれで私の頸巻を編んで下さった毛糸だった。

中訳：这些浅牡丹色毛线是从二十年前我上小学时母亲给我打的一条围巾上拆下来的。

(42) それでも少しずつ席を詰めて、上原さんのすぐ右隣りに私の席をつくってくれた。

中訳：可也一点一点地挤出一个位置来，在上原先生的右旁给我让出了一个位置。

(41)(42)では、先行動詞は「編む」「つくる」といった作成動詞である。この場合、作成動詞によって何らかのものが作られる。さらに「テクレル」の付加で、先行動詞によって作られたものを受影者に授与するといった意味合いを読み取ることができる。このため、文全体に「モノの授与」の意味が付与されるとみなすことができる。その「モノの授与」の意味は「テクレル」によるものであるので、翻訳上“給”構文に訳さなければならない。

ただし、先行動詞が作成動詞であっても、「テクレル」構文は必ず“給”構文に訳されるわけではない。以下の例を見てみよう。

- (43) 小学校は僕達に多くの大切なことを教えてくれた。(僕たちの)素晴らしい思い出をいっぱい作ってくれた。(少納言)

筆者訳：○ 小学校教给我们很多重要的东西，让我们有很多美好的回忆。

* 小学校教给我们很多重要的东西，给我们有很多美好的回忆。

(43)では、「思い出」は「僕たち」の所有物と見なすことができる。「思い出を作る」という動作主は「僕たち」であり、誰かが「思い出」を作って与えてくれるわけではない。そのため、(43)では「モノの授与」という意味が表されていない。「テクレル」によって「小学校のおかげで素晴らしい思い出をいっぱい持つ」ことに対し「僕たち」がありがたく思っているという意味合いを読み取っている。即ち、作成動詞である「作る」があっても、文全体が「モノの授与」の意味を表さなければ、“給”構文に訳せない。

4.6.2 “給”構文に訳せない場合

「ノ」格で受影者を導く「テクレル」構文のうち、“給”構文に訳せず、無標構文しか訳せないのは132例である。いずれも「モノの授与」あるいは「受影者の領域の変化」という意味合いが読み取れない。

- (44) 父は私の注意を母よりは真面目に聞いてくれた。

中訳：父亲比母亲认真地听了我的话。

筆者訳：* 父亲比母亲认真地给我听了话。

(45) するとお聞きなさい、婦人は足駄を穿きながら(私の)手を取ってくれます。

中訳：你听我讲嘛，妇女换上木屐，牵住我的手。

筆者訳：＊ 你听我讲嘛，妇女换上木屐，给我牵住手。

(46) 駅長は大体において僕の依頼を引受けてくれた。

中訳：站长大体上接受了我的要求。

筆者訳：＊ 站长大体上给我接受了要求。

(47) 私の心はあなたはもう感じていて下さるでしょう

中訳：你已经感觉到我的心了吧？

筆者訳：＊ 你已经给我感觉到心了吧？

(44)～(47)では、先行動詞の動作対象はそれぞれ「私の注意」「私の手」「僕の依頼」「私の心」であり、いずれも受影者の所有物である。しかし、具象物の物理的な変化、身体部位に「－状態」から「＋状態」に変わるという変化、抽象物の消滅という変化が動作主の動作によって起こるということがいずれも表されていない。つまり、「受影者の領域の変化」のいずれも表していない。それに加え、先行動詞の意味で何らかのものを作成することを表さず、「モノの授与」を表すこともできない。そのため、(44)～(47)の「テクレル」構文は“給”構文に訳せないと考えられる。日本語では、「テクレル」の付け加えでその動作主の動作による事態に対する受影者の恩恵的感情を表しているが、中国語では授受の有標構文によってその恩恵的感情を訳出することができず、前後の文脈に依存し、その意味合いを読み取るほかはない。

4.7 「ノタメニ」で受影者を導く「テクレル」構文

表3によれば、「ノタメニ」で受影者を導く「テクレル」構文は合わせて388例である。中国語の授受有標構文に訳すことができるのは134例である。そのうち“給”構文に訳すことができるのは112例(Aタイプ+Bタイプ)である。以下の節では、日中翻訳の際、“給”構文に訳さなければならない、“給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る、“給”に訳せ

ない条件について説明する。

4.7.1 必ず“給”構文に訳す場合

“給”構文に訳しないと「テクレル」構文の意味が適切に表現できない文は、以下のようなものである。表3によれば、必ず“給”構文に訳さなければならない「テクレル」構文は61例である。「モノの授与」の意味の有無によって二種類に分けられている。以下の(48)～(50)のように「モノの授与」を表しているものは44例である。

(48) (彼のために)水路であれば船を、陸路であれば馬やかごや車を用意してくれま
す。

中訳：走水路，要给他准备船只，走陆路，要为(给)他预备马车和轿子。

(49) とにかく東京でのねぐらを、彼は、おれのために発見してくれたのだからな。

中訳：不管怎样，是他给自己找的这个“窝”！

(50) (私のために)家人が点ててくれる茶を、庭に面した縁側に坐って、飲ませて貰
う。

中訳：只是坐在面临院子的廊上，品着仆人给我泡的茶水。

(48)～(50)では、受影者はいずれも先行動詞の項ではなく、括弧に示すように「ノタメニ」で受影者が表示されている。また、(48)～(50)においては、先行動詞の「用意する」「発見する」「点てる」といった動作によって「船等の交通手段」「ねぐら」「お茶」というものが動作主の領域に現れる。さらに、「テクレル」との結合で、それらのものが動作主から受影者への授与される意味が表されている。それによって「船等の交通手段」、「ねぐら」「お茶」の利用者が受影者になると思われる。即ち、「テクレル」があるからこそ、受影者に対する「モノの授与」の意味が付与されと考えられる。「モノの授与」はいずれも「テクレル」によるものであるので、日中翻訳上不可欠であると考えられる。それに従うと、(48)～(50)の「テクレル」構文はいずれも“給”構文に訳されるのである。そのうち、(48)の中訳における“为”を使うのは重複を避けるためであり、“为”を“給”に置換し

ても意味が変わらない。中訳では、“給”の有標形式を取り除くと、以下の不適切な訳文になってしまう。

(48) 水路であれば船を、陸路であれば馬やかごや車を(彼のために)用意してくれま
す。

中訳：# 走水路，要准备船只，走陆路，要预备马车和轿子。

(49) とにかく東京でのねぐらを、彼は、おれのために発見してくれたのだからな

中訳：# 不管怎样，是他找的这个“窝”！

(50) (私のために)家人が点ててくれる茶を、庭に面した縁側に坐って、飲ませて貰
う。

中訳：# 只是坐在面临院子的廊上，品着仆人泡的茶水。

(48) ～(50) の中訳はそれぞれ日本語の「水路であれば船を、陸路であれば馬やかごや車を用意します」、「とにかく東京でのねぐらを、彼は、発見したのでだからな」、「家人が点てるお茶」といった先行動詞のみを述部とする動詞文であり、いずれも動作主が単純に動作を行うことのみを表してしまう。これらの訳文から元の文にある受影者に対する「モノの授与」の意味合いが一切読み取れない。また、「わざわざ誰かのために動作をする」というニュアンスもなくなってしまったので、もとの「テクレル」構文の意味とずれている。従って、(48)～(50)の「テクレル」構文は必ず“給”構文に訳さなければならない。

一方、以下の受影者を「ノタメニ」で導く「テクレル」構文においては、「モノの授与」を表していないにもかかわらず、翻訳上必ず“給”構文に訳さなければならない事例は17例である。

(51) 学校の方も君が(僕のために)やってくれたそうだねえ。

中訳：听说学校的课你都给我上了。

(52) 下女の袈裟修は塵払を取出して、(丑松のために)背中に附いた雪を払ってくれ
る。

中訳：女仆袈裟修拿来掸子给丑松掸去背上的雪。

- (53) 最初のうちこそナオミは(僕のために)家事向きの用をしてくれ、勝手元の方を働きもしましたが。

中訳：只有在开始的那一段时期里，纳奥米给我做做家务，也在厨房里干活。

(括弧は筆者による)

(51)～(53)においては、先行動詞の「やる」「払う」「する」を通して、「学校の方」「雪」「家事向きの用」を誰かに授与するわけではなく、ある動作を行うのみである。「テクレル」の付け加えによって動作主はある動作を意図的に受影者としての話し手のために行う意味合いが読み取れるようになる。即ち、この場合、「テクレル」は「モノの授与」ではなく、動作の受影者を表示する機能を果たしている。言い換えれば、「テクレル」によってそもそも先行動詞の意味によって読み取れない受影者の存在が表現されているのである。この「テクレル」による「受影者の存在」は日中翻訳上不可欠な要素であると考えられる。以下の例を見てみよう。

- (53) 最初のうちこそナオミは(僕のために)家事向きの用をしてくれ、勝手元の方を働きもしましたが。

筆者訳：# 只有在开始的那一段时期里，纳奥米做做家务，也在厨房里干活。

(53) の訳は不適切であると思われる。それは対応する日本語の文が「最初のうちこそナオミは家事向きの用をして、勝手元の方を働きもしましたが」というものであり、動作は受影者と全く関係なく、元の「テクレル」構文の意味を表さないからである。

ただし、「テクレル」による「受影者の存在」のみでは、必ず「テクレル」構文を“給”構文に訳すというわけではない。(51)～(53)では、動作主が受影者のために、受影者の領域にあるものに働きかけることによって変化を起こし、その変化は現実的な利益として受影者が受け止めることが含意されている。受影者の領域にあるものかどうかは「受影者の～」というテストで判定する。(51)～(53)では、動作の対象はそれぞれ「私の授業」、「丑松の背中についた雪」、「ナオミの家事」ということを表せるので、「授業」「雪」「家事」受影者の領域にあるものと見なすことができる。

(51)ではもともと受影者が担当する授業を動作主が終わらせ、なくなるという変化が生じる。(52)では、動作主の動作によって雪がなくなり、体がきれいになるという変化が生じる。(53)では、ナオミが受影者の代わりに受影者がやるべき家事をやることによって受影者の家事が済んで、なくなるという変化が起こる。つまり、動作主の動作によって受影者の領域にある具象物に物理的な変化が生じる場合、あるいは受影者の領域にある抽象物が消滅するという変化が起こる場合、“給”構文に訳さなければならない。検索された17例のうち、前者は11例、後者は6例である。

以下の例文のように受影者の領域に変化の意味合いが読み取れないと、「テクレル」によって「受影者の存在」が読み取れても“給”構文に訳せない。

(54) 太郎は 私のために 図書館へ行てくれた。(作例)

筆者訳：＊ 太郎给我去了图书馆。

○ 太郎为我去了图书馆。

(55) 太郎は 私のために 結婚してくれた。(作例)

筆者訳：＊ 太郎给我结婚了。

○ 太郎为我结婚了。

(54)では、たとえ「私の図書館」が成立するとしても「行く」によって「図書館」に物理的な変化が生じるわけではない。(55)では「私の結婚」ではなく、「太郎の結婚」であるので、「結婚」は受影者の「私」の領域にあるものではないのである。従って、(54)(55)は“給”構文に訳すと、筆者訳のようにいずれも非文になってしまう。

4.7.2 “給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る場合

表3によれば、「ノタメニ」で受影者を導く「テクレル」構文においては、“給”構文と無標構文のいずれにも訳すことができるのは51例である。以下の節から、その翻訳の条件に関して分析を行う。まずは以下の例文を見てみよう。

(56) 時間つぶしに、女の飲むような甘いコクテルを拵えて貰って、それをホンの一

と口ずつ、舐めるように啜っていたのに過ぎないのですが、そこへ彼女が(私のために)料理を運んで来てくれたので…

中訳：为了消磨时间，我要了女人喝的甜鸡尾酒，一小口一小口抿着。这时，纳奥米端菜来了。

筆者訳：为了消磨时间，我要了女人喝的甜鸡尾酒，一小口一小口抿着。这时，纳奥米给我端菜来了。

(57) 永松が(私のために)持って来てくれる餌で、やっと生きている始末さ。

中訳：就靠永松拿来些吃的才勉强活着。

筆者訳：就靠永松给我拿来些吃的才勉强活着。

(56)(57)においては、先行動詞の「運んでくる」「持ってくる」という動作によって「料理」「餌」のモノが誰かに移動する意味が含まれているので、先行動詞による「モノの授与」の意味を表している。文脈により、そのモノの受け手は「ノタメニ」で導く受影者である。つまり、(56)(57)では、先行動詞の意味のみによってあるモノが動作主の動作を通して受影者に移動するということが表されている。コーパスの訳は“給”構文で訳されておらず、前後の文脈で「モノの授与」の意味合いが読み取れる。筆者訳に示すように、“給”でモノの受け手を補うことによって「モノの授与」の意味を明確に表している。「テクレル」の付加によって受影者の恩恵的感情を表すのみであり、「モノの授与」の意味に関わっていない。そのため、「ノタメニ」で受影者を導く「テクレル」構文では、先行動詞の意味によって受影者への「モノの授与」を表す場合に、“給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。

4.7.3 “給”構文に訳せない場合

表3によれば、「ノタメニ」で受影者を導く「テクレル」構文のうち、“給”構文に訳せず、無標構文のみに訳すのは276例であり、以下のような例文である。いずれも「モノの授与」と「受影者の領域の変化」の意味を表していない。

(58) 6時半に待ち合わせの場所へ行くと、彼は、あたりまえのように(僕のために)

立っていてくれた。

中訳：每天六点半我来到集合地点，他早已站在那儿了。

筆者訳：＊ 每天六点半我来到集合地点，他早已给我站在那儿了。

(59) お母さんだってきっと(私のために)喜んでくれるだろう

中訳：你的母亲也会高兴的。

筆者訳：＊ 你的母亲也会给你高兴的。

(60) しかし、(わたしのために)真実に聞いてくれた人は君くらいのものだ。

中訳：不过，只有像你这样的人才认真听讲。

筆者訳：＊ 不过，只有像你这样的人才认真给我听讲。

(58)～(60)では、先行動詞の「立つ」「聞く」「喜ぶ」といった動作は、「モノの授与」の意味を表さず、何らかのモノの作成も表せないため、「テクレル」を付けても、「モノの授与」の意味にもならないと考えられる。そのため、「モノの授与」の意味によって“給”構文に訳すことはない。ところで、「テクレル」の付加によって受影者としての話し手の存在が読み取れるので、日中翻訳上その受影者の存在を必ず表現する必要があると思われるが、(58)～(60)においては、動作主の動作によって受影者の領域に何らかの変化が生じる意味合いが読み取れない。例えば、「立つ」「喜ぶ」という動作はいずれも誰かに対して働きかける動作ではなく、動作主自身の動作を表す一項自動詞であるため、その動作によって動作主以外の人に変化をもたらすのは不可能であると考えられる。「聞く」という動詞は構文上「受影者の話」という「受影者の領域のもの」を項として取っているが、「聞く」という動作によって「話」がなくなるわけではないので、受影者の領域に何らかの変化を起こす意味合いが全く読み取れない。そのため、「モノの授与」も表さず、「受影者の領域に変化が生じる」という意味も表さない「ノタメニ」で受影者を導く「テクレル」構文は“給”構文に訳せない。

4.8 「ノカワリニ」「ニカワッテ」で受影者を導く「テクレル」構文

表3では、「ノカワリニ」「ニカワッテ」で受影者を導く「テクレル」構文がそれぞれ1

例しかない。本節では、その2例について説明する。

- (61) おれの云おうと思うところをおれの代りに山嵐がすっかり言ってくれた様なものだ。

中訳：似乎我想说的话全由豪猪替我说完了。

筆者訳：# 似乎我想说的话全由豪猪给我说完了。

- (62) 僕にかわって彼の看病をやってくれそうな物好きな人間もみつからなかった。

中訳：而且也找不到能代为照料他的热心人。

筆者訳：○ 而且也找不到能替我照料他的热心人。

○ 而且也找不到能给我照料他的热心人。

(61)(62)では、「のかわりに」「にかわって」の意味が同じで、置換されても文の意味が変わらないと思われるので、「ノカワリニ」として一括しておく。(61)(62)の「テクレル」構文においては、「のかわりに」「にかわって」は「代替」の意味で、動作主が受影者の代わりに動作を行い、それによって受影者が恩恵利益を獲得するという意味を表している。受影者を導く場合、(61)においては“給”ではなく、“替”という前置詞で受影者を導かなければならない。(62)では、“給”も“替”も使える。

(61)の先行動詞の「言う」は李(2009)に指摘されている発話内容移動動詞である。李(2009)は発話内容移動動詞の場合、「テクレル」構文は“給”構文と対応していると主張しているが、(61)はそうではない。それは(61)において受影者が「言う」の発話内容の受け手ではないからである。(61)では、「言う」による発話内容は受影者の「おれ」ではなく、別の人に伝わるという意味を表している。それに対し、“給”構文に訳すと、発話内容の受け手は必ず受影者の「おれ」である。そのため、(61)は“給”構文に訳せず、「かわりに」の意味によって“替”構文に訳されている。

(62)では、先行動詞の「やる」によっても「てくれる」によっても「モノの授与」の意味を表せない。文脈によって「彼」は「僕の恋人」であるので、受影者である「僕」の領域に存在するものと考えられる。動作主が「彼」を看病することによって「彼」が「病気」から「非病気」になるという物理的変化をもたらすことが表されている。つまり、受影者である「僕」の領域に存在するものに物理的な変化が起こるので、受影者の領域に変化が

生じていると見なすことができる。そのため、“給”構文に訳さなければならないはずであるが、「にかわって」という語彙の意味に従って訳せば、“替”構文にも訳し得る。一方、動作の対象は受影者の領域に存在するものでなければ、“給”構文に訳せず、“替”構文しか訳せない。

(63) 太郎は僕にかわって、先生の机を拭いてくれた。(作例)

筆者訳：○ 太郎替我擦了老师的桌子。

＊ 太郎给我擦了老师的桌子。

(63)では、「机」は「先生の机」で、「僕の机」ではないので、「机」は受影者である「僕」の領域に存在するものではないと考えられる。そのため、“給”構文に訳せない。

従って、受影者の領域に変化を起こす場合、「ノカワリニ」「ニカワッテ」で受影者を導く「テクレル」構文は“給”構文と“替”構文のいずれにも訳し得る。

4.9 「カラ」格で受影者を導く「テクレル」構文

検索された実例のうち、「カラ」格で受影者を導く「テクレル」構文は1例しかない。

(64) 話をしたことはなくても、彼女はボクから何かを感じ取ってくれたのだろう。

中訳：我尽管没曾与那女孩交谈过，但我想她一定从我身上感受到了她认为极有价值的东西。

筆者訳：＊ 我尽管没曾与那女孩交谈过，但我想她一定给我从身上感受到了她认为极有价值的东西。

(64)では、「ボクから」によって動作の方向性は受影者から離れることが表されている。即ち、「モノの授与」の意味を表しても受影者の「ボク」はモノの受け手になる可能性がない。さらに、「感じ取る」という動作主の心理的な動作の動作対象は受影者領域の抽象物である。動作によってその抽象物がなくなるわけではないので、受影者の領域に変化を起こす意味を表せない。従って、(64)は“給”構文に訳せない。一方、以下の例は動作主の動作によって受影者の領域に変化を生じることを含意している。

(65) 太郎はわたしからこの重荷を取り除いてくれた。(作例)

筆者訳：○ 太郎给我卸下了这副重担。

○ 太郎从我身上卸下了这副重担。

(65)においては、「取り除く」によって「重荷」は受影者の領域からなくなるので、受影者に変化をもたらす意味合いが読み取れる。また、「から」という格助詞は先行動詞の「取り除く」によって現れるものである。そのため、「から」で導く受影者も先行動詞の項であり、「テクレル」によるものではない。従って、(65)は“給”構文に訳せるが、必須ではない。

4.10 受影者が表示できない「テクレル」構文

本章では、受影者が表示できない「テクレル」構文とは「ノタメニ」によって受影者を導くことができない「テクレル」構文を指す。以下の(66)～(68)の例文において、あえて受影者を表示すると、いずれも非文になってしまう。受影者が表示できない「テクレル」構文は239例である。そのうち、“給”構文、“为”構文、“替”構文のいずれにも訳せないものは以下のようなものである。

(66) 雨が降ると、なだれの威力が増大するかわりに、(*私のために)飛砂の量もずっと減ってくれる。

中訳：一下雨，沙崩威力增大，飞沙的量要比平时少的多。

筆者訳：一下雨，沙崩威力增大，飞沙的量(*给/为/替我)要比平时少的多。

(67) ああ、そのかず子のひめごとが(*私のために)よい実を結んでくれたらいいけどねえ。

中訳：啊，和子的秘密事儿能够结出美好的果实就好啦。

筆者訳：啊，和子的秘密事儿能够(*给/为/替我)结出美好的果实就好啦。

(68) ほんとうに、(*私のために)そうであつてくれればいいが。

中訳：要真是这样就好了。

筆者訳：要真是(*给/为/替我)这样就好了。

筆者訳のように、中国語の授受有標構文は(66)～(68)の訳文として、いずれも成り立たない。(66)～(68)の文の意味から見れば、先行動詞の動作によって何か「モノの授与」の意味も全く読み取れない。また、受影者が補えないことから、「テクレル」の「受影者指示」機能も果たせない。このことから、これらの文は受影者を必ず付ける“给”構文に訳すことができないと考えられる。さらに、先行動詞の「減る」「結ぶ」「である」はいずれも人間がコントロールできないものである。それらの動詞は動作主が意図的にある動作を行うのではない。それらの動作によってある物事の状態を表しているである。それに対し、“为”構文、“替”構文は動作主が誰かのためにある動作を意図的に行う意味を表すので、翻訳上(66)～(68)の「テクレル」構文の意味に合わない。従って、受影者が表示できない「テクレル」構文は中国語の授受有標構文に訳せないと考えられる。(66)～(68)においては、「テクレル」の付け加えて、受影者である話し手側が動作状態の出現をありがたく評価する恩恵的感情を表すのみである。このありがたい感情の表現は中国語の授受の有標構文によって表せない。

ただし、検索された「テクレル」構文においては、受影者が表示できないにもかかわらず、“给”構文に訳されるものが以下の3例あった。

(69) 君がもしここで乱暴を働いてくれると、僕は非常に迷惑する。

中訳：你要是一味地胡闹，我是吃不消的。

筆者訳：你要是一味给我胡闹，我是吃不消的。

(70) わりや(汝は)飛んでもねえことを為てくれたなあ。

中訳：你给我闯下了大祸。

筆者訳：# 你闯下了大祸。

(71) 困ったことをしてくれたな。

中訳：你怎么净给我找麻烦。

筆者訳：# 你怎么净找麻烦。

(69)～(71)の「テクレル」構文では、動作主の動作によって受影者としての話し手側に迷惑をもたらしたことを表している。その迷惑の意味はそれぞれ「僕は非常に迷惑する」「飛んでもねえこと」「困ったこと」という表現で表されている。山田 (2004 : 215)はそのような「テクレル」構文を「非恩恵明示型テクレル文」とし、以下の例文を取り上げた。

(72) とんだことをしてくれたなあ。

(72)´ とんだことをしたなあ。

(山田 2004 : 215-216)

(72)は、動詞の項として話者を取らない間接構造をしている「テクレル」構文である。それについて、山田(2004 : 216)は「一方、間接構造の場合には、テクレルがないと受影性が感じられず、その分客観的な表現となり、話者の関与が感じられなくなる」と述べている。(69)～(71)の例を見ると、「テクレル」による「話者の関与」の機能は“給”構文で訳し得る。その一方で、(69)は無標構文と“給”構文のいずれにも訳し得るのに対し、(70)(71)は必ず“給”構文に訳さなければならないという違いが生じる。その理由は何だろうか。

(69)では、「乱暴を働く」によって単純に動作を行うことを表す、あるいはその動作の結果を示唆するという二通りの意味が含まれている。「テクレル」の付加によって「話し手側がその動作に対する評価」を示すこと、あるいは「話し手側は動作の結果の受け手」という「モノの授与」の意味を表している。後者の場合は“給”構文に訳すことができるが、前者は訳せない。従って、(69)は必ずしも“給”構文に訳すというわけではない。

前に指摘したが、佐々木(1994)は以下のような例を取り上げている。

(13) 他给我哭了一个晚上。(彼は僕のために一晩中泣いてくれた。)(再掲)

(13)の“給”構文の成立について、佐々木(1994)は直接的な受益行為であると主張している。しかし、「泣く」という動作は明らかに「彼」自身の行為であり、「僕」に対して直接働きかけることができないので、「直接的な受益行為」と見なせないと考えられる。実際に(13)の例文を何人かの中国語のネイティブに確認してもらったところ、いずれも「僕は彼に一晩中泣かれた」の意味を表しているという意見であった。つまり、「彼は一晩中泣

いてくれた」は皮肉的な意味であり、「彼の泣くことで僕に迷惑をかける」という「抽象的なモノの授与」を表している。従って、(69)と同様に、「泣く」によって何か悪い結果を受影者にもたらしたとして解釈される場合、「モノの授与」と見なすことができるため、“給”構文に訳すことができる。

(70)(71)では、「飛んでもねえこと」「困ったこと」によって動作の結果が表されている。「テクレル」で話し手側がその結果の受け手であることが明らかにされている。つまり、「テクレル」による「モノの授与」を表していると言える。日中翻訳上この「テクレル」による「モノの授与」の意味が不可欠であるため、“給”構文に必ず訳さなければならない。そうしないと、(70)(71)の筆者訳の示すように、動作と話し手側の関係が不明になってしまい、対応する日本語の文も「飛んでもねえことを為たなあ」「困ったことをしたな」であり、明らかに元の「テクレル」文の意味と異なっている。

5 「テクレル」構文に関する日中翻訳規則のまとめ

4.2節から4.9節の説明をまとめると、「テクレル」構文に関する日中翻訳の規則は以下になる。

- ① 「テクレル」による「モノの授与」を表す「テクレル」構文は必ず“給”構文に訳す。
- ② 先行動詞の意味による「モノの授与」を表す「テクレル」構文は“給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。
- ③ 「ノタメニ」で受影者を導く「テクレル」構文では、受影者の領域に変化が生じる場合、必ず“給”構文に訳さなければならない。
- ④ 「ノ」格で受影者を導く「テクレル」構文においては、受影者の具体的な所有物に物理的な変化を生じる場合は“給”構文に訳さなければならない。受影者の所有物が抽象物である場合、その抽象物が消滅すれば、“給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。
- ⑤ 「ノカワリニ」で受影者を導く「テクレル」構文では、受影者の領域に変化が起こる場合、“給”構文と“替”構文のいずれにも訳し得る。
- ⑥ 「カラ」格で受影者を導く「テクレル」構文では、受影者の領域に変化が起こる場

合、“給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。

以上の規則に基づき、本章の概要に提示された「テクレル」構文に関する日中翻訳のフローチャートを提案する。

6 フローチャートについての検証

「テクレル」構文の日中翻訳のフローチャートの有効性を検証するために、『現代日本語書き言葉均衡コーパス BCCWJ』(中納言)から「テクレル」構文をランダムに 100 例抽出し、フローチャートに従い、中国語に訳した。その訳文を 4 人の中国語のネイティブにチェックしてもらった結果は表 4 に示す。

表 4 「テクレル」構文の日中翻訳フローチャートに関する検証

調査協力者の出身地 例文の容認度	寧夏	福建	黒竜江	黒竜江	合計	比率
○	96	93	93	93	375	93.75%
△	4	7	6	7	24	6%
×	0	0	1	0	1	0.25%
合計	100	100	100	100	400	100.00%

○：自然 △：やや不自然だが、意味が通じる ×：不自然かつ意味が通じない

表 4 を見ると、フローチャートに従い翻訳された中国語の文の自然度は 93.75% に達し、フローチャートの有効性が確認されている。以下では△と×がつけられている例文に関して、その理由を分析してみる。

(73) この前僕の部屋を掃除してくれたんですが。(3○, 1△)

翻訳規則による訳：之前给我打扫了房间。

調査協力者の訳：之前为我打扫了房间。

(74) ボズウェルのおっさんはいろいろよくしてくれてる。(4△)

翻訳規則による訳：波兹维尔大叔给我做了周到的安排。

調査協力者の訳：波兹维尔大叔为我做了周到的安排。

(75) 塁のためにそんなことをしてくれる人間はわたしを除けば一人しかいない。

(2○, 2△)

翻訳規則による訳：可以给塁做那事的人除了我以外只有一个人。

調査協力者の訳：可以为垒做那事的人除了我以外只有一个人。

(76) 相手がやってくれたことに感謝したいなら。(1○, 3△)

翻訳規則による訳：想感谢对方给我所做的一切。

調査協力者の訳：想感谢对方为我所做的一切。

(73)～(76)では、訳文における“給”と“为”の使い分けに関して、筆者と調査協力者の間にずれがあった。

(73)では、フローチャートによって受影者の所有物に対して働きかけて、変化を生じる場合、“給”構文に訳さなければならない。3人の調査協力者は「○」を付けたが、1人は「△」を付けた。調査協力者から“給”はやや尊大な意味であり、“为”のほうがそれほど強くないという意見があった。つまり、“給”と“为”はいずれも(73)の訳文にとって必須的な要素である。ただし、この場合、両者の間に恩恵のニュアンスの違いのみあって、意味上差し支えないということである。

(74)～(76)は、受影者は「ノタメニ」で導ける「テクレル」構文である。「する」「やる」といった先行動詞の意味によって何らかのものを作成することを表していると考えられる。フローチャートによって必ず“給”構文に訳すということである。ただし、(74)においては、「してくれてる」といった動作しかないのに対し、(75)(76)では、「そんなことをしてくれる」「やってくれたこと」のように「こと」という形式名詞が現れている。そのため、(74)より、(75)(76)は「モノの作成」の意味合いは読み取れやすい。前後の文脈がない限り、(74)の「モノの作成」の意味に対する判断のゆれが一番大きいので、四人が「△」を付けた。(75)(76)は「こと」の影響を受けてからこそ「○」を付けるのであると考える。そのため、(73)～(76)の中訳に関する判断はフローチャートによって説明できると考えら

れる。

(77) この時も、二人は報告してくれた。(1〇, 3△)

翻訳規則による訳：这时，两人也给我汇报了。

調査協力者の訳：这时，两人也向我汇报了。

(78) ママがね、僕に約束してくれたんだ。(3〇, 1△)

翻訳規則による訳：妈妈给我许了诺的。

調査協力者の訳：妈妈对我许了诺的。

(79) 竜一が、ぼくにそういつてくれた。(2〇, 2△)

翻訳規則による訳：龙一给我那样说了。

調査協力者の訳：龙一对我那样说了。

(80) 以下は、千代ちゃんが紹介してくれた渡辺監督の言葉。(1〇, 3△)

翻訳規則による訳：以下是千代给我介绍认识的渡边导演的话。

調査協力者の訳：以下是千代介绍我认识的渡边导演的话。

(77)～(80)は、受影者は「ニ」格で導く「テクレル」構文である。先行動詞の「報告する」「約束する」「言う」「紹介する」によって受影者に抽象的な情報を伝える意味合いが読み取れる。そのため、フローチャートに沿って先行動詞による「モノの授与」である場合、“給”構文に訳してもよいが、必ず訳さなければならないというわけではない。訳文の判断結果から見れば、“給”構文は唯一の選択肢ではないことから、フローチャートの妥当性を裏付けたのである。

(81) いらっしゃい、と、声をかけてくれた若い女であったので、ほっとした。

(3△, 1×)

翻訳規則による訳：一个年轻女子给我说“欢迎光临”，我这才松了口气。

調査協力者の訳：a 一个年轻女子说“欢迎光临”，我这才松了口气。

b 一个年轻女子对我说“欢迎光临”，我这才松了口气。

(81)に関しては、文脈により、文の意味の理解には二通りある。一つは受影者を「ニ」格で導き、先行動詞の意味によって受影者に対し、何らかの情報を伝える意味である。もう一つは受影者が表示できない場合の動作主の動作に対する話し手の評価の言い方である。フローチャートによって前者の場合は“給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。後者の場合は“給”構文に訳せない。(81)の日本語の文に対する判断に筆者と調査協力者との間にずれがあったため、「×」がつけられている。ただし、「×」の場合もフローチャートによって説明できる程度のものであるため、そのフローチャートの有効性を確認できると考えられる。

7 本章のまとめ

本章では、動詞の属性から「テクレル」構文と“給”構文との対照を行った先行研究に対してコーパスから検索された実例を挙げ、動詞の属性のみで「テクレル」構文を“給”構文に訳せるかどうかを判断できるのではないことを明らかにした。そのため、「テクレル」構文を中国語に翻訳する際、どのような規則によって効率的な翻訳ができるかに関して、分析を行った。まず、受影者の格に注目し、対訳コーパスから検索された「テクレル」構文を分類した。さらに、「モノの授与」と「受影者の領域の変化」といった基準を立て、「テクレル」構文の日中翻訳規則をまとめた。

本章でも、第2章と同じく「モノの授与」は先行動詞の意味によるものと「テクレル」によるものに分けられる。

A 先行動詞の意味による「モノの授与」とは以下のA-1とA-2のいずれかに当たる。

A-1 先行動詞の動作対象にあたる具象物あるいは抽象物が先行動詞によって受影者に伝えられたり、移動したりすること。

A-2 先行動詞の動作対象とは異なる何らかの抽象物が先行動詞の動作によって受影者にもたらされること。

B 「テクレル」による「モノの授与」とは

先行動詞が表す動作で作成した具象物が「テクレル」によって受影者に移動するこ

と、あるいは先行動詞によって生じた何らかの抽象物が「テクレル」によって受影者にもたらされることを指す。

「受影者の領域の変化」とは以下のア～ウのいずれかに当たる。

- ア 受影者の領域に存在する具象物に好ましい物理的な変化が起こること。
- イ 動作によって受影者の身体部位が「－状態」から「＋状態」に変わるという変化が生じること。但し、「0 状態」から「＋状態」に変わるという変化が含まれない。
- ウ 先行動詞という動作によって受影者の領域に存在する抽象物がなくなること。

これらの条件を整理したうえで、日中翻訳のフローチャートを提案した。また、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(中納言)から無作為に日本語の「テクレル」構文を 100 例抽出し、そのフローチャートに従い、中国語に訳した。その訳文の許容度を 4 人の中国語のネイティブにチェックしてもらい、93%以上の訳文が自然であると認められていることから、本章で提案した「テクレル」構文のフローチャートの有効性が確認された。「テクレル」構文の日中翻訳の規則は以下のものである。

- ① 「テクレル」による「モノの授与」を表す「テクレル」構文は、必ず“給”構文に訳す。
- ② 先行動詞の意味による「モノの授与」を表す「テクレル」構文は、“給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。
- ③ 「ノタメニ」で受影者を導く「テクレル」構文では、受影者の領域に変化が生じる場合、必ず“給”構文に訳さなければならない。
- ④ 「ノ」格で受影者を導く「テクレル」構文においては、受影者の具体的な所有物に物理的な変化を生じる場合は“給”構文に訳さなければならない。受影者の所有物が抽象物である場合、その抽象物が消滅するならば、“給”構文と無標構文のいずれにも訳せる。
- ⑤ 「ノカワリニ」で受影者を導く「テクレル」構文では、受影者の領域に変化が起こる場合、“給”構文と“替”構文のいずれにも訳し得る。

- ⑥ 「カラ」格で受影者を導く「テクレル」構文では、受影者の領域に変化が起こる場合、“給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。

①～⑥を踏まえ、「テクレル」構文の日中翻訳のフローチャートは図 1(再掲)のようになる。

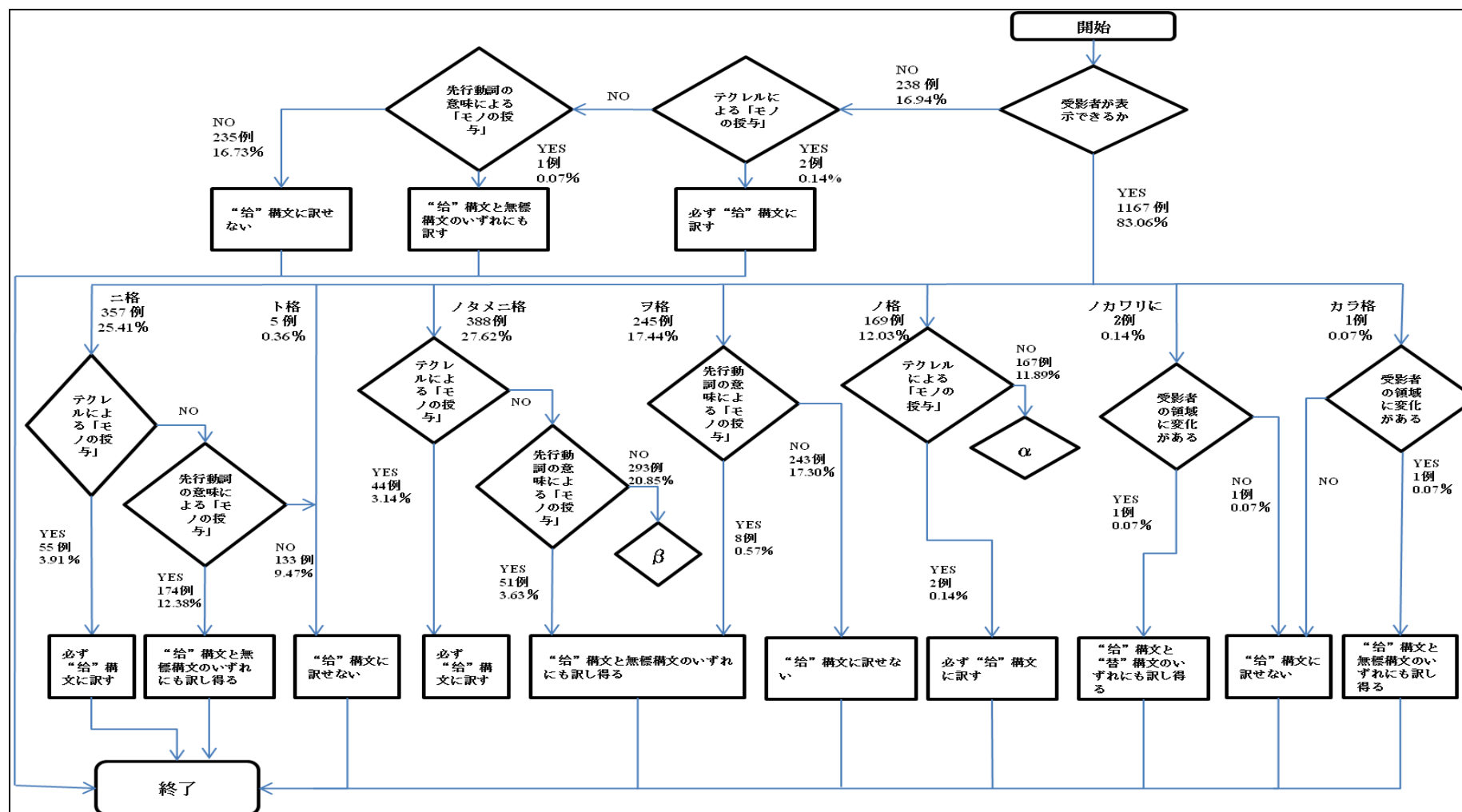


図1 「テクレル」構文の日中翻訳のフローチャート (再掲)

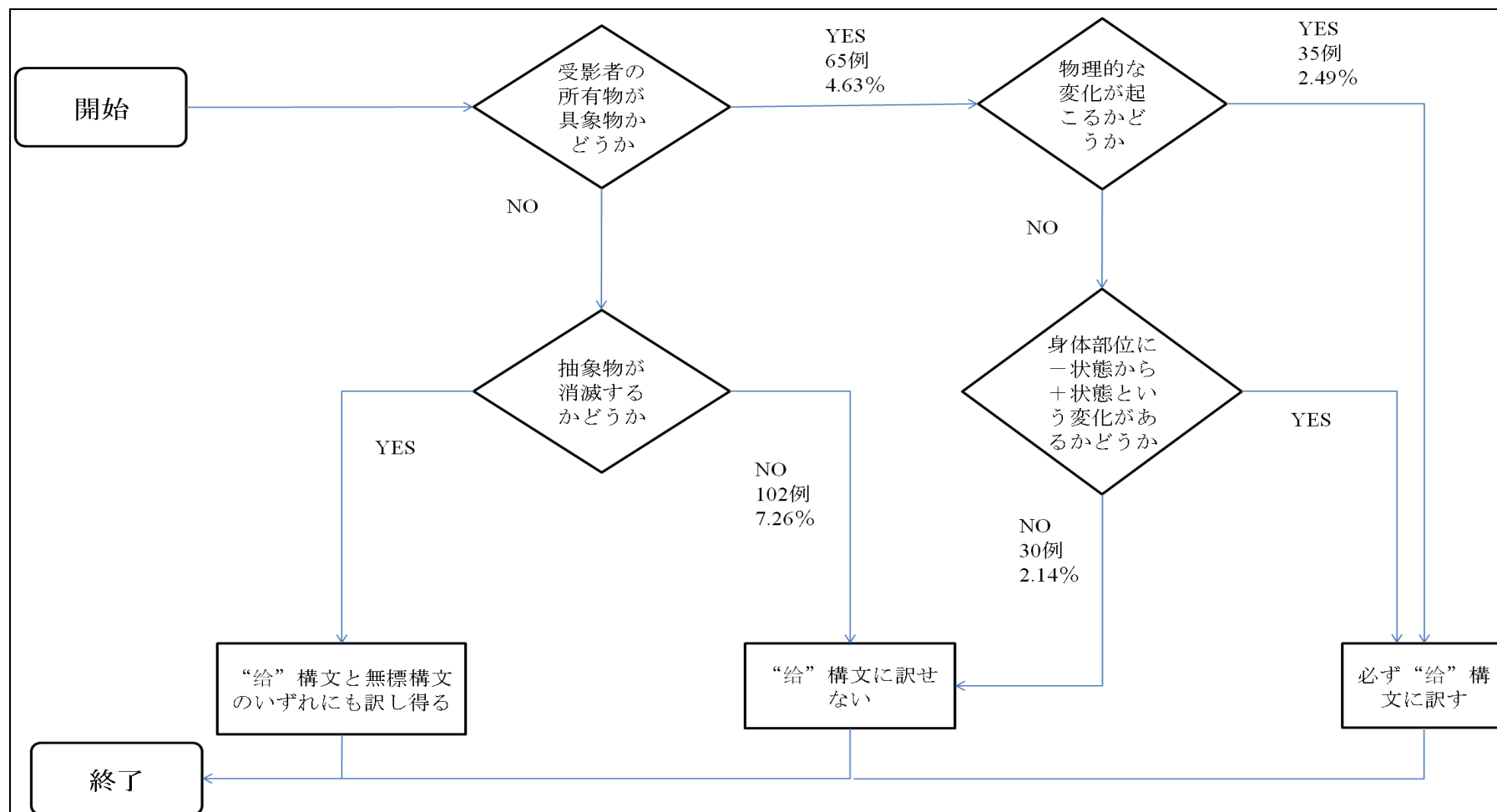


図 1-1 α のフローチャート (再掲)

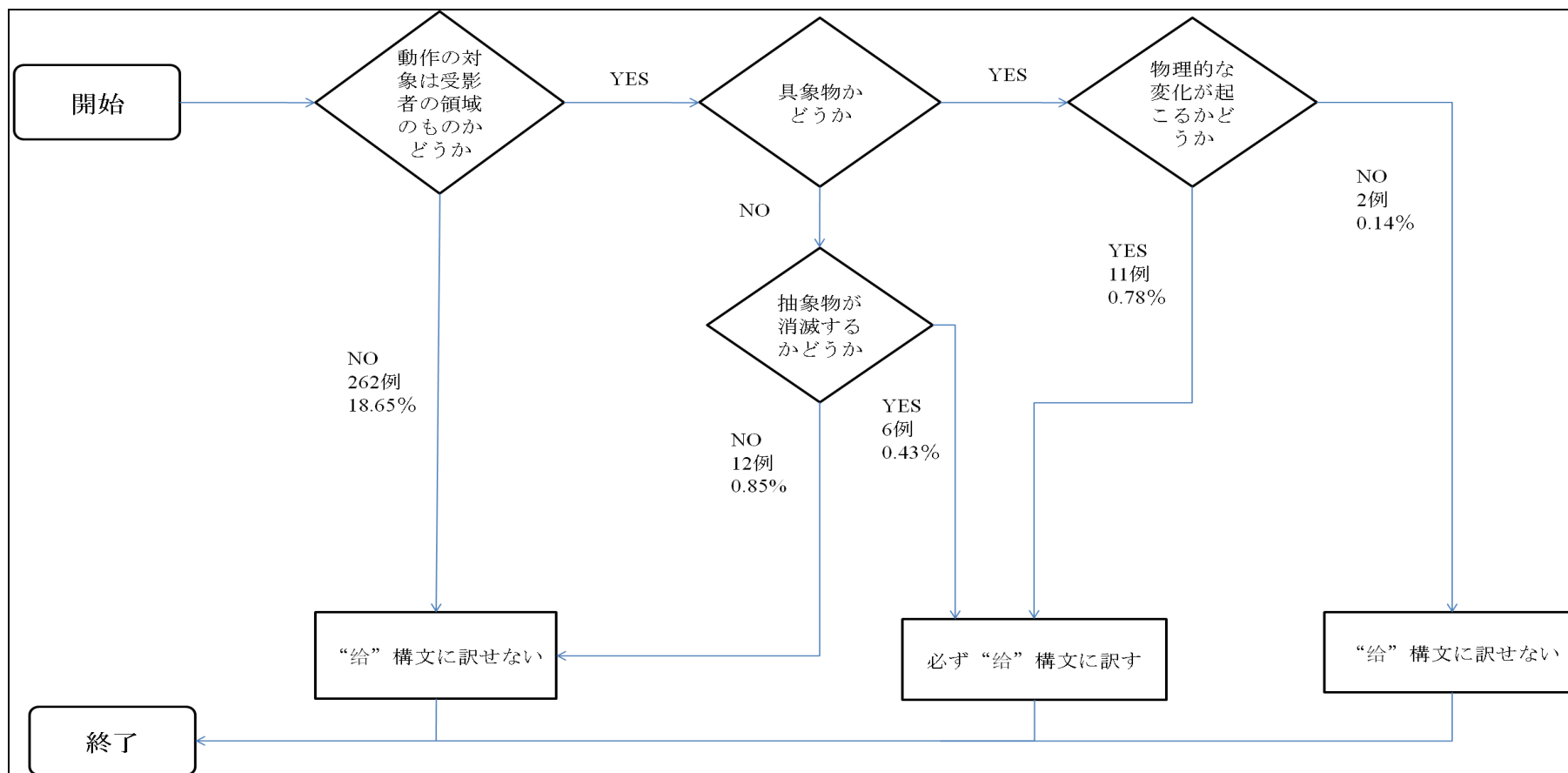


図 1-2 β のフローチャート (再掲)

第4章 「テモラウ」構文に関する日中翻訳規則

0 本章の概要

第4章では、先行研究の問題点を指摘したうえで、『中日対訳コーパス』で検索した641例の「テモラウ」構文に関して、「動作主が存在するかどうか」「動作主に働きかけるか、あるいはその意識があるかどうか」「動作主の動作から直接影響を受けるかどうか」といった基準を立て、「テモラウ」構文を「働きかけ直接型」「働きかけ間接型」「直接受影型」「間接受影型」「他人配慮型」の五つのパターンに分類した。それに対応する中国語の訳文を考察した。「テヤル」「テクレル」構文と同様に、中国語の有標構文に訳さなければならない条件、無標と有標構文のいずれにも訳し得る条件、無標構文にのみ訳す条件をそれぞれ明らかにして、「テモラウ」構文の日中翻訳フローチャートを提案した。このフローチャートに従い、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(中納言)からランダムに抽出した100例の「テモラウ」構文を中国語に訳した。それらの訳文の容認度をネイティブにチェックしてもらうことでフローチャートの有効性について検証を行った。提案したフローチャートは以下の図1の通りである。

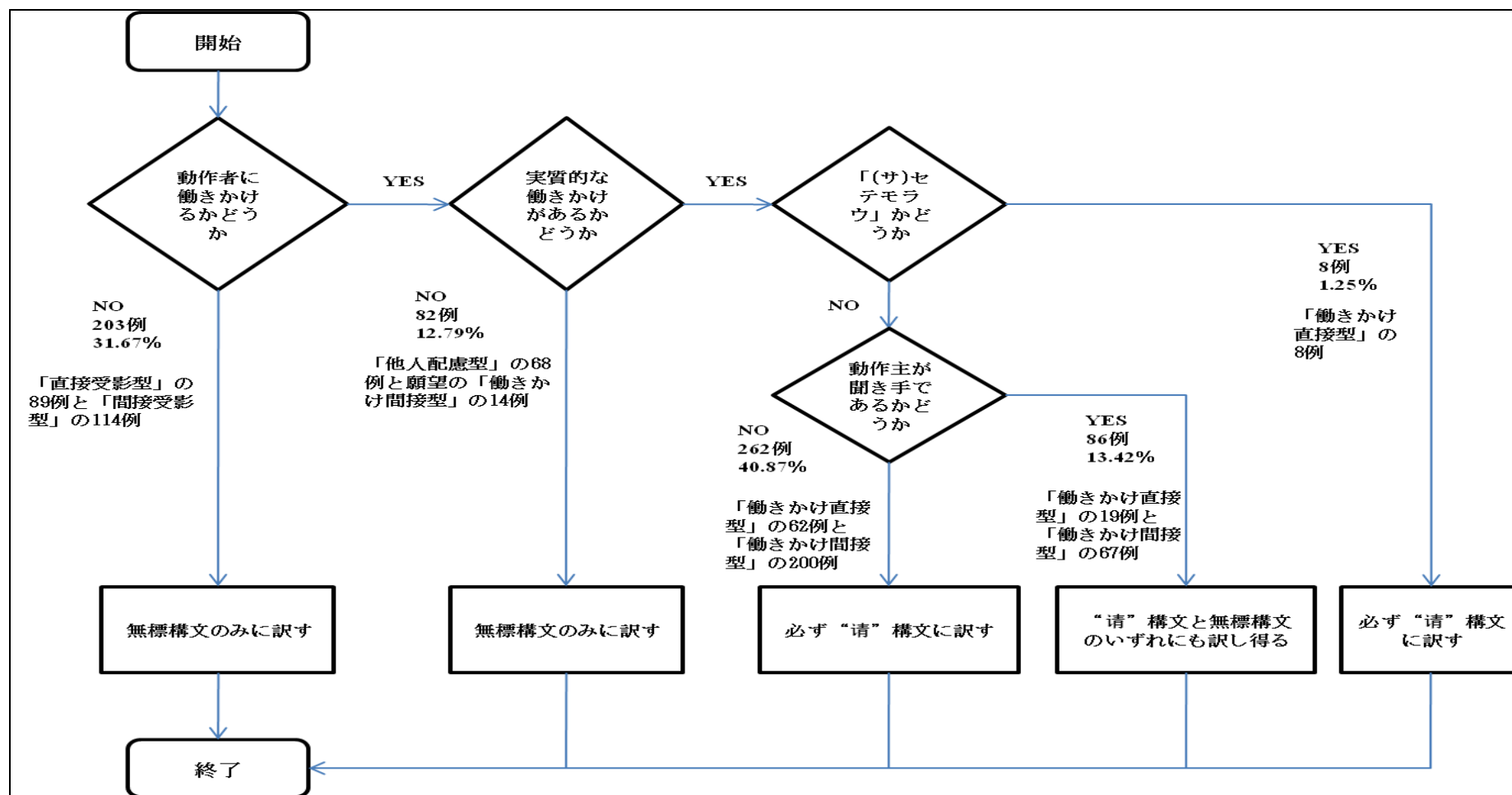


図1 「テモラウ」構文の日中翻訳フローチャート

1 「テモラウ」構文の日中対照の先行研究について

「テモラウ」構文に関する日中対照の先行研究は、それほど多くない。「テモラウ」と中国語の“请”をはじめ、“要”、“让”などの使役表現との対照がほとんどである。代表的な研究は以下の通りである。

奥津・徐(1982)は、「～てもらふ」とそれに対応する中国語の表現、特に“请”を中心として、両者の関係を分析している。

「テモラウ」の基本意味に関しては、奥津・徐(1982 : 98)は「単に利益的行為の取得とすべきである」とし、「その基本意味から派生し、文脈によって使役的行為の謙讓的表現となる(中略)この種の『～てもらふ』文を謙讓使役文、『～させる』によるものを尊大使役文と名付けておく」と述べている。以下の例文を取り上げている。

- (1) 中学校ではぼくたちは伊藤先生に英語を教えてもらった。
- (2) うわーはずかしい。先生に踊りをほめていただくなんて。
- (3) 1. 私はきのう田中君を辞めさせた。
2. 私はきのう田中君を辞めてもらった。

(奥津・徐 1982 : 98-99)

奥津・徐(1982)に従えば、(1)(2)は「単に利益的行為の取得」を、(3)は「使役的行為の謙讓的表現」を表す「テモラウ」構文である。

“请”の意味について、奥津・徐(1982)は“请”を次のように分類している。

1. 目的の“请” …NP1 が NP2 に V2 させるために、NP2 に請求する。

- (4) 我请了他弹钢琴。

(私は彼にピアノをひくように頼んだ。)

2. 結果の“请” …NP1 が NP2 に請求して V2 させる。

- (5) 我请他弹了钢琴。

(私は彼に頼んでピアノをひいてもらった。)

(奥津・徐 1982 : 96)

「前者は単なる要求文であるが、後者は要求と使役を含む要求使役文とでもいうべきものである。(中略)しかし、目的か結果かを示す標識は特にないので、いずれの解釈を取るかは結局文脈によるほかはない」と奥津・徐(1982 : 96)は指摘し、さらに「“请”が結果の“请”、つまり要求使役文であり、『てもらう』が派生的な謙讓使役文である場合、その使役文という一致点において両者に翻訳可能性が出て来る」と奥津・徐(1982 : 99)は主張している。

また、奥津・徐(1982)は“请”の他、“要”、“让”、“叫”の使役の意味を表す動詞と「テモラウ」との比較も行い、日中翻訳上その四つの使役動詞はいずれも「～てもらう」と訳し得ると指摘している。

(6) 我要他赔钱。

(僕は彼に弁償してもらう。)

(7) 解释完了，便让大家讨论，修正。

(説明がすんでから、一同に討論、修正してもらった。)

(8) 她举不出来，叫法院看着办。

(けんど証拠があげられなかったら裁判所で裁判してもらうんだ。)

(奥津・徐 1982 : 101-102)

最後に、奥津・徐(1982 : 103)は「以上“请”を中心として A 類兼語式動詞¹⁵が、一定の条件の下で「てもらう」と対応することを見て来た。つまりいずれも使役文であり、主語が身内であれば対応するのであった」、「(中略)謙讓的使役でない、単なる利益的行為の取得という意味を持つ固有の表現は中国語にはないらしい、ということである」と結論付けている。

¹⁵兼語式は中国語の文法用語である。呂(1980)によると、このタイプの述語は前後にある二つの動詞の間に名詞がはさまれているものからなっている。この名詞は前の動詞の目的語であると同時に後ろに来る動詞の主語でもある。兼語式の文として、例えば、“我叫他念信”「私は彼に手紙を読ませる」のような文である。また、呂(1980)によると、「N1+V1+N2+V2+N3」という兼語式の文では、「A 類の動詞 1 は常に使役の意味を含む他動詞であり、動詞 2 は動詞 1 の結果又は目的を表す」と述べている。

楊(1987)は、日中使役表現に関する対照研究で、『請』¹⁶は『強迫』とくらべて、Xがむりやりに傲慢な態度でY¹⁷にある行為をするようにしむけるのではなく、低い姿勢で頼む場合に用いられる。日本語の『てもらう、ていただく』と対応することが多い」と(楊1987 : 179)述べている。

(9) 我还欠一盅，喝完酒请大嫂热热的，酸酸的，辣辣的给咱们作三碗饭……。

(できましたら、もう一本お願いしたいですな。それから酢と胡椒をよくきかせたスープを三杯ほど用意していただきたいですな。)

(楊1987 : 179)

また、楊(1987 : 189)では、「人称との関連で、Yが第1人称で、Xが第1人称以外の場合、YがXより目上の人であっても、『～てもらう』は用いられない」と指摘されている。

(10) * 学生が私に報告してもらった。

(楊1987 : 189 下線筆者)

王(1998 : 42)は日中両言語における「行動要求内容表現」の対照研究では、『請，劝』などは『要求動詞』であり、『せる・させる』のほかに、他の表現に対応する場合がある」と述べている。王(1998)は以下の「テモラウ」構文を例として取り上げている。

(11) 请领导研究一下吧！

指導幹部の間で研究してもらうとしよう。

(王 1998 : 42)

つまり、王(1998)も使役の角度から、「てもらう」と“请”との対応に注目していると思われる。

しかし、『中日対訳コーパス』から以下のような「テモラウ」構文の用例があった。

¹⁶「請」はそのまま先行研究から引用したもので、“请”と同じであることをここで断っておく。

¹⁷使役者をX、被使役者をYとする。

(12) いつも手紙をありがとう。直子はとても喜んで読んでいます。私も読ませても
らっています。いいわね、読んでも？

中訳：谢谢你时常来信。直子看了非常高兴。我也看了，我看也可以吧。

筆者訳：* 谢谢你时常来信。直子看了非常高兴。我也请你让我看了，我看也可以吧。

(12)では、「テモラウ」の先行動詞は「読ませる」という使役の意味を表す動詞である。主語は「私」であり、「身内」の人である。奥津・徐(1982)と楊(1987)の主張に従えば、「テモラウ」が“请”と対応するわけである。しかし、筆者訳に示すように、“请”構文に訳すと、非文になってしまうのである。そのため、日中翻訳上使役と身内の二つの条件のみによって「テモラウ」構文は必ず“请”構文に訳すというわけではない。

先行研究における結果から、使役の点のみで「テモラウ」と“请”とが対応するはずだという認識があるようである。しかし、周知のように、「テモラウ」構文において恩恵利益を表すのは特徴であるということは奥津・徐(1982)、高見・加藤(2003)や山田(2004)など多くの先行研究で指摘されている。つまり、「テモラウ」構文は恩恵利益を表すのに対し、“请”は使役構文に現れるものであるため、一対一対応ではないと考えられる。本章では、「テモラウ」構文についての日中翻訳において「テモラウ」構文における使役や恩恵の意味をどういう要素によって中国語の授受有標構文で最大限に表現させるかに関して、分析を行う。

2 「テモラウ」構文の日中翻訳に関するコーパス調査

分析に先立ち、現代日本語の「テモラウ」構文と中国語の“请”構文との対応関係を調べておく。『中日対訳コーパス』を利用し、調査を行った。検索方法としては、それぞれ「[てで]もら[わいうえおっ]」、「[てで]いただ[かきくけこい]」、「[てで]貰[わいうえおっ]」、「[てで]頂[かきくけこい]」といった正規表現を入力し、例文を検索した。さらに検索された例文を手作業で「新葉の葉ずれが簫のような音をたてただけである」のような「テモラウ」構文に該当しない例文と「説明するから出してもらえませんか」の依頼表現を表す例文を除外した。調査の結果は表1にまとめる。

表1 「テモラウ」構文と対応する中国語の表現

	対応する中国語の表現	例文数	比率	実例
1	なし(無標構文)	412	64.28%	下女に給仕をして貰って、私はいつにな い不味い飯を済ませました。 中訳：女佣人侍候着我们，我吃了一顿从 没有吃过的难吃的饭。
2	请	133	20.75%	御承知の通り、選挙も近いてまいりまし た。どうしても此際のところでは貴方に 助けて頂かなければならない。 中訳：您也知道，选举很快就到了，此时 此刻无论如何得请您帮帮忙。
3	让	57	8.89%	子供のとき鼻血が出たときにする治療 を矢須子に <u>してもらった</u> 。 中訳：所以让矢须子照我小时候治流鼻血 的方法给我治了治。
4	要	15	2.34%	それから田舎の生家にたのんで送って <u>もらった</u> 切干大根、乾燥させたぜんまい、 わらびなどを副食物にしたこともござ います。 中訳：另外还要在乡下的娘家送来萝卜 干、干紫萁、蕨菜等作副食品。
5	托	9	1.40%	会社勤めの人の中には、郊外からの通 勤者に頼んで探って来 <u>てもら</u> う人もあ りました。 中訳：有的人托从郊外来上班的公司里的 人代摘。
6	求	7	1.09%	八千代の自動車動き出すと、梶大助は 事務所に行き、八千代の部屋を調べ <u>ても らう</u> ように頼んでロビイに引き返して 来た。 中訳：八千代坐的汽车开动后，梶大助走 到事务所，求其查一下八千代的房间号码
7	叫	5	0.78%	僕は、もうすっかり準備ができたと思っ て、この人達に <u>来てもらった</u> んだ。 中訳：我以为都准备好了呢，才叫他们来 了。
8	使	3	0.47%	その気持を克平に解 <u>ってもら</u> うことは 難しいと思った。 中訳：她觉得很难使克平理解自己的心 情。
	合計	641	100.00%	

表1によれば、「テモラウ」構文と対応する中国語の表現は8種類ある。そのうち、“请”との対応率がもっとも高いが、133例で全体の20.75%にすぎない。それに対し、無標構文と対応する「テモラウ」構文は64.28%を占めている。そのため「テヤル」構文、「テクレル」構文と同様に、先行研究において「テモラウ」と“请”との対照研究の範囲が十分であるとは言い難い。一方、コーパスの訳は唯一の訳文というわけではないので、筆者の内省によって最大限「テモラウ」構文と対応する中国語の表現を明らかにするために、それらの訳文を再整理した。その結果は表2に示す。

表2 「テモラウ」構文と対応する中国語の表現の再整理

中国語の授受の有標構文に訳すか	例文数	比率
A 無標構文のみ	285	44.46%
B “请” 構文と無標構文のいずれか	86	13.42%
C “请” 構文のみ	270	42.12%
合計	641	100.00%

表2によれば、筆者の内省で、「テモラウ」構文を最大限に“请”構文に訳した結果、両者の対応率は55.54%(BとCの合計)に達したが、無標構文のみ訳さなければならないのはやはり44.46%であり、ほぼ半分ぐらい占めている。表1における有標構文は、“请”、“托”とそれ以外の“让”、“要”、“叫”などは使役の意味を共有している。“请”、“托”は謙讓的に要求を表現する。それに対し、“让”、“要”、“叫”などは多少尊大な語感を持っている。つまり、両者の違いは待遇的な度合いの差にあるのみである。それに加え、筆者の内省で“请”以外の標識を“请”に置換しても意味上支障がないと考えられる。

(13) 子供のとき鼻血が出たときにする治療を矢須子にしてもらった。

中訳：所以让矢须子照我小时候治流鼻血的方法给我治了治。

筆者訳：所以请矢须子照我小时候治流鼻血的方法给我治了治。

(14) それから田舎の生家にたのんで送ってもらった切干大根、乾燥させたぜんまい、

わらびなどを副食物にしたこともございます。

中訳：另外还要在乡下的娘家送来萝卜干、干紫萁、蕨菜等作副食品。

筆者訳：另外还请在乡下的娘家送来萝卜干、干紫萁、蕨菜等作副食品。

(15) 会社勤めの人の中には、郊外からの通勤者に頼んで採って来てもらう人もありました。

中訳：有的人托从郊外来上班的公司里的人代摘。

筆者訳：有的人请从郊外来上班的公司里的人代摘。

(16) 八千代の自動車が動き出すと、梶大助は事務所に行き、八千代の部屋を調べ
もらうように頼んでロビイに引き返して来た。

中訳：八千代坐的汽车开动后，梶大助走到事务所，求其查一下八千代的房间号码，然后返回大堂。

筆者訳：八千代坐的汽车开动后，梶大助走到事务所，请其查一下八千代的房间号码，然后返回大堂。

(17) 僕は、もうすっかり準備ができたと思って、この人達に来てもらったんだ。

中訳：我以为都准备好了呢，才叫他们来了。

筆者訳：我以为都准备好了呢，才请他们来了。

(18) その気持を克平に解つてもらうことは難しいと思った。

中訳：她觉得很难使克平理解自己的心情。

筆者訳：她觉得很难请克平理解自己的心情。

(13)～(18)の“请”構文は待遇度の差異を除くと、意味上ではコーパスの訳文と同じであると考えられる。

本章では、先行研究が触れていない無標構文も視野に入れ、“请”構文に訳し得る「テモラウ」構文の日中翻訳の規則をまとめる。その規則を踏まえ、「テモラウ」構文の日中翻訳のフローチャートを提案する。

3 「テモラウ」構文の分類について

3.1 先行研究における「テモラウ」構文の分類

山田(2004)は、「テモラウ」構文の働きかけのあり方によって表3に示す分類を立てた。

表3 テモラウの働きかけ性の段階

		意図	作用	
A	依頼的テモラウ受益文	有	有	<div> <div>受益者</div> <div> </div> </div>
B	許容的テモラウ受益文	有	無	<div> <div>受益者</div> <div> </div> </div>
C	単純受影的テモラウ受益文	無	無	<div> <div>受益者</div> <div> </div> </div>

(山田2004 : 121)

表3の分類に合わせて、山田(2004)は以下の例文を挙げている。

Aタイプ (19) お医者さんに頼んで、一番いい注射をしてもらったら？(山田2004 : 119)

Bタイプ (20) 今までずっと見守ってもらっていた感じがした。 (山田2004 : 119)

Cタイプ (21) 疲れてるようだったから、そのまま寝ててもらった。 (山田2004 : 121)

ただし、山田(2004)では、「サセテモラウ」文を表3の分類に入れておらず、使役の意味との関係で分析し、以下の表4のようにまとめる。

表4 使役の意味とサセテモラウの特徴

		使役の意味	使役者顕在	話者の意志
させられる		強制	可	無視
させてもらう	I	原因	可(少)	なし
	II	許容	可	弱い
	III	間接受影	不可	強い

(山田2004 : 144)

また、山田(2004)では、表4の「サセテモラウ」構文のタイプに合わせ、以下の例文を取り上げている。

I (22) ヒヨドリの声って、きれいなんですね。毎日、楽しませてもらって、遠いメルヘンの世界を見ていたいような気持でした。 (山田2004 : 138)

II (23) 三十過ぎのお男が仕事もしないで女に飯食わせてもらうってのは何事ですか。 (山田2004 : 140)

III (24) 時間が時間だし、手みじかに言わせてもらいます。 (山田2004 : 141)

本章では、表3と表4を参照し、検索された641例の「テモラウ」構文の意味要素によって「サセテモラウ」文も「テモラウ」構文のパターンの一つとして、他のパターンと同じ基準で統一的に分類し、表5にまとめる。

表5によると、山田(2004)の表4の「させてもらう」のIとIIIは「他人配慮型」に含まれている。「させてもらう」のIIは「働きかけ直接型」に対応している。表4の「させてもらう」Iに対応する(22)では、実際に「ヒヨドリ」が話し手を楽しませるように働きかけることが表されていないので、表4で「ヒヨドリ」を使役者として見るのが妥当ではないと考えられる。従って表5では、(22)を「他人配慮型」の「テモラウ」構文としている。

表5 「テモラウ」構文の意味要素に基づく分類

「テモラウ」構文 の意味要素 「テモラウ」 構文のパターン	a 動作主が存在 するかどうか	b 動作主に働きかける か、あるいはその意 識があるかどうか	c 動作主の動作から 話し手が直接影響 を受けるかどうか
A 働きかけ直接型	○	○	○
B 働きかけ間接型	○	○	×
C 直接受影型	○	×	○
D 間接受影型	○	×	×
E 他人配慮型	×	×	×

3.2 本章の「テモラウ」構文の分類基準についての説明

A「働きかけ直接型」のパターン

本章では、「働きかけ直接型」とは話し手(側)¹⁸が動作主に働きかけ、動作主にある動作を起こさせ、話し手はその動作の項として、動作から直接利益を受けることを指す。

(25) 「これはロシア語で何といいますか」という言葉だけを通訳の人に教えてもら
い、あとはロシア人にひとつひとつ聞いて歩いた。

中訳：起初请翻译就教我这一句话：“这用俄语怎么说？”以后凡不懂的，到处找俄国人
请教。

(25)では、話し手がロシア語を習うために、「通訳の人」に何らかの働きかけをした結果、「通訳の人が言葉を私に教える」ということになることから、話し手が「通訳の人」の動作「教える」の「ニ」格として直接動作の影響を受けている。また、「テモラウ」によってその直接動作の影響は恩恵利益を話し手が受け止めている。従って、これを「働きかけ

¹⁸話し手(側)とは話し手あるいは話し手が自分の立場を置く人を指す。以下統一的に話し手と称する。

直接型」と呼ぶ。

B「働きかけ間接型」のパターン

以下の例文では、「働きかけ間接型」を表している。「働きかけ間接型」とは話し手が動作主に働きかけ、動作主にある動作を起こさせること、あるいは動作主に対する働きかける意識を持っていることを指す。話し手は動作主の動作の項ではなく、直接影響を受けないが、その動作の発生は自分の期待と一致しているため、間接的な利益として受け止める。

- (26) 私がおくすりを頂きに行って、お母さまのご容態の思わしくない事を看護婦さんに告げて、先生に伝えていただいても、普通のお風邪で心配はありません、という御返事で、水薬と散薬をくださる。

中訳：我去拿药时请护士转告他我母亲的病状不太好，可是医生却说这是一般的伤风感冒，用不着担心，只给了我药水和药粉。

- (27) 後年、父の出棺のとき、私がその死顔を見るのに急で、涙ひとつこぼさなかったことを想起してもらいたい。

中訳：读者们想必还记得，后来我长大成人，亡父出殡时，我虽为与死去的父亲见上最后一面，而心急如焚，但却没流一滴泪。

(26)では、「私」は看護婦さんに対して、「先生に伝える」という動作をするように働きかけることを表す。話し手が「伝える」という動詞の項ではないことから、動作から直接影響を受けるとは言えず、間接的にその動作による影響を受け、「テモラウ」によって話し手がその間接的影響を恩恵利益として受け止めている。(27)では、話し手は読者にあることを想起するように働きかけたい意識を持っており、動作主のその動作の実現によって自分が間接的に恩恵利益を受ける気持ちを表している。従って、これを「働きかけ間接型」と呼ぶ。

C「直接受影型」のパターン

「直接受影型」とは、話し手が動作主に働きかけず、動作主の動作を表す動詞の項とし

て、その動作の影響を恩恵利益として直接受けることを指す。

(28) あんたの軀にさわると、わいはお母はんに抱いてもらうような気がするのどす。

中訳：碰到你的身体时，我就觉得自己被母亲拥抱一样。

(28)では、話し手が「お母はん」に対して働きかけ、「お母はん」がその働きかけを受けて話し手を抱くという意味合いが読み取れない。話し手が「お母はん」から一方的な動作を受け、「テモラウ」によってその動作から利益を得ることが表されていると考えられる。つまり、この利益は話し手の働きかけと関係なく、話し手が受動的に受けるものである。それは「抱いてもら」を「抱かれる」に変えても恩恵利益が迷惑かニュートラルになる以外、意味が変わっていないからである。従って、このパターンを「直接受影型」と呼ぶ。

D「間接受影型」のパターン

「間接受影型」とは、話し手が動作主の動作を表す動詞の項ではなく、「テモラウ」によって動作主の動作から間接的に利益を受けることを指す。

(29) 「受取っもらわんと、仏さんが浮かばれません」と真顔になって云うのがある。

中訳：“你如果不收下，菩萨就不会显灵啦！”有人认真地这么说。

(29)では、話し手の働きかけで動作主が「受け取る」というわけではないことが分かる。また、話し手が「受け取る」という動作の受け手でもないため話し手と動作主が直接関係を持っていないと言える。ここにおける「テモラウ」によって話し手が自分と関係ない動作から間接的に影響を受け、それを自分への利益として受け止めるということを表す。従って、これを「間接受影型」と呼ぶ。

E「他人配慮型」のパターン

「他人配慮型」とは話し手が自分自身で動作をやるにもかかわらず、わざわざ他人から許

可を得て、動作をし、何らかの恩恵利益を受けるように見せることを指す。

(30) 五年間も大村湾に駐在して、勝手にカジカの研究に没頭させてもらっている。

中訳：五年时间里，他始终在大村湾安营扎寨，随心所欲地一头扎在杜父鱼研究上。

(30)では、「没頭する」があくまで話し手の一方的な動作であることが「勝手に」によって示唆されている。それにも関わらず、わざわざ「没頭させてもらう」を使うのは「サセテモラウ」により、誰かに配慮し、あたかも誰かが与益者、「彼」が受益者のように見せるからである。この場合、「サセテモラウ」は受益表現より、むしろ謙譲表現に近いと考える。従って、これを「他人配慮型」と称する。

ただし、「サセテモラウ」構文が必ずしも「他人配慮型」を表すわけではない。次のような「サセテモラウ」文がある。

(31) 渡辺と高丸は蘆田川の溪流に沿う坂道を二時間あまり歩いて下り、魚断淵というところまで行くと木炭動力の空きトラックが来たので、頼んで便乗させてもらった。

中訳：渡辺和高丸，沿着芦田川走了两个多小时的下坡路，来到一个叫鱼断渊的地方，看见开来一辆烧木炭的空卡车。经过交涉，才得以顺路搭车。

筆者訳 渡辺和高丸，沿着芦田川走了两个多小时的下坡路，来到一个叫鱼断渊的地方，看见开来一辆烧木炭的空卡车。请司机让他们俩顺路搭车。

(31)では、「頼んで」によって話し手が目の前の相手に対して働きかけて、相手が話し手を便乗させるということが表されている。話し手は「便乗させる」の項であり、「テモラウ」で恩恵利益を表している。そのため、この場合の「サセテモラウ」は「働きかけ直接型」の「テモラウ」構文であると考えられる。

4 各パターンの「テモラウ」構文と対応する中国語の表現

検索された641例の「テモラウ」構文を「働きかけ直接型」「働きかけ間接型」「直接受

影型」「間接受影型」「他人配慮型」の五つのパターンに分け、それぞれに対応する中国語の表現を表6にまとめる。

表6 「テモラウ」構文と対応する中国語の表現の再整理

対応する中国の 表現 「テモラウ」 構文のパターン	A 無標構文 のみ	B “请” 構文と無 標構文のいずれか	C “请” 構文 のみ	合計
I 働きかけ直接型	0	19	70	89
II 働きかけ間接型	14	67	200	281
III 直接受影型	89	0	0	89
IV 間接受影型	114	0	0	114
V 他人配慮型	68	0	0	68
合計	285	86	270	641

表6によれば、働きかけ性を表す「テモラウ」構文と対応する“请”構文の数がもっとも多く、356例に達している。そのため、先行研究では使役の角度から「テモラウ」構文と“请”構文との対照を行ってきたのはある程度正しいと考える。ただし、先行研究においては、日中翻訳の条件を具体化させていないのに加え、無標構文にのみ訳す場合の説明も述べられていない。そのため、次節からは表6のデータの解説をしたうえ、「テモラウ」構文の日中翻訳のフローチャートを提案する。

4.1 「働きかけ直接型」の「テモラウ」構文について

表6によれば、「働きかけ直接型」の「テモラウ」構文は89例であり、必ず“请”構文に訳さなければならないのは70例である。その他、無標構文と“请”構文のいずれにも訳し得るのは19例である。前述したように、「働きかけ直接型」を表す「テモラウ」構文においては話し手は必ず動作主の動作を表す動詞の項である。つまり、「働きかけ直接型」の「テモラウ」構文は「働きかけ性」「動詞の項としての話し手」「恩恵利益」という三つの意味要素を持っていると考えられる。

4.1.1 必ず“请”構文に訳す場合

以下の「働きかけ直接型」の「テモラウ」構文は、いずれも“请”構文に訳さなければならない。

(32) 八千代は自動車を降りると、運転手に案内してもらって、その戸田館という旅館に向った。

中訳： 八千代下车，请司机带路，朝户田馆那家旅店走去。

筆者訳： 八千代下车，请司机带自己朝户田馆那家旅店走去。

(33) そこのおかみさんに頼んで、鶏卵を十ばかりわけてもらい、さっそく半熟にして着母さまに差し上げた。

中訳： 请女掌柜让了十个鸡蛋，马上煮成半生不熟的给母亲吃。

筆者訳： 请女掌柜让了我十个鸡蛋，马上煮成半生不熟的给母亲吃。

(34) いらっしゃるの知ってましたら、わたしも連れて行っていただくんですのに。

中訳：“要是知道去看烟花，也请他带我去好了！”

(35) まず第一に相手を助けたいと思うこと。そして自分も誰かに助けてもらわなくてはならないのと思うこと。

中訳： 首先你要有帮助对方的愿望，同时也要有请别人帮助自己的心情。

(32)～(35)では、話し手が動作主に対し、話し手を動作対象とする動作を行うように働きかけることを通して、恩恵利益を得るということが表されている。また、話し手はそれぞれ「案内する」の「ヲ」格、「わけ」の「ニ」格、「連れていく」の「ヲ」格、「助ける」の「ヲ」格であるため、動作から直接影響を受けている。「テモラウ」によってその影響は恩恵利益として受け止められる。対応する中訳は、いずれも“请”構文である。“请”構文においては、“请”は謙遜的に相手に何か依頼する意味を表すため、働きかけ性を表している。さらに、“请”は話し手を対象として行う行為と共起し、必ず話し手にとって

の恩恵利益の意味を表している。単に“帶着我”(私を案内する)、“让我鸡蛋”(私に卵をわける)、“帶我去”(私を連れていく)、“帮我”(私を助ける)といった表現単独では文脈によって必ず恩恵利益の意味を表すわけではない。それに対し、“请人帶着我”、“请人让我鸡蛋”、“请人帶我去”、“请人帮我”といった表現自体は必ず“我”に対する恩恵利益の意味を表している。それは先行動詞の意味のプラスかマイナスかに関わりなく、文脈にも関係ないのである。

(36) 私は太郎に頼んで、私を殴ってもらった。(作例)

筆者訳：我请太郎打了我。

(36)の筆者訳では、“打”(殴る)はマイナスの意味であるが、“请”と共起し、“打”(殴る)の対象である“我”(私)にとって、“打”という動作が恩恵利益と見なされている。そのため、“请”構文によって(36)の「テモラウ」構文の恩恵的意味が明確に表されている。

また、「働きかけ直接型」の「テモラウ」構文において、述部が「動詞語幹＋(サ)セテモラウ」の文が8例あった。このタイプの「テモラウ」構文は話し手の行為を許可する権力を持つ実質的な使役者が存在したり、想定したりすれば、その使役者に対し、話し手の行為を許可するように謙遜的に要請することを表している。つまり、「働きかけ性」「動詞の項としての話し手」「恩恵利益」といった意味要素を持っているので、「働きかけ直接型」の「サセテモラウ」構文は必ず“请”構文に訳さなければならない。

(37) (結婚式場で新郎から) ひとこと、御挨拶をさせていただきます。(括弧は筆者による)

中訳：请允许我说几句话。

筆者訳：# 我说几句话。(一言、挨拶します。)

(38) それはそうと、いったい何時になったら、上にあがらせてもらえるんです？

中訳：说是这么说，到底什么时候，才能请你们让我到上面去呢？

筆者訳：# 说是这么说，到底什么时候，我才能到上面去呢？(それはそうと、いったい何時になったら、上にあがれるんです？)

(37)においては、結婚式の場合に面白くない余計な話を聞きたくない来賓がいらっしゃる
ので、反対する声が出るだろうということを新郎が念頭において、来賓を自分の行為の許
可者として想定するということが表されている。「私に挨拶させる」という使役行為をす
るように式場にいる来賓に対し、謙遜的に要請するのである。(38)でも、話し手は聞き手
に対し、「私に上がらせる」という行為を謙遜的に要請するのである。この場合は「働き
かけ直接型」と同様に、話し手自身を対象とする行為を行うように話し手は動作主に働き
かける。また、その謙遜的な要請の意味を表すために、聞き手目当てであっても、必ず“请”
構文に訳さなければならない。“请”がないと、筆者訳のように話し手は上からの目線で
自分の行為を宣言するというニュアンスを感じられるので、「サセテモラウ」における謙
遜的な意味と異なっているため、不自然になってしまう。

従って、「働きかけ直接型」の「テモラウ」構文は“请”構文に訳せば、「働きかけ性」
「動詞の項としての話し手」「恩恵利益」といった意味要素が十分に表されているので、
必ず“请”構文に訳さなければならない。

4.1.2 無標と“请”構文のいずれにも訳し得る場合

「働きかけ直接型」の「テモラウ」構文では、聞き手目当ての場合、依頼の意味が強く
読み取れる。日中翻訳の際、必ずしも“请”構文に訳すとは限らない。表6によれば、聞
き手目当ての「働きかけ直接型」の「テモラウ」構文は19例であった。

(39) 解ってもらいたいわ。

中訳： 您能够理解我吧。

筆者訳： 请您理解我把。

(40) 譲治さん、今夜は泊めて貰うわよ。

中訳： 让治先生，今晚让我在这儿过夜吧。

筆者訳： 让治先生，今晚请你让我在这儿过夜吧。

(41) そのことで、どうしたらいいか教えていただきたいんです。

中訳： 为此，想请您指点一下我应该怎么办。

筆者訳：为此，想您指点一下我应该怎么办。

(39)～(41)では、話し手は聞き手に対し、「解る」「泊める」「教える」といった行為をするように働きかける。話し手がそれぞれ「ヲ」格、「ヲ」格、「ニ」格として、直接影響を受けることが表されている。4.4.1の説明に従うと、これらの文は必ず“请”構文に訳さなければならないが、実際には筆者訳のようにいずれの文も無標構文に訳すことができる。それは聞き手目当ての依頼を表す場合、依頼の対象が目の前に存在しているので、わざと“请”で依頼の対象を導入する必要がなくなるからである。筆者訳のように、“请”がなくても聞き手に対して話し手を対象とする動作を行うように働きかけることが読み取れる。ここでは、“请”の有無によって聞き手に対する待遇度合には差が感じられるが、「テモラウ」構文が表している「働きかけ性」と「恩恵利益」の二つの要素は“请”構文と無標構文のどちらでも表すことができる。

4.2 「働きかけ間接型」の「テモラウ」構文について

前述したように、「働きかけ間接型」を表す「テモラウ」構文においては、話し手は動作主に対し、話し手を項としていない行為を行うように働きかけることが表されている。表6によれば、このパターンの「テモラウ」構文は281例である。そのうち、必ず有標構文に訳すのは200例、有標と無標のいずれにも訳すのは67例であり、無標構文のみに訳すのは14例である。

4.2.1 無標構文のみに訳す場合

「働きかけ間接型」の「テモラウ」構文では、話し手はある行為の実現を望んでいるために、その行為の実現になるように動作主に対して仕掛ける気持ちを表しているものが14例ある。該当する例は以下のようなものである。

(42) むしろ、そのくらいの覇気を持ってもらいたい。

中訳：毋宁说我非常希望诸位都有这样的雄心。

(43) 綺麗なひとは早く死ぬ。お母さまは、お綺麗だ。けれども、長生きしてもらい

たい。

中訳：无赖寿长，漂亮的人命短。妈妈是个漂亮的人，却又希望她活得长久。

- (44) 子どもがかわいいの一念から、よい子になってほしい、将来、社会の上層で生活できる人になってもらいたいというひたむきな感情から…

中訳：只从疼爱孩子、希望孩子成材、将来能生活在上流阶层的愿望出发。

(42)～(44)では、話し手は「皆が覇気を持つ」「お母さまが長生きする」「子供が社会の上層で生活できる人になる」といったことを望んでいる。そのために、「皆」「お母さま」「子供」に対し、そういう動作状態の実現をすることを期待する気持ち、即ち自分の願望を表している。つまり、(42)～(44)は話し手の動作主に働きかける気持ちを表すのみであり、実質的に動作主に働きかけることはない。「テモラウ」の付け加えによって話し手が動作主の動作実現を期待し、その動作の実現から何らかの恩恵利益を受けるといったことを表している。「期待」と「恩恵利益」が中心的な意味要素である。その「期待」の意味は相手に対する依頼の働きかけを表す“请”構文の意味と相容れないため、“请”構文には訳せない。中国語に訳す際、「期待」と「恩恵利益」の意味を“希望”(希望する)、“期待”(期待する)等の語彙の意味、あるいは文脈によって表現することができる。

4.2.2 無標構文と“请”構文のいずれにも訳し得る場合

「働きかけ間接型」を表す「テモラウ」構文では、話し手は聞き手に対し聞き手がある行為を行うように働きかけ、聞き手の動作から間接的に恩恵利益を受けるということを表す文は67例ある。これらはいずれも“请”構文に訳すことができる。以下の例を見てみよう。

- (45) 電話をかけて取り返してもらいたいな。

中訳：“打电话要回来嘛。”

筆者訳：“请你打电话要回来嘛。”

- (46) 今夜はみんな公平にして貰いたいなあ。

中訳：希望你今晚对大家一视同仁。

筆者訳：請你今晚对大家一视同仁。

(47) 実は——僕は、あの友達を助けて頂きたいと思って、こうして貴方に御話しているような訳ですが。

中訳：实话说，我这样和你说话，无非是希望你能够帮忙这位朋友……”

筆者訳：实话说，我这样和你说话，无非是请你能够帮忙这位朋友……”

(48) 君が是非辞職すると云うなら辞職されてもいいから、代りのあるまでどうかやって貰いたい。

中訳：如果你非要辞职不可，那你也可以辞职，但希望在接替的人到来之前，请你继续干下去。

筆者訳：如果你非要辞职不可，那你也可以辞职，但希望在接替的人到来之前，你继续干下去。

(45)～(48)では、話し手は聞き手に対し、動作を行うように働きかけている。つまり、働きかける相手(聞き手)の存在を前提とした依頼の表現である。また、「テモラウ」によって話し手が聞き手の「取り返す」「する」「助ける」「やる」といった動作から間接的に何らかの恩恵利益を得ることが表されている。4.1.2 節の分析と同様に、聞き手目当ての依頼を表す場合、必ず“请”によって聞き手を導く必要があるわけではない。“请”の有無は謙遜的なニュアンスに関わっているのみである。従って、待遇上のことを考えなければ、“请”の有無に関わらず、無標構文でも依頼の意味として通じる。

4.2.3 必ず“请”構文に訳す場合

4.2.2 では、聞き手目当ての「働きかけ間接型」の「テモラウ」構文は日中翻訳上無標と有標のいずれにも訳すことができることが明らかになった。一方、動作主が聞き手ではなく、さらに働きかけが実行されている場合、“请”構文に訳さなければならない「テモラウ」構文は 200 例である。

(49) 重松おじさんに見てもらうと、「やっぱり焼夷弾の油脂かもしれん。敵は油脂

爆弾を落したのかな」と仰有った。

中訳：我请重松姑父看了看，他说：“可能还是燃烧弹的油脂。敌人真的扔了油脂炸弹吗？”

筆者訳：# 重松姑父看了看，他说：“可能还是燃烧弹的油脂。敌人真的扔了油脂炸弹吗？”

(重松おじさんは見てから、「やっぱり焼夷弾の油脂かもしれん。敵は油脂爆弾を落したのかな」と仰有った。)

(50) このミサをきっかけにみなに家に帰ってもらったほどでした。

中訳：为了要作弥撒，我们就只好请大家先回去。

筆者訳：# 为了要作弥撒，只好大家先回去。

(このミサをきっかけに、みなが家に帰るしかない。)

(49)(50)では、「見る」「帰る」といった動作は動作主が自ら行うものではなく、話し手の働きかけを受け、実施する行為である。それは恩恵を考えず、「テモラウ」を「させる」に取り替えても意味が変わらないからである。従って、その働きかけ性と恩恵性が意味上不可欠な要素で、翻訳上必ず訳さなければならない。(49)(50)に対応する“请”構文では、相手への働きかけ性を表しているが、話し手への恩恵利益は文脈に依存し読み取るしかない。それに対し、以下の二つの場合、“请”構文の構造によって話し手への恩恵利益を明確に表している。

A 話し手が動作主の動作によるモノの受け手である場合

以下の「テモラウ」構文では、話し手が動作主に働きかけた結果、動作主の動作によって生じたモノを受けることによって、話し手への恩恵利益を表している。

(51) 僕は事務室から書類を食堂へ持って来て工場長に判を捺してもらった。

中訳：我把材料从办公室拿到了食堂，请厂长盖章。

(52) 旅館へ戻ると、八千代は女中に床を取ってもらった。

中訳：返回旅馆，八千代请女佣备好卧具。

(53) 葬式のお経も、閑間君に丁寧に読んでもらわなくてはね。

中訳：葬礼上念的经，也需请闲间君郑重其事地给我们念念。

(54) 無造作に膳を引寄せて、丑松はお志保につけて貰って食った。

中訳：丑松冒冒失失把饭盘拉过来，请志保姑娘给他盛。

(51)～(54)では、話し手は「テモラウ」の先行動詞「擦す」「取る」「読む」「つける」の項ではなく、直接影響を受けていない。そのため、「働きかけ直接型」の「テモラウ」構文と異なり、“请”と動作主の動作の共起によって話し手に対する恩恵利益の意味を表すわけではないと考えられる。ただし、(51)では、「判を押す」といった動作によって書類を作ることが含意され、話し手はその書類の受け手であることが表されている。(52)では、「床を取る」の結果は話し手が「寝床」の使用者になるということである。(53)では、「お経を読む」によって話し手は読む内容の受け手である。(54)では、「つける」によってご飯が盛られ、話し手がそのご飯の利用者である。即ち、話し手は動作主の動作によるモノの受け手であると考えられる。第2章と第3章で述べたように、「テヤル」「テクレル」構文と同様に、“给”構文に訳すことができる。さらに、その恩恵利益の意味は“请”と“给”の共起で、即ち“请(動作主)给(話し手)V”の文構造によって明確に表している。

(51) 僕は事務室から書類を食堂へ持って来て工場長に判を捺してもらった。

中訳：我把材料从办公室拿到了食堂，请厂长盖章。

筆者訳：我把材料从办公室拿到了食堂，请厂长给我盖章。

(51) のコーパスの訳は“请”と動作主の動作のみで、働きかけの意味を表しているが、恩恵利益の意味は文脈によって読み取れる。それに対し、筆者訳では、“请…给(話し手)V”という構造によって話し手は動作主に対し、話し手に関わる行為を行うように仕掛ける意味合いが出てくることに加え、その話し手への恩恵利益の意味はその文の構造で明らかに表現されている。従って、話し手が動作主の動作によるモノの受け手である場合、「テモラウ」構文の「働きかけ性」と「恩恵利益」を表すために“请”構文に訳さなければなら

ない。

B 話し手の所有物が動作主の動作の対象である場合

話し手が動作主に対し、自分の所有物を対象として動作を行うように働きかけ、その動作から恩恵利益を受けることを表す「テモラウ」構文は“请”構文に訳さなければならない。

(55) 面倒だからレイコさんに刈ってもらってるのよ。

中訳：我嫌麻烦，就请玲子剪掉了。

筆者訳：我嫌麻烦，就请玲子给我剪了头发。

(56) 僕は一日がかりで自転車の錆をおとし、油をさし、タイヤに空気を入れ、ギヤを調整し、自転車屋でクラッチ・ワイヤを新しいものにとりかえてもらった。

中訳：我花一天时间把自行车的锈去掉，抹上油，给轮胎充气，调好齿轮，请自行车店把联轴节和车条更新。

筆者訳：我花一天时间把自行车的锈去掉，抹上油，给轮胎充气，调好齿轮，请自行车店给我换了新的自行车联轴节和车条。

(57) あの、診察して貰いたいんですが……。

中訳：对不起，我们想请医生检查一下……

筆者訳：对不起，我们想请医生给我检查一下身体……”

(55)～(57)では、動作主の動作の対象は話し手の「髪」「自転車」「体」であり、これらはいずれも話し手の所有物である。この話し手の所有物には、動作主の動作によって所有物に明らかに何らかの変化が明らかに生じており、話し手はそれらの変化を恩恵利益として受け止めている。こういった場合、第2章と第3章で述べたように、“给”構文に訳せる。即ち、Aの場合と同様に、“请…给(話し手)V”という構造の“请”構文によって「働きかけ性」も「恩恵利益」も明確に表せると考えられる。従って、動作主の動作の対象が話し手の所有物である「働きかけ間接型」を表す「テモラウ」構文は必ず“请”構文に訳さな

ければならない。

4.3 「直接受影型」と「間接受影型」の「テモラウ」構文について

表5の「直接受影型」と「間接受影型」の「テモラウ」構文においては、動作主が存在するが、話し手から動作主への働きかけがない。これらは動作主の動作から影響を受け、その影響を恩恵利益として受け止めるという意味を表している。働きかけ性がなければ、“请”構文のような使役の意味を表す有標構文に訳すというわけではない。一方、中国語では、“被”、“让”、“叫”などの受動標識を持っている有標受動文が存在している。以下の節から、「テモラウ」構文はこれらの有標受動文に訳せるかどうかについて説明する。

4.3.1 「直接受影型」の「テモラウ」構文の日中翻訳について

前述したように、「直接受影型」の「テモラウ」構文では、動作主に対する働きかけ性が含意されず、話し手は動作主の動作の項として、直接動作主の動作から影響を受け、その影響を恩恵利益として受け止める。表6によれば、「直接受影型」の「テモラウ」構文は89例である。

- (58) 自白すると、私の財産は自分が懐にして家を出た若干の公債と、後からこの友人に送って貰った金だけなのです。

中訳：坦白地说，我的财产只有我私藏的家里的若干公债，和后来这位朋友送来的钱。

筆者訳：* 坦白地说，我的财产只有我私藏的家里的若干公债，和后来被这位朋友送来的钱。

- (59) 困難にぶつかって助けてもらおうと、救いの手を待っていたのでは、自分ひとりだけ遅れてしまいます。

中訳：如果一有困难，就停下等着老师来帮助的话，慢慢地就会被拉下。

筆者訳：? 如果一有困难，就停下等着被老师帮助的话，慢慢地就会被拉下。

- (60) 十五の歳から育て貰った恩を忘れたことはない。

中訳：没有忘记从十五岁起养育我的恩情。

筆者訳：？ 没有忘记从十五岁起我被养育的恩情。

(58)～(60)では、話し手はそれぞれ「送る」の「ニ」格、「助ける」のヲ格、「育てる」のヲ格で、動作の直接受け手である。「テクレル」の付加によって動作主の動作を通して話し手への恩恵利益を表している。中国語においては、“被”、“让”、“叫”構文¹⁹等の有標の直接受動文がある。しかし、大河内 (1982 : 319-320) ²⁰は『被』は被害、被災の『被』であり『蒙る』ことに由来する。したがって当然好ましくないこと、話し手が不如意と感ずることに使われ、好ましいことには使われない」と述べている。そのため、有標の直接受動文は中立的に物事を叙述するという意味を表している場合もあるにもかかわらず、恩恵的な表現であるとは言えない。特にその不如意性は「テモラウ」構文の恩恵性と相容れないので、筆者訳のような中国語の有標受動文に訳すと、非文か不自然な文になってしまう。『中日対訳コーパス』に見られた 89 例はいずれも「テモラウ」の先行動詞の意味によって無標の動詞文に訳され、恩恵利益の意味合いは前後の文脈で読み取れる。従って、「直接受影型」の「テモラウ」構文は有標構文に訳すことができず、無標構文に訳さなければならない。

4.3.2 「間接受影型」の「テモラウ」構文の日中翻訳について

「働きかけ受動利益」の「テモラウ」構文では、話し手は動作主の動作の項ではなく、話し手は動作主の動作から間接的に影響を受け、その影響を恩恵利益として受け止める。表 6 によれば、「間接受影型」の「テモラウ」構文は 114 例である。いずれも「テモラウ」の先行動詞の意味のみによって中国語の無標動詞文に訳されている。

(61) 一早く登っていただかないと、他の人に登られそうですから。

中訳：因我觉得你们再不快点登山的话，说不定给别人捷足先登了。

筆者訳：＊ 因我觉得被你们再不快点登山的话，说不定给别人捷足先登了。

(62) 元気を出していただかないと、僕はまた帰れなくなってしまう。

¹⁹ “N1+被/让/叫+N2+(結果補語)” という構造を持っている文を指す。(N1 は受動者，N2 は V の動作主)

²⁰ 大河内(1982 : 320)は、『叫、让、给』は多少の差はあるが、(中略)口語では『被』にかわって同じく不如意の事態を蒙るのに使われる」と述べている。

中訳：您要是不鼓起精神，我可又不好走了。

筆者訳：＊ 被您要是不鼓起精神，我可又不好走了。

(63) 曾根はそこの建物に、いつにも行ったことはなかったが、その二階の一室に、
厩大なカジカの研究資料を保管してもらってあった。

中訳：那里他并不常去，但二楼一个房间里，保管着他那数量惊人的杜父鱼研究资料。

筆者訳：？？ 那里他并不常去，但二楼一个房间里，被保管着他那数量惊人的杜父鱼
研究资料。

(61)～(63)では、文脈によって動作主への働きかけ性がなく、「テモラウ」の先行動詞の「登る」「出す」「保管する」は話し手を項とする動詞ではない。「テモラウ」によって話し手はそれらの動作から間接的に何らかの影響を受け、「間接受動」の意味が表されている。しかし、筆者訳のように、中国語の有標の間接受動文に訳されると、かなり不自然か非文になってしまう。

また、以下の「テモラウ」構文は有標の間接受動文に訳すと、元の日本語の文とは意味が変わってしまう。それは有標の間接受動文は被害を受ける意味を表しているため、「テモラウ」構文の恩恵性と衝突しているからである。

(64) 王さんに先にこのいいアイデアを言ってもらった。(作例)

筆者訳：○ 幸好小王先说了这个好点子。

被小王先说了这个好点子。

(王さんに先にこのいいアイデアを言われちゃった)

(64)の「テモラウ」構文では、話し手は「王さん」の「いいアイデアを言う」という動作から恩恵を受けていることを表しているのに対し、“被”有標の間接受動文では話し手は「王さん」の動作から不利益を被ることしか表さない。そのため、恩恵を表す「テモラウ」構文は有標の間接受動文に訳せない。「テモラウ」構文の恩恵性は“幸好”(幸い)という話し手の好ましい感情を表す副詞によって表されている。

一方、山田(2004)では、「～てもらっては困る」は非恩恵の意味も表せると指摘している。その非恩恵的な意味は「困る」ということから読み取るので、「～もらって」からは

皮肉のニュアンスが読み取られるのみだと考えられる。(65)は被害の意味を表す“被”の有標受動文に訳せるが、必須ではない。その被害の意味は「困る」という言葉の影響を受けて読み取るものであり、「テモラウ」とは関係ない。以下の筆者訳はいずれも日本語の受身文に訳し得る。

(65) 王さんに先にこのいいアイディアを言ってもらっては困るんですね。(作例)

筆者訳：○ 要是被小王抢先说了这个好点子就麻烦了。

○ 要是小王抢先说了这个好点子就麻烦了。

(王さんに先にこのいいアイディアを言われては困るんですね。)

従って、「間接受影」を表す「テモラウ」構文も有標の間接受動文に訳せず、無標動詞文に訳さなければならない。この場合、恩恵の意味は前後の文脈に依存し読み取るしかない。

4.4 「他人配慮型」の「テモラウ」構文の日中翻訳について

「テモラウ」構文においては、話し手が自分自身の動作をするのにも関わらず、相手の許可を得て動作をするを表す「サセテモラウ」という形式を通して、他人を配慮し、話し手の動作を表している。「サセテモラウ」は謙譲語として使われていると考えられる。表6によれば、「他人配慮型」の「テモラウ」構文は68例である。

(66) 私は六十四歳でニチイ相談役になり、現在、マイカルグループ(ニチイグループ)の健康保険組合と厚生年金基金の理事長をさせてもらっている(している)。

中訳：我在64岁时任尼齐伊咨询顾问，现在担任尼齐伊集团的健康保险组织和养老福利基金的理事长。

(67) 師匠さんご自身、伊豆の温泉へ仕事に來た途中でちょっと立ち寄らせていただきました(立ち寄った)とおっしゃって…

中訳：艺术家说他是去伊豆温泉工作，顺路来看我们的。

(68) 私の疑問は喜多村先生と親しくおつき合いをさせていただく(する)ようになっ

て初めて解けた。

中訳：这个疑问直到我有幸与喜多村先生亲切交往之后才得以解开。

(括弧は筆者による)

(66)～(68)では、「テモラウ」の先行動詞はいずれも「(さ)せる」という使役の形をしている動詞である。つまり、使役の意味を表していると言える。奥津・徐(1982)、楊(1987)の先行研究では、使役の場合、「テモラウ」は“请”と対応することができると指摘されているが、必ずしもそうとは限らない。(66)～(68)では、動作主が存在せず、実質的な働きかけを行うわけではない。あたかも他人から許可を得て行動を行うように見せるという形によって他人への配慮を念頭に「サセテモラウ」を謙譲語として使用している。従って、働きかけ性がない限り、使役の有標構文に訳すのではなく、中国語の無標構文に訳す。その謙譲的な意味は個別の言葉で、例えば、(68)の“有幸”(幸いに)によって相手に対する謙譲的な気持ちが表されている。

「他人配慮型」の「サセテモラウ」構文においては、実質的に動作主を働きかけないので、“请”構文に訳せず、無標構文にのみ訳される。

4.5 「テモラウ」構文の日中翻訳規則のまとめ

4.1 節から 4.4 節の内容をまとめ、「テモラウ」構文の日中翻訳規則を次のように提案する。

- ① 動作主に働きかけることを表していない「直接受影型」(89 例)と「間接受影型」(114 例)の「テモラウ」構文は無標構文のみに訳す。
- ② 使役の形式をしても意味上実質的な働きかけではない「他人配慮型」(68 例)と願望を表す「働きかけ間接型」(14 例)の「テモラウ」構文は無標構文のみに訳す。
- ③ 実質的な働きかけを表す「サセテモラウ」構文(8 例)は“请”構文に訳さなければならない。

④ 動作主が聞き手であり、実質的な働きかけを表す「働きかけ直接型」(19 例)と「働きかけ間接型」(67 例)の「テモラウ」構文は“请”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。

⑤ 動作主が聞き手ではなく、実質的な働きかけを表す「働きかけ直接型」(70 例)と「働きかけ間接型」(200 例)の「テモラウ」構文は“请”構文に訳さなければならない。

上記の規則を踏まえ、本章の概要に提示された「テモラウ」構文の日中翻訳のフローチャートを提案する。

5 「テモラウ」構文の日中翻訳フローチャートに関する検証

「テモラウ」構文の日中翻訳フローチャートを検証するために、「現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)」(中納言)からランダムに「テモラウ」構文を 100 例抽出し、フローチャートに従い、中国語に訳した。その中国語の訳文を 4 人の中国語のネイティブにチェックしてもらった結果は表 7 のように示す。

表 7 「テモラウ」構文の日中翻訳フローチャートに関する検証

調査協力者の出身地 例文の容認度	北京	寧夏	湖北	浙江	合計	比率
○	97	96	96	96	385	96.25%
△	3	4	4	4	15	3.75%
×	0	0	0	0	0	0
合計	100	100	100	100	400	100.00%

○：自然 △：やや不自然だが、意味が通じる ×：不自然かつ意味が通じない

表 7 のデータによると、フローチャートに従い訳した文の自然率が 96.25%に達しているのに加え、非文もないので、「テモラウ」構文の日中翻訳フローチャートの有効性が確認されている。以下では△を付けた訳文について説明する。

(69) いつまでも病院の側に待ってもらうことにも気がひけたの。

翻訳規則による訳：也不好意思请医院一直等下去。(○：3人 △：1人)

調査協力者の訳：也不好意思让医院一直等下去。

(70) できることなら一度病院で診てもらった方が安心すると思いますけど…。

翻訳規則による訳：可以的话，我觉得还是去医院请医生看看放心点。(○：2人 △：2人)

調査協力者の訳：可以的话，我觉得还是去医院让医生看看放心点。

(71) 驚いて、すぐに屋根に上がってもらいました。

翻訳規則による訳：感到有点吃惊，立刻请他们上屋顶看看。(○：3人 △：1人)

調査協力者の訳：感到有点吃惊，立刻让他们上屋顶看看。

(69)～(71)の中訳では、“请”と“让”の使い分けが問題となっている。2節にも述べたように、“请”と“让”はいずれも使役動詞として使い、それらの構文構造によって恩恵利益を表すことができるが、動作主への待遇度合いには差がある。調査協力者は「病院」「医者」「労働者」に対して待遇の配慮にこだわらず、“让”構文を選んだのである。二つの訳文は意味上差し支えがないので、フローチャートからずれる文とは見なさない。

(72) 七時に車で祇園まで送ってもらった。

翻訳規則による訳：七点他们送我到了祇園。(○：2人 △：2人)

調査協力者の訳：七点请他们送我到了祇園。

(73) みよちゃんはまだ抱っこしてもらってもいいのよ。

翻訳規則による訳：还是可以抱抱美代的。(○：3人 △：1人)

調査協力者の訳：美代还是可以让人抱抱的。

(74) 私は自分の意見を代弁してもらったような気分だった。

翻訳規則による訳：我感觉他们说出了自己的心声。(○：3人 △：1人)

調査協力者の訳：我感觉让他们说出了我的心声。

(72)～(74)では、「テモラウ」構文の働きかけ性と受動性について筆者と調査協力者の判断にはずれが出てくると考える。筆者は(72)～(74)を「受動型」の「テモラウ」構文として扱っているが、調査協力者の一人はそれらを「働きかけ型」として“让”構文に訳している。(73)の調査協力者の訳は“让”構文であるが、“请”構文にも訳し得るため、調査協力者の訳もフローチャートに合うものである。

(74)における調査協力者の訳は“让”の受動構文である。しかし、4.3 節に指摘したように、有標の受動構文は被害の意味を表しているため「テモラウ」構文の恩恵的な意味と衝突している。協力者の訳についてさらに別の3人の中国語のネイティブにチェックしてもらった結果、全員から不適切であると認定されている。従って、フローチャートに従い、(74)を無標構文に訳さなければならない。

6 本章のまとめ

本章では、「テモラウ」構文の日中翻訳のフローチャートを提案し、検証した。先行研究では、「テモラウ」と“请”構文との対照研究が行われている。コーパス調査の結果で、“请”構文に訳せない「テモラウ」構文はほぼ半分を占めていた。そのため、先行研究の研究範囲では不十分であると言える。それに加え、先行研究の指摘に沿って考えると、「テモラウ」構文の日中翻訳において説明できないところがある。従って本章では、「テモラウ」構文の意味特徴によって分類し、各種の「テモラウ」構文は必ず有標構文に訳す条件、有標構文と無標構文のいずれにも訳し得る条件、無標構文にのみ訳す条件をそれぞれ明らかにし、「テモラウ」構文の日中翻訳の規則をまとめたうえ、フローチャートを提案した。さらに、『現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)』(中納言)から「テモラウ」構文を無作為に100例抽出し、フローチャートに従い中国語に訳した。その中国語の訳文の容認度を4人の中国語のネイティブにチェックしてもらった。自然な訳文は96%以上達しているため、そのフローチャートの有効性が確認された。

フローチャートについての解説は以下の通りである。

- ① 動作主に働きかけることを表していない「直接受影型」(89例)と「間接受影型」(114例)の「テモラウ」構文は無標構文のみに訳す。

- ② 使役の形式をしても意味上実質的な働きかけではない「他人配慮型」(68 例)と願望を表す「働きかけ間接型」(14 例)の「テモラウ」構文は無標構文のみに訳す。
- ③ 実質的な働きかけを表す「サセテモラウ」構文(8 例)は“请”構文に訳さなければならない。
- ④ 動作主が聞き手である実質的な働きかけを表す「働きかけ直接型」(19 例)と「働きかけ間接型」(67 例)の「テモラウ」構文は“请”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。
- ⑤ 動作主が聞き手ではなく、実質的な働きかけを表す「働きかけ直接型」(70 例)と「働きかけ間接型」(200 例)の「テモラウ」構文は“请”構文に訳さなければならない。

従って、①～⑤を踏まえ、「テモラウ」構文の日中翻訳のフローチャートは図 2 に示す。

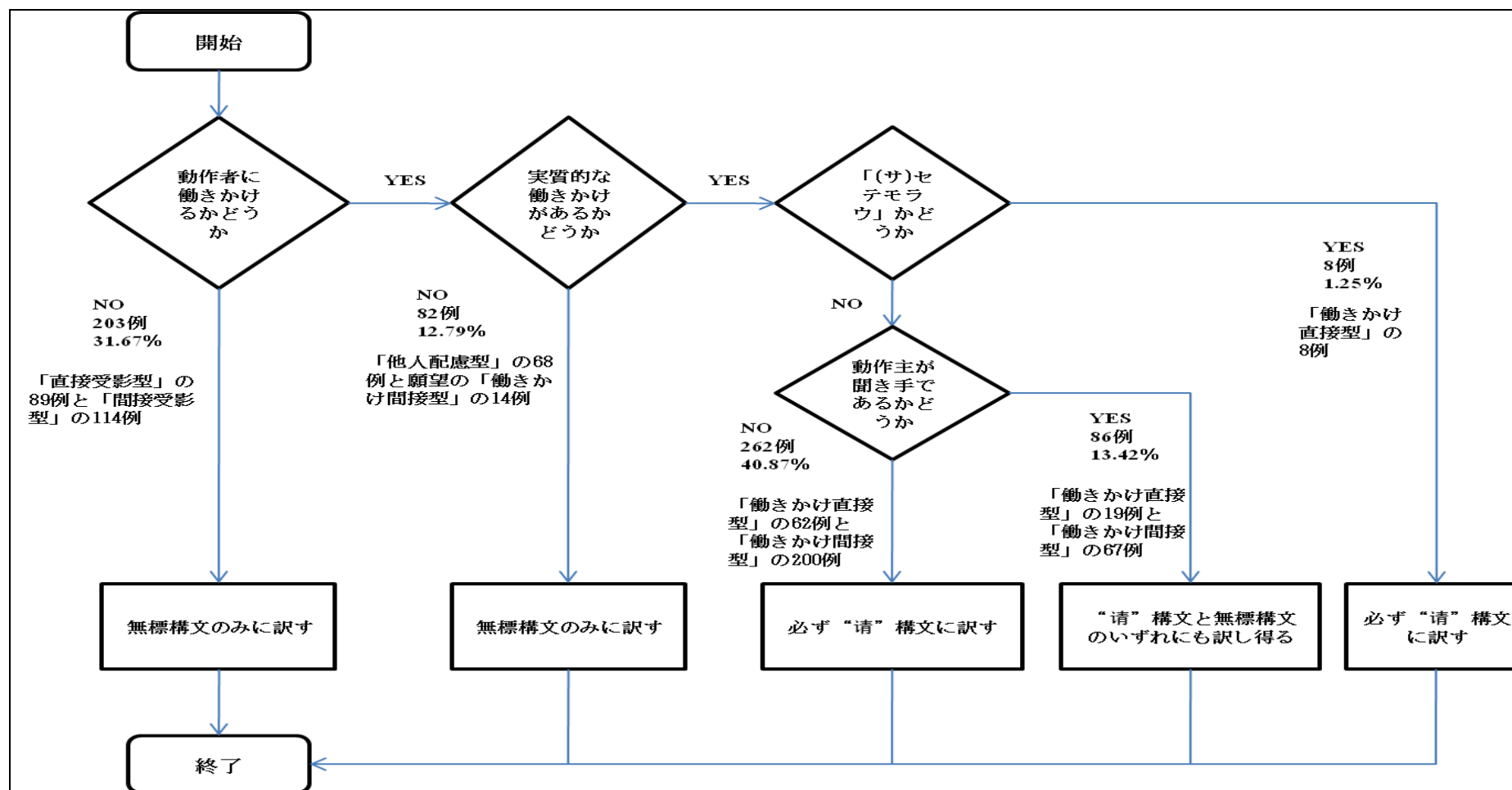


図2 「テモラウ」構文の日中翻訳のフローチャート (再掲)

第5章 終章

0 本章の概要

本章では、本論文全体の内容と結論をまとめ、今後の課題を述べる。

1 各章の概要および本論文の結論

本論文は五つの章からなっている。第2章から第4章までが本論文の中心的な部分である。

序章では、本論文の研究対象、研究方法、目的と意義について述べた。

第2章と第3章では、それぞれ「テヤル」構文と「テクレル」構文の日中翻訳規則に関することであるが、研究の手順がほぼ同様であるため、一括して説明することにする。

第2章と第3章では、「テヤル」構文と「テクレル」構文に関する日中対照研究を概観し、先行研究の問題点を指摘したうえで、コーパス調査を行い、「テヤル」構文と「テクレル」構文の日中翻訳状況をまとめた。さらに中国語の授受の有標構文のみに訳すのか、有標と無標構文のいずれにも訳し得るのか、無標のみに訳すのかといった基準で筆者の内省によって例文の翻訳を再整理した。そのうち、無標構文に訳される「テヤル」構文、「テクレル」構文の割合がもっとも高い。中国語の授受の有標構文に訳す文のうち、“給”構文に訳された「テヤル」構文と「テクレル」構文の比率が一番高い。そのため、先行研究で触れていない無標構文と“給”構文を軸にして、「テヤル」構文と「テクレル」構文の日中翻訳について議論を行った。

第2章と第3章では、山田(2004)が提唱した「受影者」の概念を導入し、受影者の格によって「テヤル」構文と「テクレル」構文を分類した。また「モノの授与」と「受影者の領域の変化」といった基準で、「テヤル」構文と「テクレル」構文の意味特徴を明らかにし、無標構文と“給”構文に訳す条件を究明した。

本論文で提唱した「モノの授与」と「受影者の領域の変化」とはそれぞれ以下のような

ことを意味する。

「モノの授与」は先行動詞の意味によるものと「テヤル」あるいは「テクレル」によるものに分けられる。

A 先行動詞の意味による「モノの授与」とは以下の A-1 と A-2 のいずれかに当たる。

A-1 先行動詞の動作対象にあたる具象物あるいは抽象物が先行動詞によって受影者に伝えられたり、移動したりすること。

A-2 先行動詞の動作対象とは異なる何らかの抽象物が先行動詞の動作によって受影者にもたらされること。

B 「テヤル」あるいは「テクレル」による「モノの授与」とは

先行動詞が表す動作で作成した具象物が「テヤル」または「テクレル」によって受影者に移動すること、あるいは先行動詞によって生じた何らかの抽象物が「テヤル」または「テクレル」によって受影者にもたらされることを指す。

「受影者の領域の変化」とは以下のア～ウのいずれかに当たる。

ア 受影者の領域に存在する具象物に好ましい物理的な変化が起こること。

イ 動作によって受影者の身体部位が「－状態」から「＋状態」に変わるという変化が生じること。但し、「0 状態」から「＋状態」に変わるという変化が含まれない。

ウ 先行動詞という動作によって受影者の領域に存在する抽象物がなくなること。

それを踏まえ、「テヤル」構文と「テクレル」構文の日中翻訳規則をまとめ、フローチャートを提案した。このフローチャートに基づけば、日中翻訳上先行研究の実例および問題点が統一的に説明できる。

フローチャートの有効性を検証するために、「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」(中納言)から「テヤル」構文、「テクレル」構文の実例をそれぞれランダムに 100 例抽出し、フローチャートに従い中国語に訳した。これらの文の容認度を複数の中国語ネイティブにチェックしてもらって検証を行い、検証の結果によってフローチャートを

修正した。その翻訳規則は以下の通りである。

I 「テヤル」構文の日中翻訳規則：

- ① 「テヤル」による「モノの授与」を表す「テヤル」構文は必ず“給”構文に訳さなければならない。
- ② 「ノ」格で受影者を導く「テヤル」構文においては、受影者の具体的な所有物に好ましい物理的な変化あるいは身体部位に「－状態」から「＋状態」になるという変化が生じる場合は“給”構文に訳さなければならない。受影者の所有物が抽象物である場合、その抽象物が消滅すれば、“給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。消滅しない場合は、“給”構文に訳せず、無標構文のみに訳す。
- ③ 先行動詞の意味による「モノの授与」を表す「テヤル」構文は、中国語の“給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。
- ④ 「ノタメニ」で受影者を導く「テヤル」構文では、受影者の領域にある具象物に物理的な変化が生じる場合、あるいは受影者の領域にある抽象物が消滅する場合は“給”構文に訳さなければならない。
- ⑤ 受影者が想定できない「テヤル」構文は“給”構文に訳せない。

II 「テクレル」構文の日中翻訳規則：

- ① 「テクレル」による「モノの授与」を表す「テクレル」構文は、必ず“給”構文に訳さなければならない。
- ② 先行動詞の意味による「モノの授与」を表す「テクレル」構文は、“給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。
- ③ 「ノタメニ」で受影者を導く「テクレル」構文では、受影者の領域に変化が生じる場合、必ず“給”構文に訳さなければならない。
- ④ 「ノ」格で受影者を導く「テクレル」構文においては、受影者の具体的な所有物に物理的な変化を生じる場合は“給”構文に訳さなければならない。受影者の所有物が抽象物である場合、その抽象物が消滅するならば、“給”構文と無標構文のいずれにも訳せる。
- ⑤ 「ノカワリニ」で受影者を導く「テクレル」構文では、受影者の領域に変化が起こる場合、“給”構文と“替”構文のいずれにも訳し得る。

- ⑥ 「カラ」格で受影者を導く「テクレル」構文では、受影者の領域に変化が起こる場合、“给”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。

第4章では、「テモラウ」構文の日中翻訳規則について分析を図った。先行研究では「テモラウ」構文の使役性から日中対照研究を行ってきた。本章では、先行研究と異なり、使役だけではなく、「テモラウ」構文の使役性と恩恵性をできるだけ構文構造によって表すことに関して分析を行った。コーパス調査のデータを踏まえ、さらに筆者の内省で無標のみ、有標と無標のいずれか、有標のみに訳すことによって「テモラウ」構文の日中翻訳のことを再整理した。その結果を踏まえ、無標構文と“请”構文を中心に説明を行った。さらに、「テモラウ」構文を受影者の格によってではなく、「動作主の存在か」「動作主に働きかける、あるいはその意識があるかどうか」「動作主の動作から直接影響をうけるか」といった基準を立て、「テモラウ」構文を「働きかけ直接型」「働きかけ間接型」「直接受影型」「間接受影型」「他人配慮型」五つのパターンに分類した。その上、それぞれの意味特徴を明らかにし、日中翻訳上無標構文と“请”構文との翻訳規則をまとめ、フローチャートを提案した。そのフローチャートに従って、訳した中国語の文をネイティブにチェックしてもらい、フローチャートの有効性を検証した。その翻訳規則は以下のとおりである。

Ⅲ「テモラウ」構文の日中翻訳規則：

- ① 動作主に働きかけることを表していない「直接受影型」と「間接受影型」の「テモラウ」構文は無標構文のみに訳す。
- ② 使役の形式をしても意味上実質的な働きかけではない「他人配慮型」と願望を表す「働きかけ間接型」の「テモラウ」構文は無標構文のみに訳す。
- ③ 実質的な働きかけを表す「サセテモラウ」構文は、“请”構文に訳さなければならない。
- ④ 動作主が聞き手である実質的な働きかけを表す「働きかけ直接型」と「働きかけ間接型」の「テモラウ」構文は“请”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。
- ⑤ 動作主が聞き手ではなく、実質的な働きかけを表す「働きかけ直接型」と「働きかけ間接型」の「テモラウ」構文は、“请”構文に訳さなければならない。

2 今後の課題

本論文では、日本語を中国語に訳すいわゆる日中翻訳の角度から、「テヤル」構文、「テクレル」構文、「テモラウ」構文の日中翻訳規則を提案した。対訳コーパス調査の結果に基づき、対応率が一番高い“给”構文と“请”構文を軸にし、分析を進めてきた。コーパスから検索されたほかの中国語の授受有標構文に関して、例えば、“为”構文、“替”構文、“帮”構文、“让”構文には論述の中で補助説明の対象として触れているが、深く言及していない。日本語の授受補助動詞構文をこれらの有標構文に訳す条件の検討は今後の課題の一つとしてさらに研究する必要があると思う。

また、フローチャートに関する検証では、「言う」「話す」「声をかける」といった「発話内容動詞」と共起する「テヤル」「テクレル」構文では、“给”構文ではなく、“对”“跟”“向”の中国語の表現に訳するのが自然であると、調査協力者が指摘している。その使い分けに関して、今後さらに詳しく考察しなければならないと考える。

本論文では、「てくれ」「てくれないか」「てください」「てもらえないか」「てもらえないだろうか」といったモダリティの表現が研究対象に入っていない。翻訳上、中国語の“请…吧”、“能不能”、“能…吗”、“…可以吗”、“…行不行”、“…好不好”など様々なバリエーションによって対応することができるが、それについてさらに研究する余地があると考えられる。

本論文では、人間翻訳の目線から、翻訳規則を提案した。その翻訳規則を生かして、機械翻訳の研究の参考になればと思う。今後も機械翻訳への提案に関して、本論文の成果を活用することおよび翻訳規則をさらに精密化させることを目指す。

参考文献一覧

1 日本語の参考文献

(著者名の五十音順で並べる)

- 庵 功雄 (2011) 「日本語教育から見たヤリモライ表現」『日本語学』30(11) 明治書院 pp. 50-58
- 井島 正博 (1997) 「授受動詞文の多層的分析」『成蹊大学文学部紀要』32 成蹊大学文学部 pp. 63-94
- 伊藤 博美 (2010) 「授受構文における受益と恩恵および丁寧さ-「てくれる」文と「てもらう」文を中心として-」『日本語学論集』6 東京大学大学院人文社会系研究科国語研究室 pp. 151-132
- 井上 優 (2011) 「日本語・韓国語・中国語の「動詞+授受動詞」」『日本語学』30(11) 明治書院 pp. 38-48
- 上原 由美子 (2007) 「「ていただく」の機能-尊敬語との互換性に着目して-」『Scientific Approaches To Language』6 神田外語大学言語科学研究センター紀要 pp. 185-207
- 宇都宮 陽子 (2005) 「「待遇表現」としての「～(さ)せていただく」に関する一考察」『早稲田大学日本語教育研究』6 pp. 29-44
- 王 燕 (2003) 「授与補助動詞の受益者指示機能について-中国語話者を対象とする日本語教育の立場から」『言語情報科学』(1) 東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻 pp. 51-66
- (2008) 「「～テヤル」の派生的な意味機能について」『北陸大学 紀要』32 pp. 193-210
- 王 婉莹 (1998) 「「せる・させる」「～てもらう」「～ように言う」の日中語対照研究-中国人学習者の習得面から-」『日本語教育』99号 pp. 36-47
- 王 恬 (1990) 「「～てもらう」文の意味と統語的特徴-「～(さ)せる」文との比較を兼ねて-」『東京外国語大学・日本語学科年報』12 pp. 33-45

- 大河内 康憲 (1982) 「中国語の受身」『講座日本語学』10 pp. 319-332
- 大曾 美恵子 (1983) 「授動詞文と二名詞句」『日本語教育』50 pp. 118-124
- 奥津 敬一郎 (1984) 「授受動詞文の構造-日本語・中国語対照研究の試み-」 金田一
春彦博士古稀記念論文集編集委員会編 『金田一春彦博士古稀記念
論文集 第二卷言語学篇』 三省堂 pp. 65-88
- 奥津 敬一郎・徐 昌華 (1982) 「「～てもらう」とそれに対応する中国語表現-“请”
を中心に-」『日本語教育』46 pp. 92-104
- 太田 辰夫 (1957) 「「给」について」神戸外大論叢 7(1~3) pp. 177-197
- 加賀 信広 (1997) 「日英語の受益構文と意味役割」筑波大学現代言語学研究会編『ヴ
ォイスに関する比較言語学的研究』三修社 pp. 75-85
- 金澤 裕之 (2007) 「「～てくださる」と「～ていただく」について」『日本語の研究』
3(2) pp. 47-53
- 関 光世 (2001) 「“V 给”文の意味特徴に関する考察」『中国語学』248 pp. 153-167
- 北村 康晴 (2005) 「補助動詞「(～)てやる」を考察する-英語に同様の働きは存在する
か」『立命館英米文学』14 pp. 95-113
- 金 殷模 (2003) 「いわゆる非恩恵の「～てやる」における受け手の再検討」『言語
科学論集』7 東北大学 pp. 23-34
- (2009) 「「てくれる」文の基本的意味と周辺の意味との関係」『言語科学論
集』13 東北大学大学院文学研究科言語科学専攻 pp. 95-110
- 木村 英樹 (2000) 「“给”が使えない「ために」」『中国語』10 内山書店 pp. 32
- (2012) 『中国語文法の意味とカタチ-「虚」的意味の形態化と構造化に
関する研究-』 白帝社
- 工藤 和也 (2010) 「日本語直接受益構文の意味構造-「てやる」を中心に」『レ
キシコンフォーラム』5 ひつじ書房 pp. 137-164
- 久野 暲 (1978) 『談話の文法』 大修館書店
- 熊田 道子 (2001) 「待遇意識からみた「～てくれる」系表現と「～てもらう」系表
現：「恩恵の与え手が恩恵行為を行うことに対する配慮意識を中
心に」『国語学研究と資料』24 pp. 15-28
- 黄曉兵・池田尚志 (2008) 「日中機械翻訳における授受表現「てくれる」構文の翻訳処
理について」第七回情報科学技術フォーラム pp. 179-182

- 高 靖 (2002) 「現代日本語のヤリモライに対する中国語の訳について」『日本文学論集』26 大東文化大学大学院日本文学専攻院生会 pp. 116-109
- 佐々木 勲人 (1994) 「中国語の受益文」『言語文化論集』38 筑波大学 pp. 315-325
- (1997) 「中国語における使役と受動の曖昧性」『ヴォイスに関する比較言語学的研究』三修社 pp. 133-160
- (2009) 「授与動詞を含む複合動詞の文法化-“V 給”と“V テヤル”の対照から」『日語動詞及相關研究-日語語言学前沿叢書』 pp. 207-214
- 澤田 淳 (2004) 「日本語の受益構文に対する認知的・語用論的アプローチ : 「ウチ / ソト」性条件再考」『早稲田大学日本語教育研究』5 pp. 113-123
- (2005) 「日本語の受益構文と「主体化」: ～てくれる」構文と「～てやる」構文の比較」『日本認知言語学会論文集』5 pp. 441-450
- (2006) 「日本語の授受構文のヴォイス的特性-X が Y に V てもらう」構文が有する「受動性」と「使役性」を中心に」『日本認知言語学会論文集』6 pp. 139-149
- (2007) 「日本語の受益構文の格表示と物の授受性-認知言語学的アプローチ」『言語科学論集』13 pp. 71-83
- (2007) 「日本語の授受構文が表す恩恵性の本質-「てくれる」構文の受益者を中心として」『日本語文法』7(2) pp. 83-100
- (2009) 「日本語の他動詞構文と受益構文の構文ネットワーク-日英語の対照分析を含めて-」『KLS』29 関西言語学会 pp. 215-225
- (2014) 「日本語の授与動詞構文の構文パターンの類型化-多言語との比較対照と合わせて-」『言語研究』145 pp. 27-60
- 柴谷 方良 (1978) 『日本語の分析』大修館書店
- 朱 徳熙(著)杉村 博文・木村 英樹(訳) (1995) 『文法講義-朱徳熙教授の中国語文法要説』白帝社
- 譙 俊凱 (2015) 「「テヤル」構文と“給”構文との対応について-身体部位に対して働きかける場合」『筑波日本語研究』第十九号 pp. 13-27
- (2016) 「「テモラウ」文と“请”構文との日中翻訳規則について」『筑波日本

語研究』 第二十号 pp. 33-49

- 城田 俊 (1996) 「話場応接態(いわゆる「やり・もらい」-「外」主語と「内」主語-」
『国語学』186 国語学会 pp. 1-14
- 杉村 泰 (2002) 「中国語の“給人”と日本語の「人に」」『言語と文化』3 名古屋大学大学院 国際言語文化研究科 日本言語文化専攻 pp. 63-78
- 杉村 博文 (2007) 「中国語授与構文のシンタクス」『大阪外国語大学論集』35
pp. 65-96
- 孫 成志 (2014) 「「～テクレル」構文に関する語用論的考察」『東アジア日本語教育・日本文化研究』17 東アジア日本語教育・日本文化研究学会
pp. 333-349
- 高見 健一・加藤 鉦三 (2003a) 「受益表現と話し手の視点」『言語』32(1) 大修館書店 pp. 140-145
- (2003b) 「「～てやる」表現の意味の多様性と基本的意味」『言語』32(2) 大修館書店 pp. 94-99
- (2003c) 「「～てやる」表現の基本スキーマと意味の多様性」
『言語』32(3) 大修館書店 pp. 104-109
- (2003d) 「「～てあげる」表現の意味」『言語』32(4) 大修館書店 pp. 100-105
- (2003e) 「「～てくれる/もらう」表現の基本的意味」『言語』32(5) 大修館書店 pp. 96-101
- (2003f) 「「～てくれる」と「～てもらう」の相違」『言語』32(6) 大修館書店 pp. 96-101
- 高見 健一・久野 暁 (2002) 『日英語の自動詞構文』 研究社
- 玉置 充子 (2006) 「恩恵を表さない「テクレル」の用法」『拓殖大学日本語紀要』16 拓殖大学国際部 pp. 31-42
- 千葉 史子 (2008) 「「～のために」を表す“給”と“为”」『金沢大学中国語学中国文学教室紀要』11 pp. 49-76
- 張 威 (1993) 「中国語再帰動詞及びその特殊用法-“給～+再帰動詞”をめぐって-」『中京大学教養論叢』34(2) pp. 531-555
- 寺村 秀夫 (1982) 『日本語のシンタクスと意味 I』 くろしお出版

- (1984) 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』 くろしお出版
- 豊田 豊子 (1974) 「補助動詞「やる・くれる・もらう」について」『日本語学校論集』
1 東京外国語大学外国語学部附属日本語学校 pp. 77-96
- 部田 和美 (2009a) 「授受動詞「ヤル・クレル・モラウ」文の意味分析—抽象的対象物
を含む授受動詞文を中心に—」『言語学論叢』オンライン版第2
号 pp. 33-47
- (2009b) 「テヤルの意味分析—非恩恵を表すとされるテヤルを中心に—」
『言語学論叢』4 pp. 16-28 筑波大学一般・応用言語学研究室
- 永江 貴子 (2005) 「“帮”と“给”の共通点と差異」『お茶の水女子大学中国文学會
報』24 pp. 47-61
- 中崎 温子 (2002) 「「無生主語+～てくれる」文の「非用」の考察」『日本語教育学
会秋季大会予稿集』 pp. 129-134
- 成戸 浩嗣 (2015a) 「日中対照研究方法論(1)“给・N+V”表現と「N・格助詞」を用いた日
本語動詞表現(上)」『愛知学泉大学現代マネジメント学部紀要』愛
知学泉大学現代マネジメント学部 pp. 77-86
- (2015b) 「日中対照研究方法論(1)“给・N+V”表現と「N・格助詞」を用いた日
本語動詞表現(下)」『愛知学泉大学現代マネジメント学部紀要』愛
知学泉大学現代マネジメント学部 pp. 21-30
- (2016) 「日中対照研究方法論(2)“给・N+V”表現とそれに対応する日本語使
役表現、受益表現(上)」『愛知学泉大学現代マネジメント学部紀要』
愛知学泉大学現代マネジメント学部 pp. 27-40
- 西川 真理子 (1995) 「てくれる」についての一考察—「てやる/もらう」との比較から—
『言語文化研究』21 大阪大学言語文化研究科 pp. 241-254
- 仁田 義雄 (1982) 「再帰動詞・再帰用法—Lexico-Syntax の姿勢から」『日本語教育』
47 pp. 79-90
- 仁田 義雄 益岡 隆志共編 (1989) 『日本語のモダリティ』くろしお出版
- 沼田 善子 (1999) 「授受動詞文と対人認知」『日本語学』18 pp. 46-54
- 橋本 良明 (2001) 「授受表現の語用論」『言語』30(5) 大修館書店 pp. 46-51
- 早津 恵美子 (2015) 「日本語の使役文の文法的な意味—「つかいだて」と「みちびき」

-」 『言語研究』 148 pp. 143-174

- 黄 順花 (1996) 「日本語のシテヤル・シテクレル」 『国文学解釈と鑑賞』 61(7)
pp. 86-93
- (2001) 「寄与態における受益者のあらわれ方―連語論的な構造に関係づけて」 『国文学解釈と鑑賞』 66(7) pp. 149-157
- 堀口 純子 (1987) 「「～テクレル」「テモラウ」の互換性とムード的意味」 『日本語学』 6(4) pp. 59-72
- 益岡 隆志 (2001) 「日本語における授受動詞と恩恵性」 『言語』 30(5) 大修館書店
pp. 26-32
- (2013) 『日本語構文意味論』 くろしお出版
- 松浦 とも子 (2003) 「使役型でもらう」構文の日中対照研究:中国語母語話者の授受表現における母語の影響」 『早稲田大学日本語教育研究』 3
pp. 111-124
- 松下 大三郎 (1927) 『標準漢文法』 紀元社
- (1928) 『改撰標準日本文法』 紀元社
- 三宅 知宏 (1996) 「日本語の受益構文について」 『国語学』 186 pp. 104-91
- 宮地 裕 (1965) 「「やる・くれる・もらう」を述語とする文の構造について」 『国語学』 63 pp. 21-33
- 山口 響史 (2015) 「補助動詞テモラウの機能拡張」 『日本語の研究』 11(4) pp. 1-17
- 山田 敏弘 (1999) 「テモラウ受益文の働きかけ性をめぐって」 『阪大日本語研究』 11
pp. 37-57
- (2004) 『日本語のベネファクティブ―「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法』 明治書院
- 山田 仁子 (1997) 「補助動詞やりもらい文における助詞について」 『言語文化研究』 4
pp. 137-151
- 山橋 幸子 (1999) 「「てくれる」の意味機能―「てあげる」との対比において」 『日本語教育』 103 pp. 21-30
- (2000) 「「てもらう」の機能と受益との関わり」 『札幌大学文化学部紀要』 6 pp. 55-68
- (2003) 「「(て)やる/あげる」の構造:受け手の形式をめぐって」 『比較文化

論叢』 札幌大学文化学部紀要 11 pp. 19-35

山本 裕子 (2002) 「「～テモラウ」の機能について―「～テクレル」と対比して」『名古屋女子大学紀要 人文・社会編』 48 pp. 263-276

楊 凱栄 (1987) 『日本語と中国語の使役表現に関する対照研究』 筑波大学言語学博士学位請求論文

(1994) 「受益表現について―“給”と「てあげる・てくれる」との比較を中心に」『九州国際大学教養研究』 第1巻第1号 pp. 103-124

(2009) 「中日受益表現と所有構造の対照研究」『日中言語研究と日本語教育』 2 好文出版 pp. 1-12

吉田 妙子 (2012) 『日本語動詞テ形のアスペクト』 晃洋書房

李 晶 (2013) 『近代日本語における授受表現の発達』 筑波大学博士(言語学)学位請求論文

李 森 (2009) 「「～テクレル」と中国語の“給(我)”の対照研究」 國學院雑誌 110(7) 國學院大學総合企画部 pp. 1-14

劉 月華 ほか著 相原茂監訳 片山博美 ほか訳 (1988) 『現代中国語文法総覧(上)』 くろしお出版

盧 濤 (1993) 「『給』の機能語化について」『中国語学』 第240号 日本中国語学会 pp. 60-69

(2000) 『中国語における「空間動詞」の文法化研究-日本語と英語との関連で-』 白帝社

渡辺 裕司 (1993) 「授受表現における授受の方向性Ⅱ―補助授与動詞の文において恩恵(好意)の方向を示す名詞句―」東京大学留学生日本語教育センター論集 19 pp. 29-42

2 中国語の参考文献

(著者名のアルファベット順で並べる)

范晓 (1987) 《介词短语“给 N”的语法意义》《汉语学习》 4 pp. 1-2

黄瓚辉 (2001) 《介词“给”“为”“替”用法补议》《暨南大学华文学院学报》 1 pp. 49-54

- 李晓琪 (1994) 《介词“给、为、替”——兼论对外汉语虚词教学》 《语法研究与语法运用》 北京语言学院出版社 pp. 265-276
- 刘永耕 (2005) 《动词“给”语法化过程的义素传承及相关问题》 《中国语文》 2 pp. 130-138
- 吕叔湘 (1980) 《现代汉语八百词》 北京商务印书馆
- 马乃田 (2003) 《试说兼语结构与“请”》 《河南教育学院学报(哲学社会科学版)》 4(22) pp. 78-80
- 譙俊凯 (2016) 《试析日语「テクレル」句式和汉语“给”句式的对应条件》 《现代语言学》 4(4) pp. 167-176
- 邵敬敏 (2009) 《从“V 给”句式的类化看语义的决定性原则》 《语言教学与研究》 6 pp. 1-8
- 沈家煊 (1999) 《“在”字句和“给”字句》 《中国语文》 269 pp. 94-102
- 沈力 (1996) 《谈汉语的使役句和被动句的结构》 《中国語学》 243 pp. 75-84
- 石毓智 (2004) 《兼表被动和处置的“给”的语法化》 《世界汉语教学》 3 pp. 15-26
- 王燕 (2003) 《谈给予补助动词知识受益者的语法功能》 《日语学习与研究》 2 pp. 13-19
- 张伯江 (1999) 《现代汉语的双及物结构式》 《中国语文》 270 pp. 175-184
- 朱德熙 (1979) 《与动词“给”相关的句法问题》 《方言》 2 pp. 81-87

例文の出典

- 1 中日対訳コーパス 北京日本研究セター 2003
- 2 現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ-NT) 中納言
<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search>
- 3 現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ) 少納言
http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/search_form
- 4 北京大学 CCL 语料库(网络版)
http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/index.jsp?dir=xiandai

各章と既発表論文との関係

第1章 序章 新規執筆

第2章

譙俊凱 (2014) 「「テヤル」構文に対応する中国語の表現一人の身体の一部に対する働きかけの場合」 第六回漢日対比言語大会予稿集 (於中国人民大学) pp. 199

譙俊凱 (2015a) 「「テヤル」構文と“給”構文との対応について—身体部位に対して働きかける場合」『筑波日本語研究』 第十九号 pp. 13-27

第3章

譙俊凱 (2016b) 《试析日语「テクレル」句式和汉语“给”句式的对应条件》
《现代语言学》4(4) 汉斯出版社 pp. 167-176

第4章

譙俊凱 (2015b) 「日本語の「テモラウ」文と中国語の“请”構文との対照について」
東アジア若手研究者フォーラム予稿集 (於台湾国立政治大学)
pp. 125-136

譙俊凱 (2015c) 《关于日语的「テモラウ」句式和汉语“请”句式的对比—以两者的意义分析为中心—》 第七回漢日対比言語大会予稿集 (於上海外国语大学) pp. 140

譙俊凱 (2016a) 「「テモラウ」文と“请”構文との日中翻訳規則について」『筑波日本語研究』 第二十号 pp. 33-49

第5章 終章 新規執筆